

| | | | | | | |
|----------------|--|---|----------|------|----------|-------|
| 【3P1S203】ピアノ | | 音楽総合学科 | 2年前期 | | | |
| 2単位 | | 選択 | 演習 | 30時間 | | |
| 教員 | 横井 香織・三ツ橋 義晴 | | | | | |
| 資格・制限等 | 特になし | | | | | |
| 実務家教員 | 横井：音楽教室講師・10年 三ツ橋：音楽教室講師・9年 | | | | | |
| 授業方法 | 演習を中心とした個人レッスンを行います。音楽的知識や技術・表現力修得の確認のため、中間発表(中間試験)も含めて授業を展開していきます。質問等は授業時やメール等で受け付けます。 | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 音楽的知識を身に付けて楽譜の理解に努め、作曲家や作品についての知識も修得し、楽曲理解に繋げることができる。 | | | | |
| | 思考・判断・表現 | 音色や響きを追求し、楽曲にふさわしい演奏表現をすることができる。 | | | | |
| | 技能 | より高度な演奏技術の向上に努めることができる。 | | | | |
| | 関心・意欲・態度 | 音楽的感性を養う努力をし、指導者と円滑なコミュニケーションを図りながら、積極的な取り組みができる | | | | |
| | 備考 | ・・の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。 | | | | |
| 授業内容 | 1年次に修得した演奏テクニックを発展させ、近現代の作品を中心に、テクニックと表現力が調和した高度な音楽作りを目指します。 音楽関連の知識を豊富にし、表現力豊かで魅力的な演奏ができるようにしていきます。 | | | | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 評価方法 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 実技試験 | - | 30 | 30 | - | 60 |
| | 中間発表(中間試験) | - | 5 | 5 | - | 10 |
| | 受講態度 | 15 | - | - | 15 | 30 |
| | | | | | | |
| | 合 計(点) | 15 | 35 | 35 | 15 | 100 |
| 評価の特記事項 | 実技試験は近現代曲の演奏を最終試験(前期定期試験)で行います。中間発表(中間試験)はスケール・アルペジオ、エチュードの演奏です。フィードバックとして中間発表(中間試験)、実技試験実施後に講評を行います。受講態度は学修への取組状況で評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験(実技試験)の受験資格はありません。 | | | | | |
| ICT活用 | ICTを活用した自主学習支援(Gmailなど) | | | | | |
| アグティブ・ラーニングの活用 | 発表 | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | 毎週の課題については次回の授業でコメントし、指導に活かします。 | | | | | |
| テキスト | 『全訳ハノンピアノ教本』全音楽譜出版社(または手持ちのもの)(1,430円)ISBN:978-4-11-104010-0 『ソルニーニ30番以上の練習曲』指定なし 『J.S.バッハ：インヴェンション・シンフォニア』指定なし 前年度購入済 | | | | | |
| 参考書・教材 | 個々に合わせて選択します。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 ~ 7 | ハノン、練習曲、バッハ、近現代の作品～中間発表(中間試験)曲を中心に～ ・譜読みの確認 ・テクニックの向上 ・音楽用語の確認 ・曲想 ・音色研究 ・音楽表現など 課題の確認 [課題(準備・復習)] 毎回のレッスンでのアドバイスを踏まえ、各課題に取り組み、準備・復習をする (各2~3h) | | | | | |
| 8 | 中間発表(中間試験)：調号4つ・5つのスケール・アルペジオ、練習曲 ハノン、練習曲、バッハ、近現代の作品～試験曲を中心に～ [課題(準備・確認)] 中間発表(中間試験)に向けて弾き込む レッスンでのアドバイスを踏まえ、各課題に取り組み、準備・復習をする(2~3h) | | | | | |
| 9 ~ 15 | ハノン、練習曲、バッハ、近現代の作品～試験曲を中心に～ ・正確な譜読み ・テクニックの向上 ・音楽用語の理解 ・曲想 ・音色研究 ・豊かな表現力など 課題の確認 [課題(準備・復習)] 毎回のレッスンでのアドバイスを踏まえ、各課題に取り組み、準備・復習をする (各2~3h) | | | | | |
| 時間外での学修 | 各々の課題について、授業外で細かく深く練習しましょう。また、練習時間以外にも、演奏会に積極的に出掛け、様々な音楽を聴く、作曲家や作品について調べる、西洋の風景や歴史・文化を知るなど、幅広く音楽的素養を身に付け、感性を磨いてください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30~45時間】 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 音楽を頭で考え、心で感じて演奏しましょう。 オフィスアワーは各レッスン室で授業前後の休み時間です。 | | | | | |

| | | | | | | |
|----------------|--|---|----------|----|----------|-------|
| 【3P1A204】ピアノ | | 音楽総合学科 | 2年後期 | | | |
| 教員 | 横井 香織・三ツ橋 義晴 | 2単位 | 選択 | | | |
| 資格・制限等 | 特になし | | | | | |
| 実務家教員 | 横井：音楽教室講師・10年 三ツ橋：音楽教室講師・9年 | | | | | |
| 授業方法 | 演習を中心とした個人レッスンを行います。音楽的知識や技術・表現力修得の確認のため、中間発表(中間試験)も含めて授業を展開していきます。質問等は授業時やメール等で受け付けます。 | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 音楽的知識を身に付けて楽譜の理解に努め、作曲家や作品についての知識も修得し、楽曲理解に繋げることができる。 | | | | |
| | 思考・判断・表現 | 音色や響きを追求し、楽曲にふさわしい演奏表現をすることができる。 | | | | |
| | 技能 | より高度な演奏技術を身に付けることができる。 | | | | |
| | 関心・意欲・態度 | 音楽的感性を磨く努力をし、指導者と円滑なコミュニケーションを図りながら、積極的な取り組みができる。 | | | | |
| | 備考 | ・・の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。 | | | | |
| 授業内容 | より高度な音楽作りを心掛け、個々の希望する曲などは可能な限り取り入れ、最大限の成長を目指します。幅広く音楽関連の素養を身に付け、音楽表現もより豊かにし、魅力的で感動的な演奏ができるようにしていきます。 | | | | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 評価方法 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 実技試験 | - | 30 | 30 | - | 60 |
| | 中間発表(中間試験) | - | 5 | 5 | - | 10 |
| | 受講態度 | 15 | - | - | 15 | 30 |
| | | | | | | |
| | 合 計(点) | 15 | 35 | 35 | 15 | 100 |
| 評価の特記事項 | 実技試験は任意の曲の演奏を最終試験(後期定期試験)で行います。中間発表(中間試験)はスケール・アルペジオ、バッハの演奏です。フィードバックとして、中間発表(中間試験)、実技試験実施後に講評を行います。受講態度は学修への取組状況で評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験(実技試験)の受験資格はありません。 | | | | | |
| ICT活用 | ICTを活用した自主学習支援(Gmailなど) | | | | | |
| アグティブ・ラーニングの活用 | 発表 | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | 毎週の課題については次回の授業でコメントし、指導に活かします。 | | | | | |
| テキスト | 『全訳ハノンピアノ教本』全音楽譜出版社(または手持ちのもの)(1,430円)ISBN:978-4-11-104010-0 『ソルニーニ30番以上の練習曲』指定なし 『J.S.バッハ：インヴェンション・シンフォニア』指定なし 前年度購入済 | | | | | |
| 参考書・教材 | 個々に合わせて選択します。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 ~ 7 | ハノン、練習曲、バッハ、自由曲 ~ 中間発表(中間試験)曲を中心に~ ・譜読みの確認 ・テクニックの向上 ・音楽用語の確認 ・曲想 ・音色研究 ・音楽表現 など 課題の確認 [課題(準備・復習)] 毎回のレッスンでのアドバイスを踏まえ、各課題に取り組み、準備・復習をする (各2~3h) | | | | | |
| 8 | 中間発表(中間試験)：調号6つのスケール・アルペジオ、バッハ インヴェンション・シンフォニア・平均律のいずれか1曲 ハノン、練習曲、バッハ、試験曲 ~ 試験曲を中心に~ [課題(準備・復習)] 中間発表(中間試験)に向けて弾き込む レッスンでのアドバイスを踏まえ、各課題に取り組み、準備・復習をする(2~3h) | | | | | |
| 9 ~ 15 | ハノン、練習曲、バッハ、自由曲 ~ 試験曲を中心に~ ・正確な譜読み ・テクニックの向上 ・音楽用語の理解 ・曲想 ・音色研究 ・豊かな表現力 など 課題の確認 [課題(準備・復習)] 毎回のレッスンでのアドバイスを踏まえ、各課題に取り組み、準備・復習をする (各2~3h) | | | | | |
| 時間外での学修 | 各々の課題について、授業外で細かく深く練習しましょう。また、練習時間以外にも、演奏会に積極的に出掛け、様々な音楽を聴く、作曲家や作品について調べる、西洋の風景や歴史・文化を知るなど、幅広く音楽的素養を身に付け、感性を磨きましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間: 30~45時間】 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 音楽を頭で考え、心で感じて演奏しましょう。 オフィスアワーは各レッスン室で授業前後の休み時間です。 | | | | | |

| | | | | | | | |
|--------------------|---|---|----------|----|----------|-------|--|
| 【3P1S207】ピアノキャリア実践 | | 音楽総合学科 | 2年前期 | | | | |
| 教員 | 三ツ橋 義晴 | 2単位 | 選択 | | | | |
| 資格・制限等 | 特になし | | | | | | |
| 実務家教員 | 三ツ橋 義晴 | | | | | | |
| 授業方法 | 演習を中心とした個人指導を行います。質問などは授業時やメールで受け付けます | | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 基本的知識を理解し、応用することができる | | | | | |
| | 思考・判断・表現 | 即興演奏や伴奏付けにおいて適切な演奏法を判断することができる | | | | | |
| | 技能 | 初見演奏、弾き歌い、伴奏付けなどにおいて的確な演奏をすることができる | | | | | |
| | 関心・意欲・態度 | 積極的な取り組みが継続できる | | | | | |
| 授業内容 | ヤマハやカワイのピアノ演奏グレード、及び指導グレードの学習を中心に個々の希望進路に合わせた内容を学習します | | | | | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 評価方法 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) | |
| | 受講態度 | - | - | - | 30 | 30 | |
| | 実技試験 | 20 | 20 | 30 | - | 70 | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | 合 計(点) | 20 | 20 | 30 | 30 | 100 | |
| 評価の特記事項 | 実技試験は最終授業で行います。フィードバックとして試験実施後に講評を行います。 全授業の1/3以上の欠席の場合、実技試験の受験資格はありません | | | | | | |
| ICT活用 | ICTを活用した自主学習支援 (Gmailなど) | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの活用 | グループワーク・発表等 | | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | 毎週の課題については次回の授業でコメントし、指導に活かします | | | | | | |
| テキスト | | | | | | | |
| 参考書・教材 | 個々に合わせて提示します | | | | | | |
| 内容 | | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | | |
| 1 ~ 15 | ヤマハ演奏グレード ・即興演奏(変奏、モチーフ) ・初見演奏 ヤマハ指導グレード ・弾き歌い ・理論 ・和声等 課題の確認 ・学習した内容を復習し理解する 【課題(準備・復習)】基礎知識を理解し、レッスンでのアドバイスを踏まえ、各課題に取組み、準備・復習をする。(各2~3H) | カワイ演奏グレード ・固有和音 ・ドッペルドミナント、属七の和音等 カワイ指導グレード ・理論 和声等 | | | | | |
| 時間外での学修 | 毎回課題を提出しますので、必ず授業外で練習し、技能習得に努めましょう この科目で求める望ましい授業外での総学習時間30~45時間 | | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 練習を怠らず、グレード取得に向かって取り組んで下さい オフィスアワーは休み時間に行います | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|--------------------|---|--|----------|------|----------|-------|--|--|
| 【3P1S207】ピアノキャリア実践 | | 音楽総合学科 | 2年前期 | | | | | |
| 2単位 | | 選択 | 演習 | 30時間 | | | | |
| 教員 | 横井 香織 | | | | | | | |
| 資格・制限等 | 特になし | | | | | | | |
| 実務家教員 | 音楽教室講師：10年 | | | | | | | |
| 授業方法 | 演習を中心とした個人指導を行います。知識の理解と技術修得に向け、小グループでの活動や発表も含めて授業を展開していきます。質問等は授業時やメール等で受け付けます。 | | | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | ・和音進行の知識を理解し、応用することができる。 ・幅広く音楽的知識を修得し、楽曲理解に繋げることができる。 | | | | | | |
| | 思考・判断・表現 | ・調性感・和声感をもって、音楽的に演奏することができる。 ・適切な演奏法を判断し、音色や響きを追求した演奏表現をすることができます。 | | | | | | |
| | 技能 | ・適切な和音や伴奏形で演奏することができる。 ・より高度な演奏技術の向上に努めることができます。 | | | | | | |
| | 関心・意欲・態度 | ・積極的な取り組みが継続できる。 ・音楽的感性を養う努力をすることができる。 | | | | | | |
| | 備考 | ・・・の記号は、DP-到達目標との結びつきの強さを示しています。 | | | | | | |
| 授業内容 | カワイピアノ演奏グレードの学修や、ピアノ演奏の更なる追求など、個々の希望に合わせた内容を学修します。 | | | | | | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 評価方法 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) | | |
| | 実技試験 / 課題 | 20 | 20 | 20 | - | 60 | | |
| | 受講態度 | 10 | 10 | 10 | 10 | 40 | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | 合 計(点) | 30 | 30 | 30 | 10 | 100 | | |
| 評価の特記事項 | 実技試験は最終試験で行います。課題は個々に提示します。フィードバックとして実技試験実施後に講評を行います。受講態度は学修への取組状況で評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験の受験資格はありません。 | | | | | | | |
| ICT活用 | ICTを活用した自主学習支援 (Gmailなど) | | | | | | | |
| アグティブ・ラーニングの活用 | 特になし | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | 毎週の課題については次回の授業でコメントし、指導に活かします。 | | | | | | | |
| テキスト | | | | | | | | |
| 参考書・教材 | 個々に合わせて提示します。 | | | | | | | |
| 実施回 | | 内容 | | | 授業内容・目標 | | | |
| 1~15 | | カワイピアノ演奏グレード | | | | | | |
| | | ・T-D-Tの4小節トレーニング ・T-S-D-Tの4小節トレーニング ・の第2転回形を含む4小節トレーニング ・T-S-Tを含む4小節トレーニング ・8小節トレーニング ・ドッペルドミナントを含むパターン ・総合課題 課題の確認 [課題(準備・復習)]基礎知識を理解し、レッスンでのアドバイスを踏まえ、各課題に取組み、準備・復習をする。(各2~3h) | | | | | | |
| 時間外での学修 | | 毎回課題を提示しますので、授業外で必ず練習を行い、授業時に演奏できるようにしましょう。学修した内容を授業外で復習し、知識修得に努めましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30~45時間】 | | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | | 自己学修を怠らず、上級グレード取得に向けて取り組みましょう。分からぬことは質問するなどし、必ず解決しましょう。 音楽的素養を更に身に付け、感性を磨き、自分の技術や音楽性を充分に表現できるよう幅広い学修を行いましょう。 オフィスアワーはB206で月曜日2・3限目です。 | | | | | | |

| 【3P1A208】ピアノキャリア実践 | | 音楽総合学科 | 2年後期 | | | |
|--------------------|--|------------------------------------|----------|----|---|-------|
| 教員 | 2単位 | | 選択 | 演習 | | |
| 資格・制限等 | 30時間 | | | | | |
| 実務家教員 | 三ツ橋 義晴 | | | | | |
| 授業方法 | 演習を中心とした個人指導を行います。質問などは授業時やメールで受け付けます | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 基礎的な知識を理解し、応用することができる | | | | |
| | 思考・判断・表現 | 即興演奏や伴奏付けにおいて、適切に演奏することができる | | | | |
| | 技能 | 初見演奏、弾き歌い。伴奏付けなどにおいて、適切に演奏することができる | | | | |
| | 関心・意欲・態度 | 説教的な取り組みが継続できる | | | | |
| 授業内容 | ヤマハやカワイのピアノ演奏グレード、及び指導グレードの学習を中心に個々の希望進路に合わせた内容を学習します | | | | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 評価方法 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 受講態度 | - | - | - | 30 | 30 |
| | 実技試験 | 20 | 20 | 30 | - | 70 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計(点) | 20 | 20 | 30 | 30 | 100 |
| 評価の特記事項 | 実技試験は最終授業で行います。フィードバックとして試験実施後に講評を行います。 全授業の1/3以上の欠席の場合、実技試験の受験資格はありません | | | | | |
| ICT活用 | ICTを活用した自主学習支援 (Gmailなど) | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの活用 | グループワーク・発表等 | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | 毎週の課題については次回の授業でコメントし、指導に活かします | | | | | |
| テキスト | | | | | | |
| 参考書・教材 | 個々に合わせて提示します | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 ~ 15 | 授業内容・目標: ヤマハ演奏グレード ・即興演奏 (変奏、モチーフ) ・初見演奏 ヤマハ指導グレード ・弾き歌い ・理論 ・和声等 課題の確認 ・学習した内容を復習し理解する 【課題(準備・復習)】基礎知識を理解し、レッスンでのアドバイスを踏まえ、各課題に取組み、準備・復習をする。(各2 ~ 3 H) | | | | カワイ演奏グレード ・固有和音 ・ドッペルドミナント 属七の和音等 カワイ指導グレード ・理論 和声等 | |
| 時間外での学修 | 毎回課題を提出しますので、必ず授業外で練習し、技能習得に努めましょう この科目で求める望ましい授業外での総学習時間30 ~ 45時間 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 練習を怠らず、グレード取得に向かって取り組んで下さい オフィスアワーは休み時間に行います | | | | | |

| | | | | |
|--------------------|--|---|------|------|
| 【3P1A208】ピアノキャリア実践 | | 音楽総合学科 | 2年後期 | |
| 2単位 | | 選択 | 演習 | 30時間 |
| 教員 | 横井 香織 | | | |
| 資格・制限等 | 特になし | | | |
| 実務家教員 | 音楽教室講師：10年 | | | |
| 授業方法 | 演習を中心とした個人指導を行います。知識の理解と技術修得に向け、小グループでの活動や発表も含めて授業を展開していきます。質問等は授業時やメール等で受け付けます。 | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | ・和音進行の知識を理解し、応用することができる。 ・幅広く音楽的知識を修得し、楽曲理解に繋げることができる。 | | |
| | 思考・判断・表現 | ・調性感・和声感をもって、音楽的に演奏することができる。 ・適切な演奏法を判断し、音色や響きを追求した演奏表現をすることができます。 | | |
| | 技能 | ・適切な和音や伴奏形で演奏することができる。 ・より高度な演奏技術の向上に努めることができます。 | | |
| | 関心・意欲・態度 | ・積極的な取り組みが継続できる。 ・音楽的感性を養う努力をすることができる。 | | |
| | 備考 | ・・・の記号は、DP-到達目標との結びつきの強さを示しています。 | | |

| | | | | | | |
|----------------|---|-------|----------|----|----------|-------|
| 授業内容 | カワイピアノ演奏グレードの学修や、ピアノ演奏の更なる追求など、個々の希望に合わせた内容を学修します。 | | | | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 評価方法 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 実技試験 / 課題 | 20 | 20 | 20 | - | 60 |
| | 受講態度 | 10 | 10 | 10 | 10 | 40 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計(点) | 30 | 30 | 30 | 10 | 100 |
| 評価の特記事項 | 実技試験は最終試験で行います。課題は個々に提示します。フィードバックとして実技試験実施後に講評を行います。受講態度は学修への取組状況で評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験の受験資格はありません。 | | | | | |
| ICT活用 | ICTを活用した自主学習支援 (Gmailなど) | | | | | |
| アグティブ・ラーニングの活用 | 特になし | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | 毎週の課題については次回の授業でコメントし、指導に活かします。 | | | | | |
| テキスト | | | | | | |
| 参考書・教材 | 個々に合わせて提示します。 | | | | | |

| 実施回 | 内容 | | 授業内容・目標 |
|-------------|--|---------|---------|
| | 実施回 | 授業内容・目標 | |
| 1 ~ 15 | カワイピアノ演奏グレード ・T-D-Tの4小節トレーニング ・T-S-D-Tの4小節トレーニング ・の第2転回形を含む4小節トレーニング ・T-S-Tを含む4小節トレーニング ・8小節トレーニング ・ドッペルドミナントを含むパターン ・総合課題 課題の確認 [課題(準備・復習)] 学修した内容を復習し、伴奏づけについて理解し、演奏できるようにする(各2~3h) | | |
| 時間外での学修 | 毎回課題を提示しますので、授業外で必ず練習を行い、授業時に演奏できるようにしましょう。学修した内容を授業外で復習し、知識修得に努めましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30~45時間】 | | |
| 受講学生へのメッセージ | 自己学修を怠らず、上級グレード取得に向けて取り組みましょう。分からぬことは質問するなどし、必ず解決しましょう。 音楽的素養を更に身につけ、感性を磨き、自分の技術や音楽性を充分に表現できるよう幅広い学修を行いましょう。 オフィスアワーはB206で月曜日2・3限目です。 | | |

| | | | | | | |
|------------------|---|-----------------------------|----------|----|----------|-------|
| 【3P1S211】ピアノ応用実践 | | 音楽総合学科 | 2年前期 | | | |
| 教員 | 2単位 選択 演習 30時間 | | | | | |
| 教員 | 三ツ橋 義晴 | | | | | |
| 資格・制限等 | 特になし | | | | | |
| 実務家教員 | 個人レッスンで行います | | | | | |
| 授業方法 | 各人の技量を判断し、演奏力の向上を目指します。（質問等は授業時やメール等で受け付けます。） | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 幅広く音楽知識を習得し、理解することができる | | | | |
| | 思考・判断・表現 | 適切な演奏方法を判断し、演奏することができる | | | | |
| | 技能 | 基礎テクニックを磨き、技術の向上に取り組むことができる | | | | |
| | 関心・意欲・態度 | 分からることは質問して、説教的に取り組むことができる | | | | |
| 授業内容 | 音楽教室講師9年 | | | | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 評価方法 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 課題 | 20 | 20 | 30 | - | 70 |
| | 受講態度 | - | - | - | 30 | 30 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計(点) | 20 | 20 | 30 | 30 | 100 |
| 評価の特記事項 | 評価は授業の態度、理解度で決めます。全授業の1/3以上の欠席で最終評価を受けることができません | | | | | |
| ICT活用 | | | | | | |
| アティブ・ラーニングの活用 | 特になし | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | 毎週の課題については次回の授業でコメントし、指導に活かします | | | | | |
| テキスト | | | | | | |
| 参考書・教材 | 個々に合わせて提示します | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1~15 | 音楽用語、楽語、音楽史、楽興分析、アーティキュレーション、時代背景等を理解しながら、技術向上、演奏表現向上を目指します。 〔課題（準備・復習）〕基礎知識を理解し、レッスンでのアドバイスを踏まえ、各課題に取り組み、準備・復習をする。（各2~3H） | | | | | |
| 時間外での学修 | 毎日の練習が演奏力向上に繋がります。日々努力してください この科目で求める望ましい授業外での総学習時間：30~45時間 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 分からることはいつでも質問して下さい オフィスアワーは授業前後の休み時間に行います。 | | | | | |

| | | | | | | |
|------------------|---|---|----------|------|----------|--|
| 【3P1S211】ピアノ応用実践 | | 音楽総合学科 | | 2年前期 | | |
| | | 2単位 | 選択 | 演習 | 30時間 | |
| 教員 | 横井 香織 | | | | | |
| 資格・制限等 | 特になし | | | | | |
| 実務家教員 | 音楽教室講師・10年 | | | | | |
| 授業方法 | 演習を中心とした個人指導を行います。知識の理解と技術修得に向け、小グループでの活動や発表も含めて授業を展開していきます。質問等は授業時やメール等で受け付けます。 | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | ・スコアリーディングにおいて、スコアに用いられている記号、ジャンル、楽器などについての知識を修得することができる。 ・幅広く音楽的知識を修得し、楽曲理解に繋げることができる。 | | | | |
| | 思考・判断・表現 | ・ピアノ譜作成において、和音記号・コードネーム・和声進行の正しい知識のもと、適切な和音、内声部、和音連結、伴奏形を導き出すことができる。 ・適切な演奏法を判断し、音色や響きを追求した演奏表現をすることができます。 | | | | |
| | 技能 | ・初見奏において、調性に則った音楽を楽譜からの確に捉え、音楽的に表現することができる。 ・より高度な演奏技術の向上に努めることができます。 | | | | |
| | 関心・意欲・態度 | ・積極的な取り組みが継続できる。 ・音楽的感性を養う努力をすることができる。 | | | | |
| | 備考 | ・・・の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。 | | | | |
| 授業内容 | カワイピアノ指導グレードの内容であるオーケストラや室内楽のスコアに関する知識に基づいたスコアリーディング、和声進行についての正しい理解に基づいたピアノ譜作成、初見奏等の学修や、ピアノ演奏の更なる追求等、個々の希望に合わせた内容を学修します。 | | | | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 評価方法 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | |
| | 筆記試験 / 実技試験 / 課題 | 20 | 20 | 20 | - | |
| | 受講態度 | 10 | 10 | 10 | 10 | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計(点) | 30 | 30 | 30 | 10 | |
| 評価の特記事項 | 筆記試験・実技試験は最終試験で行います。課題は個々に提示します。フィードバックとして評価後に講評を行います。受講態度は学修への取組状況で評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験(筆記試験・実技試験)の受験資格はありません。 | | | | | |
| ICT活用 | ICTを活用した自主学習支援(Gmailなど) | | | | | |
| アクトイブ・ラーニングの活用 | グループワーク・発表等 | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | 毎週の課題については次回の授業でコメントし、指導に活かします。 | | | | | |
| テキスト | 『はじめてのオーケストラ・スコア スコアの読み方ハンドブック』野本由紀夫 音楽之友社(1,980円) ISBN:9784276101425 | | | | | |
| 参考書・教材 | 個々に合わせて提示します。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | ガイダンス カワイピアノ指導グレード：スコアリーディング(1)オーケストラの編成 ピアノ譜作成(1)ラインと音域・和音の転回 初見奏 ピアノ演奏：テクニックの向上 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、オーケストラの編成、ラインと音域、転回形について理解し、初見奏に取り組み、準備・復習をする(2~3h) レッスンでのアドバイスを踏まえ、各課題に取り組み、準備・復習をする(2~3h) | | | | | |
| 2 | カワイピアノ指導グレード：スコアリーディング(2)移調楽器 ピアノ譜作成(2)ベースの転回位置・コードの連結とポジション 初見奏 ピアノ演奏；テクニックの向上 [課題(準備・復習)] 学修した内容を復習し、移調楽器、ベースの転回位置、コードの連結とポジションについて理解し、初見奏に取り組み、準備・復習をする(2~3h) レッスンでのアドバイスを踏まえ、各課題に取り組み、準備・復習をする。 | | | | | |
| 3 | カワイピアノ指導グレード：スコアリーディング(3)木管楽器 ピアノ譜作成(3)連続5度・連続8度・初見奏 ピアノ演奏；テクニックの向上・曲想など [課題(準備・復習)] 学修した内容を復習し、木管楽器、連続5度・連続8度について理解し、初見奏に取り組み準備・復習をする(2~3h) レ・サンでのアドバイスを踏まえ、各課題に取り組み、準備・復習をする。(2~3h) | | | | | |
| 4 | カワイピアノ指導グレード：スコアリーディング(4)木管楽器 ピアノ譜作成(4)解決 初見奏 ピアノ演奏；テクニックの向上・曲想など [課題(準備・復習)] 学修した内容を復習し、木管楽器、解決について理解し、初見奏に取り組み準備・復習をする(2~3h) レッスンでのアドバイスを踏まえ、各課題に取り組み、準備・復習をする。(2~3h) | | | | | |

| 内容 | |
|-------------|--|
| 実施回 | 授業内容・目標 |
| 5 | <p>カワイピアノ指導グレード：スコアリーディング(5)金管楽器 ピアノ譜作成(5)分散和音の伴奏形 初見奏 ピアノ演奏；テクニックの向上・曲想・バランスづくりなど</p> <p>課題の確認 【課題(準備・復習)】学修した内容を復習し、金管楽器、分散和音の伴奏形について理解し、初見奏に取組み、準備・復習をする。(2~3h) レッスンでのアドバイスを踏まえ、各課題に取組み、準備・復習をする。(2~3h)</p> |
| 6 | <p>カワイピアノ指導グレード：スコアリーディング(6)金管楽器 ピアノ譜作成(6)4和音の配置と連結/初見奏/課題の確認 初見奏 ピアノ演奏；テクニックの向上・曲想・バランスづくりなど</p> <p>課題の確認 【課題(準備・復習)】学修した内容を復習し、金管楽器、4和音の配置と連結について理解し、初見奏に取組み、準備・復習をする。(2~3h) レッスンでのアドバイスを踏まえ、各課題に取組み、準備・復習をする。(2~3h)</p> |
| 7 | <p>カワイピアノ指導グレード：スコアリーディング(7)打楽器 ピアノ譜作成(7)分散和音の伴奏形 初見奏 ピアノ演奏；テクニックの向上・曲想・バランスづくり・音色研究など</p> <p>課題の確認 【課題(準備・復習)】学修した内容を復習し、打楽器、分散和音の伴奏形について理解し、初見奏に取組み、準備・復習をする。(2~3h) レッスンでのアドバイスを踏まえ、各課題に取組み、準備・復習をする。(2~3h)</p> |
| 8 | <p>カワイピアノ指導グレード：スコアリーディング(8)弦楽器 ピアノ譜作成(8)分散和音の伴奏形 初見奏 ピアノ演奏；テクニックの向上・曲想・バランスづくり・音色研究など</p> <p>課題の確認 【課題(準備・復習)】学修した内容を復習し、弦楽器、分散和音の伴奏形について理解し、初見奏に取組み、準備・復習をする。(2~3h) レッスンでのアドバイスを踏まえ、各課題に取組み、準備・復習をする。(2~3h)</p> |
| 9 | <p>カワイピアノ指導グレード：スコアリーディング(9)弦楽器 ピアノ譜作成(9)コードの機能とカデンツ・ドミナントモーションと限定進行 初見奏 ピアノ演奏；テクニックの向上・曲想・バランスづくり・音色研究・響きの追求など</p> <p>課題の確認 【課題(準備・復習)】学修した内容を復習し、弦楽器、コードの機能とカデンツ・ドミナントモーションと限定進行について理解し、初見奏に取組み、準備・復習をする。(2~3h) レッスンでのアドバイスを踏まえ、各課題に取組み、準備・復習をする。(2~3h)</p> |
| 10 | <p>カワイピアノ指導グレード：スコアリーディング(10)その他の楽器 ピアノ譜作成(10)ドミナントモーションの連結・右手のメロディ+コード 初見奏 ピアノ演奏；テクニックの向上・曲想・バランスづくり・音色研究・響きの追求など</p> <p>課題の確認 【課題(準備・復習)】学修した内容を復習し、その他の楽器、ドミナントモーションの連結、右手のメロディ+コードについて理解し、初見奏に取組み、準備・復習をする。(2~3h) レッスンでのアドバイスを踏まえ、各課題に取組み、準備・復習をする。(2~3h)</p> |
| 11 | <p>カワイピアノ指導グレード：スコアリーディング(11)舞台配置とスコアの関係 ピアノ譜作成(11)ドミナントモーションの連結・3度、6度の重音 初見奏 ピアノ演奏；テクニックの向上・曲想・バランスづくり・音色研究・響きの追求・豊かな表現など</p> <p>課題の確認 【課題(準備・復習)】学修した内容を復習し、舞台配置とスコアの関係、ドミナントモーションの連結について理解し、初見奏に取組み、準備・復習をする。(2~3h) レッスンでのアドバイスを踏まえ、各課題に取組み、準備・復習をする。(2~3h)</p> |
| 12 | <p>カワイピアノ指導グレード：スコアリーディング(12)舞台配置とスコアの関係 ピアノ譜作成(12)カウンターライン 初見奏 ピアノ演奏；テクニックの向上・曲想・バランスづくり・音色研究・響きの追求・豊かな表現など</p> <p>課題の確認 【課題(準備・復習)】学修した内容を復習し、舞台配置とスコアの関係、カウンターラインについて理解し、初見奏に取組み、準備・復習をする。(2~3h) レッスンでのアドバイスを踏まえ、各課題に取組み、準備・復習をする。(2~3h)</p> |
| 13 | <p>カワイピアノ指導グレード：スコアリーディング(13)実際のスコアを読む ピアノ譜作成(13)連続8度とピアノのオクターヴ奏法・単音、密集配置の伴奏形 初見奏 ピアノ演奏；テクニックの向上・曲想・バランスづくり・音色研究・響きの追求・豊かな表現など</p> <p>課題の確認 【課題(準備・復習)】学修した内容を復習し、実際のスコア、連続8度とピアノのオクターヴ奏法、単音・密集配置の伴奏形について理解し、初見奏に取組み、準備・復習をする。(2~3h) レッスンでのアドバイスを踏まえ、各課題に取組み、準備・復習をする。(2~3h)</p> |
| 14 | <p>カワイピアノ指導グレード：スコアリーディング(14)実際のスコアを読む ピアノ譜作成(14)密集伴奏形 初見奏 ピアノ演奏；テクニックの向上・曲想・バランスづくり・音色研究・響きの追求・豊かな表現など</p> <p>課題の確認 【課題(準備・復習)】学修した内容を復習し、密集伴奏形について理解し、初見奏に取組み、準備・復習をする。(2~3h) レッスンでのアドバイスを踏まえ、各課題に取組み、準備・復習をする。(2~3h)</p> |
| 15 | <p>カワイピアノ指導グレード：スコアリーディング(15)実際のスコアを読む ピアノ譜作成(15)実例を見ながら 初見奏 ピアノ演奏；テクニックの向上・曲想・バランスづくり・音色研究・響きの追求・豊かな表現など</p> <p>課題の確認 【課題(準備・復習)】学修した内容を復習し、実際のスコア、ピアノ譜について理解し、初見奏に取組み、受験に向けて準備・復習をする。(2~3h) レッスンでのアドバイスを踏まえ、各課題に取組み、準備・復習をする。(2~3h)</p> |
| 時間外での学修 | 学修した内容を授業外で復習し、知識修得に努めましょう。授業時に次回までの課題が提示されますので、授業外で毎日怠らずに学修・練習し、レベルアップできるよう取り組みましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30~45時間】 |
| 受講学生へのメッセージ | 上級グレード取得に向けて積極的に取り組みましょう。分からぬことは質問するなど、必ず解決してください。 音楽的素養を更に身に付け、感性を磨き、自分の技術や音楽性を充分に表現できるよう幅広い学修を行いましょう。 オフィスアワーはB206で月曜日2・3限目です。 |

| | | | | | | |
|------------------|---|------------------------------|----------|----|----------|-------|
| 【3P1A212】ピアノ応用実践 | | 音楽総合学科 | 2年後期 | | | |
| 教員 | 2単位 | | 選択 | 演習 | | |
| 資格・制限等 | 30時間 | | | | | |
| 実務家教員 | 音楽教室講師9年 | | | | | |
| 授業方法 | 個人レッスンで行います。質問等は授業時やメール等で受け付けます。 | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 幅広く音楽知識を習得し、理解することができる | | | | |
| | 思考・判断・表現 | 適切な演奏法を判断し、演奏することができる | | | | |
| | 技能 | 基礎テクニックを磨き、演奏技術の向上に努めることができる | | | | |
| | 関心・意欲・態度 | 分から事は質問して、積極的に取り組みができる | | | | |
| 授業内容 | 各人の技量を判断し、演奏力の向上を目指します。 | | | | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 評価方法 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 課題 | 20 | 20 | 30 | - | 70 |
| | 態度 | - | - | - | 30 | 30 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計(点) | 20 | 20 | 30 | 30 | 100 |
| 評価の特記事項 | 評価は授業の態度、理解度で決めます。全授業の1/3以上の欠席で最終評価を受けることができません | | | | | |
| ICT活用 | | | | | | |
| アカイブ・ラーニングの活用 | 特になし | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | 毎週の課題については次回の授業でコメントし、指導に活かします | | | | | |
| テキスト | | | | | | |
| 参考書・教材 | | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1~15 | 音楽用語、楽語、音楽史、楽興分析、アーティキュレーション、時代背景等を理解しながら、技術向上、演奏表現向上を目指します。 〔課題（準備・復習）〕基礎知識を理解し、レッスンでのアドバイスを踏まえ、各課題に取り組み、準備・復習をする。（各2~3H） | | | | | |
| 時間外での学修 | 毎日の練習が演奏力向上に繋がります。日々努力してください この科目で求める望ましい授業外での総学習時間：30~45時間 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 分からないことはいつでも質問して下さい。 オフィスアワーは授業前後の休み時間に行います。 | | | | | |

| | | | | | | | | |
|------------------|--|--|----------|------|----------|-------|--|--|
| 【3P1A212】ピアノ応用実践 | | 音楽総合学科 | 2年後期 | | | | | |
| 2単位 | 選択 | | 演習 | 30時間 | | | | |
| 教員 | 横井 香織 | | | | | | | |
| 資格・制限等 | 特になし | | | | | | | |
| 実務家教員 | 音楽教室講師・10年 | | | | | | | |
| 授業方法 | 演習を中心とした個人指導を行います。知識の理解と技術修得に向け、小グループでの活動や発表も含めて授業を展開していきます。質問等は授業時やメール等で受け付けます。 | | | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | ・楽曲分析において、調性および関係調、カデンツ、非和声音、モチーフの使われ方などの知識を理解することができる。 ・幅広く音楽的知識を修得し、楽曲理解に繋げることができる。 | | | | | | |
| | 思考・判断・表現 | ・ピアノ譜作成において、和音記号・コードネーム・和声進行の正しい知識のもと、適切な和音、内声部、和音連結、伴奏形を導き出すことができる。 ・適切な演奏法を判断し、音色や響きを追求した演奏表現をすることができる。 | | | | | | |
| | 技能 | ・初見奏において、調性に則った音楽を楽譜から的確に捉え、音楽的に表現することができる。 ・より高度な演奏技術の向上に努めることができる。 | | | | | | |
| | 関心・意欲・態度 | ・積極的な取り組みが継続できる。 ・音楽的感性を養う努力をすることができる。 | | | | | | |
| | 備考 | ・・・の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。 | | | | | | |
| 授業内容 | カワイピアノ指導グレードの内容であるピアノ曲における楽曲分析、和声進行の知識に基づいたピアノ譜作成、初見奏などの学修や、ピアノ演奏の更なる追求等、個々の希望に合わせた内容を学修します。 | | | | | | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 評価方法 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) | | |
| | 筆記試験 / 実技試験 / 課題 | 20 | 20 | 20 | - | 60 | | |
| | 受講態度 | 10 | 10 | 10 | 10 | 40 | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | 合 計(点) | 30 | 30 | 30 | 10 | 100 | | |
| 評価の特記事項 | 筆記試験は最終試験で行います。課題は個々に提示します。フィードバックとして評価後に講評を行います。受講態度は学修への取組状況で評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験(筆記試験・実技試験)の受験資格はありません。 | | | | | | | |
| ICT活用 | ICTを活用した自主学習支援(Gmailなど) | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの活用 | グループワーク・発表等 | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | 毎週の課題については次回の授業でコメントし、指導に活かします。 | | | | | | | |
| テキスト | 『和声と楽式のアナリーゼ』島岡 譲 音楽之友社(2,200円) ISBN:9784276102132 | | | | | | | |
| 参考書・教材 | 個々に合わせて提示します。 | | | | | | | |
| 内容 | | | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | | | |
| 1 | カワイピアノ指導グレード：楽曲分析(1)旋律と和声・和音・和音の組み立て・和音の分析・分散和音 ・非和声音 ピアノ譜作成(1)課題に取り組む ピアノ演奏：テクニックの向上 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、旋律と和音について理解する(2~3h) レッスンでのアドバイスを踏まえ、各課題に取り組み、準備・復習をする(2~3h) | | | | | | | |
| 時間外での学修 | 学修した内容を授業外で復習し、知識修得に努めましょう。授業時に次回までの課題が提示されますので、授業外で毎日怠らずに学修・練習し、レベルアップできるよう取り組みましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30~45時間】 | | | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 上級グレード取得に向けて積極的に取り組みましょう。分からることは質問するなど、必ず解決してください。 音楽的素養を更に身に付け、感性を磨き、自分の技術や音楽性を充分に表現できるよう幅広い学修を行いましょう。 オフィスアワーはB206で月曜日2・3限目です。 | | | | | | | |

| | | | | | | |
|-------------------|--|---|----------|------|----------|-------|
| 【302A215】電子オルガン演習 | | 音楽総合学科 | 2年前期 | | | |
| 1単位 | | 選択 | 演習 | 30時間 | | |
| 教員 | 相原 里美 | | | | | |
| 資格・制限等 | 特になし | | | | | |
| 実務家教員 | 音楽教室講師・30年 | | | | | |
| 授業方法 | 毎週1回の個人レッスンです。個々に適した指導を行います。 質問・要望等授業時やメール等で受け付けます。 発表を含めて授業を行います。 | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 色々なジャンルの音楽を体験し理解する。 | | | | |
| | 思考・判断・表現 | 楽譜からアレンジャーの意図を読み取ることができる。 表現豊かな演奏ができる。 | | | | |
| | 技能 | データをいかした演奏力の向上。 | | | | |
| | 関心・意欲・態度 | 関心を持ち自ら意欲的に取り組むことができる。 | | | | |
| | 備考 | ・・・の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。 | | | | |
| 授業内容 | 電子オルガンの奏法を学びながら電子オルガンの楽しさを知ってもらい、色々なジャンルの音楽を体験します。市販曲の構成、編曲を理解しながらデータを分析、参考にして、入力技術を学び、アレンジに挑戦します。 | | | | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 評価方法 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 実技試験 | - | 30 | 30 | - | 60 |
| | 発表 | - | 5 | 5 | - | 10 |
| | 授業態度 | 10 | - | - | 20 | 30 |
| | | | | | | |
| | 合 計(点) | 10 | 35 | 35 | 20 | 100 |
| 評価の特記事項 | 実技試験は、授業で取り組んだ自由曲の演奏発表で、評価します。 フィードバックとして発表と定期試験実施後に講評を行います。 受講態度は学修への取組状況で評価します。 | | | | | |
| I C T 活用 | ICTを活用した自主学習支援 (Gmailなど) | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの活用 | 発表 | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | 毎週の課題については次回の授業でコメントし、指導に活かします。 | | | | | |
| テキスト | 個々に合わせて選択します。 | | | | | |
| 参考書・教材 | 個々に合わせて選択します。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | 授業説明(今後の授業の進め方等) [課題(準備)]電子オルガン演奏の視聴をしておく(1h) | | | | | |
| 2 | 電子オルガンの操作、機能について、課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、電子オルガンに慣れる(1h) | | | | | |
| 3 | 電子オルガンの奏法、課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、電子オルガンの奏法を理解し、ピアノ譜を電子オルガンで弾いてみる(1h) | | | | | |
| 4 | レジストについて、課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、レジストについて理解する(1h) | | | | | |
| 5 | 強弱(Exp.p)、課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、Exp.pを使用し、強弱をつけられるようにする(1h) | | | | | |
| 6 | レパートリーを増やす(譜読みの確認)、課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、正確な譜読みをする(1h) | | | | | |
| 7 | レパートリー増やす(タッチ奏法)、課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、タッチを活かして弾けるようにする(1h) | | | | | |
| 8 | レパートリー増やす(強弱)、課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、強弱をつけて弾けるようにする(1h) | | | | | |
| 9 | アレンジに向けて(説明・選曲)、課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、アレンジ方法を理解する(1h) | | | | | |
| 10 | アレンジに挑戦:取り組み(1)課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、アレンジを進める(1h) | | | | | |
| 11 | アレンジに挑戦:取り組み(2)課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、さらにアレンジを進める(1h) | | | | | |
| 12 | アレンジに挑戦:取り組み(3)仕上げ、課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、アレンジを完成させる(1h) | | | | | |
| 13 | 試験に向けての取り組み(1)譜読みの確認、課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、見落としの無いように正確な譜読みを行う(1h) | | | | | |
| 14 | 試験に向けての取り組み(2)全体の流れとバランスの確認、課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、暗譜で全体の流れを考えながら弾けるようにする(1h) | | | | | |
| 15 | 試験に向けての取り組み(3)発表、仕上げ、課題の確認 [課題(復習)]レッスンの復習をし、発表後に得たコメントを復習し、試験に向けて弾き込んで仕上げる(1h) | | | | | |
| 時間外での学修 | 色々なジャンルの音楽をたくさん聴きましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:15時間】 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 空き時間を利用して、電子オルガンに向かいましょう。 [オフィスアワー]当授業の教室にて、授業時間前後の休み時間です。 | | | | | |

| 【302A216】電子オルガン演習 | | 音楽総合学科 | 2年後期 | | | |
|-------------------|---|---|----------|------|----------|-------|
| 1単位 | | 選択 | 演習 | 30時間 | | |
| 教員 | 相原 里美 | | | | | |
| 資格・制限等 | 特になし | | | | | |
| 実務家教員 | 音楽教室講師・30年 | | | | | |
| 授業方法 | 毎週1回の個人レッスンです。個々に適した指導を行います。 質問・要望等、授業時やメール等で受け付けます。 発表を含めて、授業を行います。 | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 色々なジャンルの音楽を体験し、電子オルガンの操作、奏法を理解する。 | | | | |
| | 思考・判断・表現 | 楽譜からアレンジャーの意図を読み取ることができる。 表現豊かな演奏ができる。 | | | | |
| | 技能 | データをいかした演奏力の向上。 | | | | |
| | 関心・意欲・態度 | 関心を持ち自ら意欲的に取り組むことができる。 | | | | |
| | 備考 | ・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。 | | | | |
| 授業内容 | 電子オルガンの演奏法を学びながら、電子オルガンの楽しさを知ってもらい、色々なジャンルの音楽を体験します。市販曲の構成、編曲を理解しながらデータを分析、参考にして、入力技術を学び、アレンジに挑戦します。前期と同様、演奏法を研究し修得します。 | | | | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 評価方法 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 実技試験 | - | 30 | 30 | - | 60 |
| | 発表 | - | 5 | 5 | - | 10 |
| | 受講態度 | 10 | - | - | 20 | 30 |
| | | | | | | |
| | 合 計(点) | 10 | 35 | 35 | 20 | 100 |
| 評価の特記事項 | 実技試験は、授業で取り組んだ自由曲の演奏発表で、評価します。 フィードバックとして発表と定期試験実施後に講評を行います。 受講態度は学修への取組状況で評価します。 | | | | | |
| I C T 活用 | ICTを活用した自主学習支援 (Gmailなど) | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの活用 | 発表 | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | 毎週の課題については次回の授業でコメントし、指導に活かします。 | | | | | |
| テキスト | 個々に合わせて選択します。 | | | | | |
| 参考書・教材 | 個々に合わせて選択します。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | 休暇中の宿題を発表する、選曲 [課題(復習)]発表後に得られたコメントを復習する(1h) | | | | | |
| 2 | 前期の復習、課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、次の曲の練習にとりかかる(1h) | | | | | |
| 3 | 電子オルガンの操作、奏法など 電子オルガンの機能について、課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、電子オルガンの操作などを理解する(1h) | | | | | |
| 4 | レジストについて、課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、レジストについて理解する(1h) | | | | | |
| 5 | レジスト分析、課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、入力技術を理解する。(1h) | | | | | |
| 6 | レパートリーを増やす(譜読みの確認)、課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、正確な譜読みをする(1h) | | | | | |
| 7 | レパートリー増やす(タッチ奏法)、課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、タッチを活かして弾けるようにする(1h) | | | | | |
| 8 | レパートリー増やす(全体の流れ・バランス)、課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、全体の流れ、バランスを考えながら弾けるようにする(1h) | | | | | |
| 9 | アレンジに向けて(説明・選曲)、課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、アレンジ方法を理解する(1h) | | | | | |
| 10 | アレンジに挑戦:取り組み(1)課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、アレンジを進める(1h) | | | | | |
| 11 | アレンジに挑戦:取り組み(2)課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、さらにアレンジを進める(1h) | | | | | |
| 12 | アレンジに挑戦:取り組み(3)仕上げ、課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、アレンジを完成させる(1h) | | | | | |
| 13 | 試験に向けての取り組み(1)譜読みの確認、課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、見落としの無いように正確な譜読みを行う(1h) | | | | | |
| 14 | 試験に向けての取り組み(2)全体の流れとバランスの確認、課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、暗譜で全体の流れを考えながら弾けるようにする(1h) | | | | | |
| 15 | 試験に向けての取り組み(3)発表、仕上げ、課題の確認 [課題(復習)]レッスンの復習をし、発表後に得たコメントを復習し、試験に向けて弾き込んで仕上げる(1h) | | | | | |
| 時間外での学修 | 色々なジャンルの音楽をたくさん聴きましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:15時間】 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 空き時間を利用して、電子オルガンに向かいましょう。 [オフィスアワー]当授業の教室にて、授業時間前後の休み時間です。 | | | | | |

| 【3S3S201】P・O r アンサンブル | | 音楽総合学科 | | 2年前期 | | |
|-----------------------|---|--|----------|------|----------|-------|
| 教員 | 横井 香織・相原 里美 | 1単位 | 必修 | 演習 | 30時間 | |
| 資格・制限等 | 特になし | | | | | |
| 実務家教員 | 横井：音楽教室講師・10年 相原：音楽教室講師・30年 | | | | | |
| 授業方法 | 演習を中心とした1組ずつの演奏・指導を行います。アンサンブル演奏の知識・技術修得の確認のため、発表も含めて授業を展開していきます。質問等は授業時やメール等で受け付けます。 | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 各アンサンブル形態における演奏法についての知識を身に付け、理解することができる。 | | | | |
| | 思考・判断・表現 | 楽曲についてパートナーと研究し、楽曲にふさわしい演奏表現をすることができる。 | | | | |
| | 技能 | アンサンブル演奏の技術を身に付け、各パートを把握・理解しながら、バランスの良いハーモニーで息の合った演奏をすることができる。 | | | | |
| | 関心・意欲・態度 | パートナーと充分なコミュニケーションを図りながら積極的に取り組み、協調性・責任感を養うことができる。 | | | | |
| | 備考 | ・・・の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。 | | | | |
| 授業内容 | ピアノ連弾や2台ピアノ、2台電子オルガン、ピアノと電子オルガンのデュオなど、ソロとは違ったアンサンブルの音色や魅力、連帯感を楽しみながら、アンサンブルにおける演奏技術や表現力を身に付けています。また、アンサンブルを通して人と合わせることの難しさや大切さ、協調性や責任感なども学びます。 | | | | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 評価方法 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 実技試験 | - | 30 | 30 | - | 60 |
| | 発表 | - | 5 | 5 | - | 10 |
| | 受講態度 | 10 | - | - | 20 | 30 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計(点) | 10 | 35 | 35 | 20 | 100 |
| 評価の特記事項 | 実技試験は最終試験で行います。発表はピアノ連弾・2台電子オルガン・ピアノ&電子オルガンアンサンブルなどの演奏です。フィードバックとして発表と実技試験実施後に講評を行います。受講態度は学修への取組状況で評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験(実技試験)の受験資格はありません。 | | | | | |
| ICT活用 | ICTを活用した自主学習支援(Gmailなど) | | | | | |
| アタイブ・ラーニングの活用 | 発表 | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | 毎週の課題については次回の授業でコメントし、指導に活かします。 | | | | | |
| テキスト | | | | | | |
| 参考書・教材 | 個々に合わせて選択します。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | ガイダンス ピアノ連弾・2台電子オルガン・ピアノ&電子オルガンアンサンブル など ・パートナー決め ・選曲 [課題(準備)] 演奏会や動画などで、ピアノ連弾・2台電子オルガン・ピアノ&電子オルガンアンサンブル とはどのようなものか観ておく。選曲後、各自譜読みに取り組む(1~2h) | | | | | |
| 2~8 | ピアノ連弾・2台電子オルガン・ピアノ&電子オルガンアンサンブル など ・譜読みの確認 ・テクニックの向上 ・各パートの理解 ・曲想 ・呼吸 ・バランス ・音楽表現 など 課題の確認 [課題(準備・復習)] 毎回の授業でのアドバイスを踏まえ、各課題に取り組み、準備・復習をする(各1~2h) | | | | | |
| 8 | 試験曲決め(自由編成。ただしピアノ、電子オルガン両方ともを演奏) [課題(準備)] 試験曲選曲後、各自譜読みに取り組む(1~2h) | | | | | |
| 9 | 発表 試験曲(自由編成) ・譜読みの確認 ・テクニックの向上 ・各パートの理解 ・曲想 ・呼吸 ・バランス ・豊かな表現 など 課題の確認 [課題(準備・復習)] 発表に向けて弾き込む 毎回の授業でのアドバイスを踏まえ、各課題に取り組み、準備・復習をする(各1~2h) | | | | | |

| 実施回 | 内容 |
|-------------|--|
| | 授業内容・目標 |
| 9 ~ 15 | <p>試験曲（自由編成） ・譜読みの確認 ・テクニックの向上 ・各パートの理解 ・曲想 ・呼吸 ・バランス ・豊かな表現 など 課題の確認 [課題(準備・復習)] 毎回の授業でのアドバイスを踏まえ、各課題に取り組み、準備・復習をする (各1~2h)</p> |
| 時間外での学修 | アンサンブル演奏の前提として、個々のパートの演奏力が必要です。責任を持って授業外で個々の練習を行い、授業までにパートナーと合わせ、毎回の授業でアンサンブル演奏が成立するように準備しましょう。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15~30時間】 |
| 受講学生へのメッセージ | 授業を欠席するとアンサンブルとしてのレッスンができませんので、欠席をしないようにしてください。 オフィスアワーは授業教室で授業前後の休み時間です。 |

| | | | | | | |
|-----------------|--|-------------------------------------|----------|------|----------|-------|
| 【3S3S202】音楽指導研究 | | 音楽総合学科 | 2年前期 | | | |
| 1単位 | | 選択 | 演習 | 30時間 | | |
| 教員 | 横井 香織 | | | | | |
| 資格・制限等 | 特になし | | | | | |
| 実務家教員 | 音楽教室講師・10年 | | | | | |
| 授業方法 | 演習を中心として、実際に身体を動かして学修します。豊かな表現力を養うために、発表なども含めて授業を展開していきます。質問等は授業時に受け付けます。 | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | リトミックや子どもの発達についての知識を修得し、理解することができる。 | | | | |
| | 思考・判断・表現 | リトミック体験を通して豊かな想像力、表現力を養うことができる。 | | | | |
| | 技能 | 音楽に合わせた動きをすることができる。 | | | | |
| | 関心・意欲・態度 | 他者とコミュニケーションを図りながら、積極的に取り組むことができる。 | | | | |
| | 備考 | ・・の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。 | | | | |
| 授業内容 | 音楽教育法の一つであるリトミックを体験し、身体を使った音楽表現を通して自分自身の音楽感覚を磨きます。また子どもの発達についても学修し、各発達に沿ったリトミックの方法や子どもへの指導法について研究します。 | | | | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 評価方法 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | レポート | 20 | 20 | - | - | 40 |
| | 受講態度 | - | 10 | 20 | 30 | 60 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計(点) | 20 | 30 | 20 | 30 | 100 |
| 評価の特記事項 | レポート提出は前期定期試験期間で行います。フィードバックとしてレポートにコメントを返します。受講態度は学修への取組状況で評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、レポート提出の資格はありません。 | | | | | |
| ICT活用 | ICTを活用した自主学習支援 (Gmailなど) | | | | | |
| アグティブ・ラーニングの活用 | 発表 | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | 毎回の課題については次回の授業でコメントし、指導に活かします。 | | | | | |
| テキスト | | | | | | |
| 参考書・教材 | その都度提示します。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | リトミックを知ろう、基礎リズム [課題(準備・復習)] 身体を動かすことに慣れ、基本的なリズムを体験をする (1h) | | | | | |
| 2 | 拍と拍子(1)、課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、音楽の流れに感じられる一定の刻みである拍を体験し、各拍子を体験する (1h) | | | | | |
| 3 | 拍と拍子(2)、アクセント、課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、各拍子の比較をしながら拍子感を養う。アクセントの体験をする (1h) | | | | | |
| 4 | 子どもの発達とリトミック(1)、課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、子どもの発達とリトミックについて考える(1h) | | | | | |
| 5 | リズムバターン、課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、リズム感を養う (1h) | | | | | |
| 6 | 複リズム・補足リズム、リズム即興、課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、2グループ・個人による2種類のリズムの同時体験をし、様々なリズムを考える (1h) | | | | | |
| 7 | 子どもの発達とリトミック(2)、課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、子どもの発達とリトミックについて考える(1h) | | | | | |
| 8 | ダイナミック・テンポ・スペース(1)、課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、身体を使って強弱を表現できるようにする (1h) | | | | | |
| 9 | ダイナミック・テンポ・スペース(2)、課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、身体を使って強弱の比較を表現できるようにする (1h) | | | | | |
| 10 | 子どもの発達とリトミック(3)、課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、子どもの発達とリトミックについて考える(1h) | | | | | |
| 11 | ダイナミック・テンポ・スペース(3)、課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、テンポ感を養う (1h) | | | | | |
| 12 | ダイナミック・テンポ・スペース(4)、課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、ダイナミック・テンポ・スペースの関係を考える (1h) | | | | | |
| 13 | フレーズ、課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、フレーズ感を養う (1h) | | | | | |
| 14 | 創造的な動き、課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、音楽を聴いて想像力・創造力を働かせ、身体で表現することに繋げる (1h) | | | | | |
| 15 | ピアノによるイメージ即興、課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、自由な発想で自由にピアノで表現できるようにする (1h) | | | | | |
| 時間外での学修 | リトミックは豊かな人間性を育成することを目的とした音楽教育です。授業外でも学修した内容を復習するとともに、日頃から日常の小さなことにも感じる心を持ち、豊かな想像力、表現力を養うように心掛けましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】 | | | | | |

受講学生への
メッセージ

リトミックでは身体を動かしますので、運動のできる服装・履物で出席してください。
オフィスアワーはB206で月曜日2・3限目です。

| 【3S3A207】鍵盤楽器研究 | | 音楽総合学科 | 2年後期 | | | | |
|-----------------|---|--|----------|--|--|--|--|
| 教員 | 横井 香織 | 2単位 | 選択 | 講義 | | | |
| 資格・制限等 | 特になし | | | | | | |
| 実務家教員 | 音楽教室講師：10年 | | | | | | |
| 授業方法 | 基本的には講義形式ですが、グループワークなど、能動的な学び（アクティブラーニング）を前提とした方法を取り入れて授業を行います。可能な限り各楽器について実際に音を出し、各楽器の特性の理解を深めます。質問は授業時やメール等で受け付けます。 | 到達目標 | 知識・理解 | 鍵盤楽器に関する様々な知識を理解することができる。 | | | |
| 到達目標 | 思考・判断・表現 | 各種鍵盤楽器の特性を理論立てて伝えることができる。 | 技能 | 音楽の専門家としての情報収集能力を持ち、総合楽器店職としてのコミュニケーション能力を身に付けることができる。 | | | |
| | 関心・意欲・態度 | 幅広く関心を持って積極的に取り組むことができる。 | 備考 | ・・・の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。 | | | |
| 授業内容 | 鍵盤楽器の歴史、種類、構造、メーカー、仕様など、総合楽器店職として必要な知識を修得します。各楽器の特性を理解し、説明できるようになりますことを目指します。 | | | | | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | | | |
| | 評価方法 | 25 | - | - | | | |
| | 課題提出 | - | 30 | 25 | | | |
| | 発表 | - | - | 5 | | | |
| | 受講態度 | - | - | 15 | | | |
| 評価の特記事項 | 合 計(点) | 25 | 30 | 30 | | | |
| | 評価の特記事項 | 課題は学修したことや調べたことをまとめ、その都度提出してもらいます。フィードバックとして課題や発表にコメントを返します。受講態度は学修への取組状況で評価します。 | | | | | |
| | ICT活用 | ICTを活用した自主学習支援 (Gmailなど) | | | | | |
| | アクティブ・ラーニングの活用 | 発表 | | | | | |
| | 課題に対するフィードバック | 授業時間外課題については、次回の授業で活用します。 | | | | | |
| テキスト | 適宜配布します。 | | | | | | |
| 参考書・教材 | 適宜配布します。 | | | | | | |
| 内容 | | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | | |
| 1 | ガイダンス 鍵盤楽器の種類 【課題(復習)】 学修した内容を復習し、鍵盤楽器の種類について理解する (4h) | | | | | | |
| 2 | 鍵盤楽器の歴史：鍵盤楽器の祖であるオルガン、ピアノの前身楽器といわれるクラヴィコード・ハープシード（チェンバロ）などから現在のピアノに至るまで 【課題(復習)】 学修した内容を復習し、鍵盤楽器の歴史について理解する (4h) | | | | | | |
| 3 | グランドピアノ（1）現在の構造になるまでの発達、国内外のメーカー、構造、機種・仕様・価格、関連商品 【課題(復習)】 学修した内容を復習し、グランドピアノについて理解する (4h) | | | | | | |
| 4 | グランドピアノ（2）国内外のメーカー、構造、機種・仕様・価格、関連商品 発表 【課題の確認】 学修した内容を復習し、グランドピアノについて理解する (4h) | | | | | | |
| 5 | アップライトピアノ（1）国内外のメーカー、構造、機種・仕様・価格、関連商品 グループワーク 【課題(復習)】 学修した内容を復習し、アップライトピアノについて理解する (4h) | | | | | | |
| 6 | アップライトピアノ（2）国内外のメーカー、構造、機種・仕様・価格、関連商品 発表 【課題の確認】 学修した内容を復習し、アップライトピアノについて理解する (4h) | | | | | | |
| 7 | 電子ピアノ（1）メーカー、構造、機種・仕様・価格、関連商品 グループワーク 【課題(復習)】 学修した内容を復習し、電子ピアノについて理解する (4h) | | | | | | |
| 8 | 電子ピアノ（2）メーカー、構造、機種・仕様・価格、関連商品 発表 【課題の確認】 学修した内容を復習し、電子ピアノについて理解する (4h) | | | | | | |
| 9 | 電子オルガン（1）メーカー、構造、機種・仕様・価格、関連商品 グループワーク 【課題(復習)】 学修した内容を復習し、電子オルガンについて理解する (4h) | | | | | | |
| 10 | 電子オルガン（2）メーカー、構造、機種・仕様・価格、関連商品 発表 【課題の確認】 学修した内容を復習し、電子オルガンについて理解する (4h) | | | | | | |
| 11 | キーボード（1）メーカー、構造、機種・仕様・価格、関連商品 グループワーク 【課題(復習)】 学修した内容を復習し、キーボードについて理解する (4h) | | | | | | |
| 12 | キーボード（2）メーカー、構造、機種・仕様・価格、関連商品 発表 【課題の確認】 学修した内容を復習し、キーボードについて理解する (4h) | | | | | | |
| 13 | 楽器店見学 【課題(復習)】 学修した内容を復習し、鍵盤楽器販売について理解する (4h) | | | | | | |
| 14 | その他の鍵盤楽器 【課題(復習)】 学修した内容を復習し、その他の鍵盤楽器について理解する (4h) | | | | | | |
| 15 | 鍵盤楽器についての総まとめ 【課題の確認】 学修した内容を復習し、鍵盤楽器について理解する (4h) | | | | | | |

| | |
|-------------|---|
| 時間外での学修 | 授業で学修した内容を復習し、知識の修得に努めましょう。授業内で調べられなかったことは、次回の授業までに調べてまとめておいてください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】 |
| 受講学生へのメッセージ | 鍵盤楽器全般に興味を持ち、総合楽器店職をはじめ、自身の演奏にも活かしていきましょう。 オフィスアワーはB206で月曜日2・3限目です。 |

| | | | | | | | |
|---------------|---|--|-------|----------|----|----------|-------|
| 【3S8S220】和声法 | | 音楽総合学科 | 2年前期 | | | | |
| 1単位 | | 選択 | 演習 | 30時間 | | | |
| 教員 | 三輪 泰子 | | | | | | |
| 資格・制限等 | 特になし | | | | | | |
| 実務家教員 | 音楽教室講師・17年 | | | | | | |
| 授業方法 | 講義形式ですが、課題理解のための個人指導にも力を入れていきます。 課題に取り組むための自主性を養います。質問等は授業時やメール等で受け付けます。 | | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 和声と楽典の基礎的な知識を身に付け、更に、応用し、問題演習する。 | | | | | |
| | 思考・判断・表現 | 西洋音楽の土台となっている和声感を感じられるようにしたい。楽典を習熟することで、演奏者としての表現力を高めたい。 | | | | | |
| | 技能 | グレード取得により、社会的評価を得て、就職活動へと繋げていく。 | | | | | |
| | 関心・意欲・態度 | 和声と楽典の知識を、演奏、創作、音楽指導活動に活かせるようにする。 | | | | | |
| | 備考 | ・・の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。 | | | | | |
| 授業内容 | 指導グレードに必要な和声学、音楽知識を身に付け、各自、希望するグレード取得を目指します。 | | | | | | |
| 観点別評価 | 評価方法 | 評価の観点 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 試験 | 50 | 20 | 20 | - | 90 | |
| | 受講態度 | - | - | - | 10 | 10 | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | 合 計(点) | 50 | 20 | 20 | 10 | 100 | |
| 評価の特記事項 | 3分の1以上欠席した学生は期末試験の受験資格がありません。 フィードバックとして、試験結果についてコメントを返します。 | | | | | | |
| ICT活用 | ICTを活用した自主学習支援 (Gmailなど) | | | | | | |
| アカイブ・ラーニングの活用 | 課題以外にも、自主的に勉強する姿勢を奨励し、質問を受け付け、指導します。 | | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | 毎回、宿題プリントの添削と解答の説明を、授業内で個別指導していきます。 | | | | | | |
| テキスト | 『和声 理論と実習』島岡 譲 他 音楽之友社(3,024円)ISBN:978-4276102057 | | | | | | |
| 参考書・教材 | 授業中に配布するプリントを、教材としますので、必ず保管して下さい。 | | | | | | |
| 内容 | | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | | |
| 1 | 属7の和音 [課題(復習)]課題25,26,27を解いてみましょう。(2h) | | | | | | |
| 2 | 属7の和音 [課題(復習)]課題28(1~4)を解いてみましょう。(2h) | | | | | | |
| 3 | 属7の和音 [課題(復習)]課題28(5~8)を解いてみましょう。(2h) | | | | | | |
| 4 | 属7の和音 [課題(復習)]課題28(9~12)を解いてみましょう。(2h) | | | | | | |
| 5 | 属7の和音 [課題(復習)]課題30(1~3)を解いてみましょう。(2h) | | | | | | |
| 6 | 属7の和音 [課題(復習)]課題30(4~6)を解いてみましょう。(2h) | | | | | | |
| 7 | 補充課題の実習(3和音の第1転回位置) [課題(復習)]課題(6~10)を解いてみましょう。(2h) | | | | | | |
| 8 | 属7の和音の根音省略形、第2転回位置 [課題(復習)]課題31,32,33を解いてみましょう。(2h) | | | | | | |
| 9 | 属7の和音の根音省略形、第2転回位置 [課題(復習)]課題34(1~3)を解いてみましょう。(2h) | | | | | | |
| 10 | 属7の和音の根音省略形、第2転回位置 [課題(復習)]課題34(4~6)を解いてみましょう。(2h) | | | | | | |
| 11 | 補充課題の実習 属7の和音の根音省略形、第2転回位置 [課題(復習)]課題(1~3)を解いてみましょう。(2h) | | | | | | |
| 12 | 補充課題の実習 属7の和音の根音省略形、第2転回位置 [課題(復習)]課題(4~6)を解いてみましょう。(2h) | | | | | | |
| 13 | 指導グレードの過去問題を使用し、実践力を身に付ける。 [課題(復習)]課題(1~3)を解いてみましょう。(2h) | | | | | | |
| 14 | 指導グレードの過去問題を使用し、実践力を身に付ける。 [課題(復習)]課題(4~6)を解いてみましょう。(2h) | | | | | | |
| 15 | 期末テストに向けて質疑応答 [課題(復習)]わからない所を質問できるようにまとめておきましょう。(2h) | | | | | | |
| 時間外での学修 | 理解のためには、授業内の演習だけでなく、予習復習が必要不可欠です。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間: 30時間】 | | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 和声学は、西洋音楽の基本です。演奏力、アレンジ力向上のためにも、積極的に受講してください。 オフィスアワーは、教室で授業前後です。 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|----------------|---|--|-------|----------|----|----------|-------|
| 【3S8A221】和声法 | | 音楽総合学科 | 2年後期 | | | | |
| 1単位 | | 選択 | 演習 | 30時間 | | | |
| 教員 | 三輪 泰子 | | | | | | |
| 資格・制限等 | 特になし | | | | | | |
| 実務家教員 | 音楽教室講師・17年 | | | | | | |
| 授業方法 | 講義形式ですが、課題理解のための個人指導にも力を入れていきます。 課題に取り組むための自主性を養います。質問等は授業時やメール等で受け付けます。 | | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 和声と楽典の基礎的な知識を身に付け、更に、応用し、問題演習する。 | | | | | |
| | 思考・判断・表現 | 西洋音楽の土台となっている和声感を感じられるようにしたい。楽典を習熟することで、演奏者としての表現力を高めたい。 | | | | | |
| | 技能 | グレード取得により、社会的評価を得て、就職活動へと繋げていく。 | | | | | |
| | 関心・意欲・態度 | 和声と楽典の知識を、演奏、創作、音楽指導活動に活かせるようにする。 | | | | | |
| | 備考 | ・・の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。 | | | | | |
| 授業内容 | 指導グレードに必要な和声学、音楽知識を身に付け、各自、希望するグレード取得を目指します。 | | | | | | |
| 観点別評価 | 評価方法 | 評価の観点 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 試験 | 50 | 20 | 20 | - | 90 | |
| | 受講態度 | - | - | - | 10 | 10 | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | 合 計(点) | 50 | 20 | 20 | 10 | 100 | |
| 評価の特記事項 | 3分の1以上欠席した学生は期末試験の受験資格がありません。 フィードバックとして試験結果についてコメントを返します。 | | | | | | |
| I C T 活用 | ICTを活用した自主学習支援 (Gmailなど) | | | | | | |
| アカティブ・ラーニングの活用 | 課題以外にも、自主的に勉強する姿勢を奨励し、質問を受け付け、指導します。 | | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | 毎回、宿題プリントの添削と解答の説明を、授業内で個別指導していきます。 | | | | | | |
| テキスト | 『和声 理論と実習』島岡 譲 他 音楽之友社(3,024円)ISBN:978-4276102057 「グレード対策応用」履修者は購入済 | | | | | | |
| 参考書・教材 | 授業中に配布するプリントを、教材としますので、必ず保管して下さい。 | | | | | | |
| 内容 | | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | | |
| 1 | 属9の和音(長調) [課題(復習)]課題35,36,37,38,39を解いてみましょう。(2h) | | | | | | |
| 2 | 属9の和音(長調) [課題(復習)]課題40(1~6)を解いてみましょう。(2h) | | | | | | |
| 3 | 属9の和音(長調) [課題(復習)]課題40(7~12)を解いてみましょう。(2h) | | | | | | |
| 4 | 属9の和音(短調) [課題(復習)]課題41,42を解いてみましょう。(2h) | | | | | | |
| 5 | 属9の和音(短調) [課題(復習)]課題43(1~4)を解いてみましょう。(2h) | | | | | | |
| 6 | 属9の和音(短調) [課題(復習)]課題43(5~8)を解いてみましょう。(2h) | | | | | | |
| 7 | 属9の和音(短調) [課題(復習)]課題43(9~12)を解いてみましょう。(2h) | | | | | | |
| 8 | D諸和音の総括 [課題(復習)]課題44(1~3)を解いてみましょう。(2h) | | | | | | |
| 9 | D諸和音の総括 [課題(復習)]課題44(4~6)を解いてみましょう。(2h) | | | | | | |
| 10 | D諸和音の総括 [課題(復習)]課題44(7~8)を解いてみましょう。(2h) | | | | | | |
| 11 | 補充課題の実習 [課題(復習)]属9の和音(長調)課題を解いてみましょう。(2h) | | | | | | |
| 12 | 補充課題の実習 [課題(復習)]属9の和音(短調)課題を解いてみましょう。(2h) | | | | | | |
| 13 | 補充課題の実習 [課題(復習)]D諸和音の総括(長調)課題を解いてみましょう。(2h) | | | | | | |
| 14 | 補充課題の実習 [課題(復習)]D諸和音の総括(短調)課題を解いてみましょう。(2h) | | | | | | |
| 15 | 期末テストに向けて質疑応答 [課題(復習)]わからない所を質問できるようにまとめておきましょう。(2h) | | | | | | |
| 時間外での学修 | 理解のためには、授業内の演習だけでなく、予習復習が必要不可欠です。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:30時間】 | | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 和声学は、西洋音楽の基本です。演奏力、アレンジ力向上のためにも、積極的に受講してください。 オフィスアワーは、教室で授業前後です。 | | | | | | |

| 【3W5S205】吹奏楽実践演習 | | 音楽総合学科 | | 2年前期 | | |
|------------------|--|--|----------|------|----------|-------|
| 教員 | 森岡 佐和・小林 聰・野々垣 行恵 | 2単位 | 選択 | 演習 | 60時間 | |
| 資格・制限等 | Wコース必修 | | | | | |
| 実務家教員 | 森岡：オーケストラ25年 小林：大学非常勤講師・20年、演奏家・37年、作編曲家・24年 | | | | | |
| 授業方法 | 吹奏楽の合奏を中心にセクションやパート別に演習を行い個々の合奏能力を高めています。 | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 時代や様式に合ったスタイルを理解し、それぞれに適切な演奏方法を学ぶ。 | | | | |
| | 思考・判断・表現 | 楽譜に書かれていることから適切な練習方法、表現方法を自ら工夫して判断できる力を養う。 | | | | |
| | 技能 | 合奏の中で他の音を聞く力を高め、音楽の流れを掴む力を磨く。 | | | | |
| | 関心・意欲・態度 | 課題の曲への取り組み方、準備、曲に関する情報を自ら収集する。 | | | | |
| 授業内容 | 様々な時代、様式の音楽を取り上げながらアンサンブルの基本を学び、拍節、和声などの基本を学びます。さらに古楽に触ることで現代の音楽がいかに表現されるべきかを理解し表現力を高めます。 | | | | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 評価方法 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 筆記試験 | 10 | 10 | 10 | - | 30 |
| | 受講態度 | 10 | 20 | 30 | 10 | 70 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計(点) | 20 | 30 | 40 | 10 | 100 |
| 評価の特記事項 | 各授業での合奏の取り組みの姿勢、準備、真剣さ、熱意なども含め総合的な評価の対象とします。 | | | | | |
| I C T 活用 | 不明なことなどはオンラインでの個人レッスンなどで対応します。学生ポータル | | | | | |
| アクティ・ラーニングの活用 | セクション練習、パート練習などのグループワークおよびディスカッション | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | 達成度を自己評価し、未到達の部分は授業後などに個々の課題に共に取り組みます。 | | | | | |
| テキスト | その都度配布します。 | | | | | |
| 参考書・教材 | 楽譜、楽曲、作曲者などに関する資料をその都度配布します。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | ガイダンス 年間予定の説明、合奏授業での注意点、取り組む課題とその目標を理解する。目標：楽しい合奏になるように音の響きをしっかりと掴む。 練習用課題の楽譜の配布、譜読みを行い、曲の全体像を把握するとともに改善すべき点をチェックする。 〔課題（復習）〕：配られた楽譜の練習。目標：ゆっくりのテンポで一つつの音の動きを確実に演奏できること。 | | | | | |
| 2 | スケール、ハーモニーの練習。各調で5度の進行によるハーモニー上でのスケールの練習を行う。目標：音階固有の音を感覚的に捉えること。簡単な即興ができるようになることと、その意味を理解すること。 前回に引き続き練習用の楽曲の合奏 グレゴリオ聖歌を練習し、短旋律での音のつながりを捉える。 | | | | | |
| 3 | スケール、ハーモニーの練習。前回の内容をさらに各調にて練習を行う。 F dur, Es dur など。ルネサンスの音楽世俗的な舞曲（パヴァーヌ、ガイヤルド等）を演奏することで、リズムの強弱を理解する。 〔課題（復習）〕：F dur, Es dur の音階練習(4h) | | | | | |
| 4 | スケール、ハーモニーの練習。これまでに練習した調の平行短調の練習。ルネサンスの音楽世俗的な舞曲（ジグ、サラバンド等）を演奏することで、リズムの強弱を理解する。 〔課題（復習）〕：g moll, d moll, c mollの音階練習(4h) | | | | | |
| 5 | スケール、ハーモニーの練習。これまでに練習した調でさらに様々な音形をマスターする。ルネサンスのボリフォニーの音楽に触れる。異なる声部の音を聞く力を養う。 身近なボビュラーミュージックへ取り組む。歌心を意識して演奏ができるようになる。 〔課題（復習）〕：様々な音形の練習(4h) | | | | | |
| 6 | スケール、ハーモニーの練習。前回までの音階練習にアーティキュレーションを加えた練習を行う。前回に引き続きルネサンスのボリフォニーの音楽に触れる。異なる声部の音を聞く力を養う。 身近なボビュラーミュージックへ取り組む。ベースの動きとコード進行を聞きながら演奏ができるようになる。 〔課題（復習）〕：様々なアーティキュレーションでの音階練習(4h) | | | | | |
| 7 | スケール、ハーモニーの練習。G dur, D, dur e moll, h mollで前回までの練習を行う。前回に引き続きルネサンスのボリフォニーの音楽に触れる。異なる声部の音を聞く力を養う。 身近なボビュラーミュージックへ取り組む。ベースとリズムの動きがいかに重要であるかを理解する。 〔課題（復習）〕：G dur, D, dur e moll, h mollで様々なアーティキュレーションでの音階練習(4h) | | | | | |
| 8 | スケール、ハーモニーの練習。半音階の練習、3度から5度までのインターバルの練習 前回に引き続きルネサンスのボリフォニーの音楽に触れる。声部間の対話、やりとりができるることを目標に合奏を行う。 スタンダードなジャズからリズムの流れを理解する。 〔課題（復習）〕：半音階の練習 (4h) | | | | | |
| 9 | スケール、ハーモニーの練習。半音階の練習、4度から6度までのインターバルの練習 前回に引き続きルネサンスのボリフォニーの音楽に触れる。声部間の対話、やりとりができるることを目標に合奏を行う。 スタンダードなジャズからリズムの流れを理解する。 〔課題（復習）〕：半音階の練習 (4h) | | | | | |
| 10 | スケール、ハーモニーの練習。半音階の練習、7度から8度までのインターバルの練習 バロックの音楽に触れる。様々な舞曲の様式を理解する。 スタンダードなジャズからリズムの流れを理解する。 〔課題（復習）〕：半音階の練習(4h) | | | | | |

| 実施回 | 内容 |
|-------------|---|
| | 授業内容・目標 |
| 11 | スケール、ハーモニーの練習。ソノリテを意識した3度の跳躍の練習 前回に引き続きパロックの音楽に触れる。様々な舞曲（サラバンド、ジグ等）の様式を理解する。 スタンダードなジャズからリズムの流れを理解する。 〔課題（復習）〕：半音階の練習 3度の跳躍の練習(4h) |
| 12 | スケール、ハーモニーの練習。ソノリテを意識した4度の跳躍の練習 前回に引き続きパロックの音楽に触れる。様々な舞曲（クーラント、アルマンド等）の様式を理解する。 アドリブへのチャレンジ 〔課題（復習）〕半音階の練習 4度の跳躍の練習(4h) |
| 13 | スケール、ハーモニーの練習。ソノリテを意識した5度の跳躍の練習 前回に引き続きパロックの音楽に触れる。様々な舞曲（ブーレー、メヌエット等）の様式を理解する。 アドリブへのチャレンジ 〔課題（復習）〕：半音階の練習 5度の跳躍の練習(4h) |
| 14 | スケール、ハーモニーの練習。ソノリテを意識した6度の跳躍の練習 前回に引き続きパロックの音楽に触れる。様々な舞曲（ポロネーズ、マズルカ等）の様式を理解する。 アドリブへのチャレンジ 〔課題（復習）〕：半音階の練習 6度の跳躍の練習(4h) |
| 15 | スケール、ハーモニーの練習。ソノリテを意識した7度の跳躍の練習 前回に引き続きパロックの音楽に触れる。バッハの作品の演奏 アドリブへのチャレンジ 〔課題（復習）〕：半音階の練習 7度の跳躍の練習(4h) |
| 時間外での学修 | 効率の良い練習でしっかりと基本を身につけてください。そのためにはスケールをしっかりと理解していくことです。【この科目で求める授業外での総学修時間：60時間】 |
| 受講学生へのメッセージ | 合奏では全員が心をひとつに美しい音楽を作りていきましょう。古楽を知ることは現代の音楽のルーツを知ることに繋がります。一つ一つのハーモニーがさらに大きな広がりとなるよう楽しい合奏を行なっていきます。オフィスアワーは授業の間の休憩時間、授業後とします。 |

| 【3W5A207】吹奏楽実践演習 | | 音楽総合学科 | | 2年後期 | | |
|------------------|--|--|----------|------|----------|-------|
| 教員 | 森岡 佐和・小林 聰・野々垣 行恵 | 2単位 | 選択 | 演習 | 60時間 | |
| 資格・制限等 | Wコース必修 | | | | | |
| 実務家教員 | 森岡：オーケストラ25年 小林：大学非常勤講師・20年、演奏家・37年、作編曲家・24年 | | | | | |
| 授業方法 | 吹奏楽の合奏を中心にセクションやパート別に演習を行い個々の合奏能力を高めています。 | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 時代や様式に合ったスタイルを理解し、それぞれに適切な演奏方法を学ぶ。 | | | | |
| | 思考・判断・表現 | 楽譜に書かれていることから適切な練習方法、表現方法を自ら工夫して判断できる力を養う。 | | | | |
| | 技能 | 合奏の中で他の音を聴く力を高め、音楽の流れを掴む力を磨く。 | | | | |
| | 関心・意欲・態度 | 課題の曲への取り組み方、準備、曲に関する情報を自ら収集する。 | | | | |
| 授業内容 | 様々な時代、様式の音楽を取り上げながらアンサンブルの基本を学び、拍節、和声などの基本を学びます。古典派、ロマン派はの様式から近現代の音楽への流れを楽曲の演奏を通じて学修します。様々なポピュラー音楽の違いを探りそれぞれの演奏スタイルを理解します。 | | | | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 評価方法 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 筆記試験 | 10 | 10 | 10 | - | 30 |
| | 受講態度 | 10 | 20 | 30 | 10 | 70 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計(点) | 20 | 30 | 40 | 10 | 100 |
| 評価の特記事項 | 各授業での合奏の取り組みの姿勢、準備、真剣さ、熱意なども含め総合的な評価の対象とします。 | | | | | |
| I C T 活用 | 不明なことなどはオンラインでの個人レッスンなどで対応します。学生ポータル | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの活用 | セクション練習、パート練習などのグループワークおよびディスカッション | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | 達成度を自己評価し、未到達の部分は授業後などに個々の課題に共に取り組みます。 | | | | | |
| テキスト | その都度配布します。 | | | | | |
| 参考書・教材 | 楽譜、楽曲、作曲者などに関する資料をその都度配布します。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | スケール、ハーモニーの練習。これまでに学修した内容をさらに色々な調へ拡大して練習する。 モーツアルトのグランパルティータを演奏し、ハーモニーの美しさを味わいながらそれぞれの楽章の様式を理解していく。 〔課題(復習)〕：スケールの練習(フラット、シャープ3つまで)(4h) | | | | | |
| 2 | スケール、ハーモニーの練習。これまでに学修した内容をさらに色々な調へ拡大して練習する。舞曲のリズムを意識し生き生きとした音楽表現の方法を知る。 前回に引き続き、モーツアルトのグランパルティータを演奏し、ハーモニーの美しさを味わいながらそれぞれの楽章の様式を理解していく。 〔課題(復習)〕：スケールの練習(フラット、シャープ4つまで)(4h) | | | | | |
| 3 | スケール、ハーモニーの練習。これまでに学修した内容をさらに色々な調へ拡大して練習する。舞曲のリズムを意識し生き生きとした音楽表現の方法を知る。 前回に引き続き、モーツアルトのグランパルティータを演奏し、ハーモニーの美しさを味わいながらそれぞれの楽章の様式を理解していく。 〔課題(復習)〕：スケールの練習(フラット、シャープ5つまで)(4h) | | | | | |
| 4 | スケール、ハーモニーの練習。これまでに学修した内容をさらに色々な調へ拡大して練習する。舞曲のリズムを応用し、一つ一つの音の長さをどのように扱うかを理解する。 前回に引き続き、モーツアルトのグランパルティータの仕上げ。ロマン派の音楽に触れる。ロマン派の音楽に息づく精神を感じ取る。 〔課題(復習)〕：スケールの練習(総合練習)(4h) | | | | | |
| 5 | スケール、ハーモニーの練習。これまでに学修した内容をさらに色々な調へ拡大して練習する。舞曲のリズムを応用し、前回に引き続き一つ一つの音の長さをどのように扱うかを理解する。自由に音形を創造し、スケール練習のヴァリエーションを広げる。 前回に引き続き、ロマン派の音楽に触れる。ロマン派の音楽に息づく精神を感じ取る。 定期演奏会へ向けての練習 〔課題(復習)〕：スケールの練習(総合練習)(4h) | | | | | |
| 6 | スケール、ハーモニーの練習。今まで学修してきたことを総合的に組み合わせ、ハーモニーの中でのスケールの動き、変化、抑揚などを理解する。 前回に引き続き、ロマン派の音楽に触れる。ロマン派の音楽に息づく精神を感じ取る。 比較的新しいジャズ、ポップスへの取り組み。古い音楽とのリズムの違いを知る。 定期演奏会へ向けての練習 〔課題(復習)〕：スケールの練習(総合練習)(4h) | | | | | |
| 7 | スケール、ハーモニーの練習。 近代の音楽(ドビュッシー、ラヴェル等)音楽に触れ、その色彩感を味わう。 比較的新しいジャズ、ポップスへの取り組み。古い音楽とのリズムの違いを知る。 定期演奏会へ向けての練習 〔課題(復習)〕：スケールの練習(総合練習)(4h) | | | | | |
| 8 | スケール、ハーモニーの練習。 近代の音楽(ドビュッシー、ラヴェル等)音楽に触れ、その色彩感を味わう。 ラテンの音楽、南米などの音楽にふれマンボ、ボサなどのリズムを知る。 定期演奏会へ向けての練習 〔課題(復習)〕：スケールの練習(総合練習)(4h) | | | | | |

| 内容 | |
|-------------|--|
| 実施回 | 授業内容・目標 |
| 9 | スケール、ハーモニーの練習。 近代の音楽（ドビュッシー、ラヴェル等）音楽に触れ、その色彩感を味わう。 ラテンの音楽、南米などの音楽にふれマンボ、ボサなどのリズムを知る。 定期演奏会へ向けての練習 〔課題（復習）〕：スケールの練習（総合練習）(4h) |
| 10 | スケール、ハーモニーの練習。総合練習 吹奏楽のオリジナル作品その中でもホルスト、グレンジャーなどの歴史のあるものを取り上げる。管楽合奏の響きを体得する。 定期演奏会へ向けての練習 〔課題（復習）〕：半音階の練習 総合練習(4h) |
| 11 | スケール、ハーモニーの練習。総合練習 前回に引き続き、吹奏楽のオリジナル作品その中でもホルスト、グレンジャーなどの歴史のあるものを取り上げる。管楽合奏の響きを体得する。 定期演奏会へ向けての練習 〔課題（復習）〕：半音階の練習 総合練習(4h) |
| 12 | スケール、ハーモニーの練習。総合練習 前回に引き続き、吹奏楽のオリジナル作品その中でもホルスト、グレンジャーなどの歴史のあるものを取り上げる。管楽合奏の響きを体得する。 定期演奏会へ向けての練習 〔課題（復習）〕：半音階の練習 総合練習(4h) |
| 13 | スケール、ハーモニーの練習。総合練習 アメリカの吹奏楽のオリジナルの作品に触れる。マーチから現代の作曲家まで。 定期演奏会へ向けての練習 〔課題（復習）〕：半音階の練習 総合練習(4h) |
| 14 | スケール、ハーモニーの練習。総合練習 前回に引き続き、アメリカの吹奏楽のオリジナルの作品に触れる。マーチから現代の作曲家まで。 定期演奏会へ向けての練習 〔課題（復習）〕：半音階の練習 総合練習(4h) |
| 15 | スケール、ハーモニーの練習。総合練習 前回に引き続き、アメリカの吹奏楽のオリジナルの作品に触れる。マーチから現代の作曲家まで。 定期演奏会へ向けての練習 〔課題（復習）〕：半音階の練習 総合練習(4h) |
| 時間外での学修 | 効率の良い練習でしっかりと基本を身につけてください。そのためにはスケールをしっかりと理解していくことです。【この科目で求める授業外での総学修時間：60時間】 |
| 受講学生へのメッセージ | 合奏では全員が心をひとつに美しい音楽を作りていきましょう。一つ一つのハーモニーがさらに大きな広がりとなるよう楽しい合奏を行なっていきます。オフィスアワーは授業の間の休憩時間、授業後とします。 |

| | | | | | |
|-----------------|---|--|----------|------|----------|
| 【3W5S206】アンサンブル | | 音楽総合学科 | | 2年前期 | |
| 2単位 | | 選択 | | 演習 | |
| 教員 | 森岡 佐和 | | | | |
| 資格・制限等 | Wコース必修 | | | | |
| 実務家教員 | | | | | |
| 授業方法 | アンサンブルをするための基本的な表現方法や技術を講義によって学びます。そのうえで、同属楽器を中心としたアンサンブルを編成し、楽曲を探求します。それぞれの編成において、実技レッスンを行います。最終試験として、互いに発表しあい、意見を交換します。また、学外コンサート用楽曲を題材に、合奏を中心とした基本的な技術と表現方法を学びます。 | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | アンサンブルや合奏を通して、各自が持つ積極性、運営力やコミュニケーション力を使い、楽譜を深く理解した上で、音楽性を伴った表現豊かな演奏ができる。 | | | |
| | 思考・判断・表現 | アンサンブルや合奏を通して、各自が持つ積極性、運営力やコミュニケーション力を使い、楽譜を正しく理解した上で、楽譜通り正確に演奏できる。 | | | |
| | 技能 | スムーズな移調ができる。全調スケールが演奏できる。ハーモニーにおいて響きを同調させ、バランスをとることができる。 | | | |
| | 関心・意欲・態度 | 感動を生むくらいの調和、自発性、総合的音楽性を養うために深く探求することができます。 | | | |
| | 備考 | ・・・の記号は、音楽総合学科のDP・到達目標との結びつきの強さを示しています。 | | | |
| 授業内容 | アンサンブルや合奏（小編成）を通して、演奏技術、表現能力、各奏者間のコミュニケーション能力を磨きます。前期は特に移調や、全調スケール（長調）、ハーモニー等を復習した上で、豊かで個性的な音楽を作り上げる研究をします。また、学外演奏会を実現する中で様々な役割を経験し、生演奏でしか味わえない「音による会話」の臨場感を感じ、発展的な演奏をする喜びを体験します。 | | | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 評価方法 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 |
| | 実技試験、小テスト | 20 | 20 | 30 | - |
| | 課題提出、受講態度 | 10 | 10 | - | 10 |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | 合 計(点) | 30 | 30 | 30 | 10 |
| 評価の特記事項 | 受講態度は、受講姿勢、課題の取り組み状況などを基に総合的に評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験（実技試験）の受験資格はありません。 | | | | |
| ICT活用 | ICTを活用した自主学習支援（Googleフォーム、学生ポータル） | | | | |
| アクティブ・ラーニングの活用 | アンサンブルによるグループ・ワーク、ディスカッションなど | | | | |
| 課題に対するフィードバック | 小テストや課題は、個々の取り組みや学びを確認し、質問にはコメントを返します。アンサンブル及び、合奏レッスンにおいて、個々の課題を指摘し改善方法や練習方法を示します。 | | | | |
| テキスト | 『随时プリント配付』 | | | | |
| 参考書・教材 | 楽譜等その都度配布 | | | | |
| 内容 | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | |
| 1 | ガイダンス、授業の進め方、授業の内容説明等。 学外演奏のためのレパートリー [課題（準備・復習・予習）]シラバスの熟読、本時学修内容の復習。移調の方法を予習しておく。合奏曲の正確な譜読み（音とリズム）。(2~4h) | | | | |
| 2 | 移調の基礎知識と移調楽器について 学外演奏のためのレパートリー [課題（復習）]本時学修内容（各移調楽器の特徴、調性）の復習及び、練習課題に取り組む。合奏曲の正確な譜読み（音とリズム）。(2~4h) | | | | |
| 3 | 移調の方法と実践 学外演奏のためのレパートリー [課題（復習・予習）]本時学修内容（管楽器における移調の実践方法）の復習及び、練習課題に取り組む。小テスト（記譜・移調）の予習。合奏曲の正確な譜読み（音とリズム）。(2~4h) | | | | |
| 4 | 移調の方法と実践 学外演奏のためのレパートリー [課題（復習・予習）]本時学修内容（管楽器における移調の実践方法）の復習及び、練習課題に取り組む。小テスト（記譜・移調）の予習。合奏曲の正確な譜読み（アーティキュレーションと強弱）。(2~4h) | | | | |
| 5 | 小テスト（記譜・移調） 学外演奏のためのレパートリー [課題（準備・復習）]小テスト（記譜・移調）の復習。スケールテストの準備。合奏曲の正確な譜読み。（アーティキュレーションと強弱）(2~4h) | | | | |
| 6 | アンサンブル演習 学外演奏のためのレパートリー、全調スケール（長調） [課題（復習）]アンサンブル曲の正確な譜読み（音とリズム）。スケールテストの準備。合奏曲の正確な譜読み（フレージング、バランス）(2~4h) | | | | |
| 7 | アンサンブル演習 学外演奏のためのレパートリー、全調スケール（長調） [課題（復習）]アンサンブル曲の正確な譜読み（音とリズム）。スケールテストの準備。合奏曲の正確な譜読み（フレージング、バランス）(2~4h) | | | | |
| 8 | アンサンブル演習 学外演奏のためのレパートリーまとめ、全調スケール（長調） [課題（復習）]アンサンブル曲の正確な譜読み（アーティキュレーション、強弱）。スケールテストの準備。合奏曲の正確な譜読み（まとめ）(2~4h) | | | | |

| 内容 | |
|-------------|---|
| 実施回 | 授業内容・目標 |
| 9 | アンサンブル演習 学外演奏のためのレパートリーまとめ、全調スケール（長調） 【課題（復習）】アンサンブル曲の正確な譜読み（アーティキュレーション、強弱）。スケールテストの準備。合奏曲の正確な譜読み（まとめ）（2～4h） |
| 10 | 小テスト（全調スケール：長調） 学内コンサートのためのレパートリー 【課題（復習）】全調スケールテストの復習と定着。合奏曲の正確な譜読み（音とリズム）（2～4h） |
| 11 | アンサンブル演習 学内コンサートのためのレパートリー 【課題（復習）】アンサンブル曲の正確な譜読み（フレージング、ハーモニーバランス）。合奏曲の正確な譜読み（音とリズム）（2～4h） |
| 12 | アンサンブル演習 学内コンサートのためのレパートリー 【課題（復習）】アンサンブル曲の正確な譜読み（フレージング、ハーモニーバランス）。合奏曲の正確な譜読み（アーティキュレーション、強弱）（2～4h） |
| 13 | アンサンブル演習 学内コンサートのためのレパートリー 【課題（復習）】アンサンブル曲の正確な譜読み（個性を活かした表現）。合奏曲の正確な譜読み（アーティキュレーション、強弱）（2～4h） |
| 14 | アンサンブル演習 学内コンサートのためのレパートリー 【課題（復習）】アンサンブル曲の正確な譜読み（個性を活かした表現）。合奏曲の正確な譜読み（フレージング、バランス）（2～4h） |
| 15 | 前期まとめ、アンサンブル演習 【課題（復習）】発表会の反省。講評で指摘された箇所の改善と定着、発展。（2～4h） |
| 時間外での学修 | 個人の基礎練習を日頃から行い身体にしみ込ませましょう。アンサンブルについては、メンバー同士のコミュニケーションを取り、授業時間外で合わせの練習や研究の実践が必要です。 【この科目で求める望ましい授業時間外での総学修時間：30～60時間】 |
| 受講学生へのメッセージ | 履修学生は授業内容に沿った個人練習（予習・復習）と学修内容の復習を必要不可欠とします。授業の性格上、欠席や遅刻が他の受講生の音樂作りや授業の進行に多大な迷惑をかけることを承知の上で自覚と責任の心を持って授業に取り組みましょう。 オフィスアワーは、講義終了後、各教室で行います。その他、B204研究室にも気軽に相談に来てください。 |

| | | | | | | |
|-----------------|--|---|----------|------|----------|-------|
| 【3W5A208】アンサンブル | | 音楽総合学科 | | 2年後期 | | |
| | | 2単位 | 選択 | 演習 | 60時間 | |
| 教員 | 森岡 佐和 | | | | | |
| 資格・制限等 | Wコース必修 | | | | | |
| 実務家教員 | | | | | | |
| 授業方法 | 後期は、各アンサンブルを通じてメロディの演奏法を中心に学修します。みずき祭や学外演奏、定期演奏会等での発表を通じて、メンバーの一員としての演奏表現力や姿勢を学びます。発表しあい、意見を交換します。また、学外（学内）コンサート用楽曲を中心に、小合奏を中心に基本的な技術と表現方法も同時に学びます。 | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | メロディの歌い方についての実践的な方法を理解できる。ソリストとしての演奏法や心構えについて、より深く理解できる。 | | | | |
| | 思考・判断・表現 | メンバーの一員として、個性豊かな演奏表現力を身につける。 | | | | |
| | 技能 | 全調スケール（短音階）ができるとともにメロディの歌い方を正しく理解し、演奏することができる。個人の音作りとアンサンブルの音作りを結びつけて、音楽性を伴った演奏ができる | | | | |
| | 関心・意欲・態度 | 感動を生むくらいの調和、自発性、総合的音楽性を養うために深く探求することができる。 | | | | |
| | 備考 | ・・・の記号は、音楽総合学科のDP・到達目標との結びつきの強さを示しています。 | | | | |
| 授業内容 | 後期は特に全調スケール（短調）や、メロディの歌い方について学修した上で、一つの音楽をメンバーとともに作り上げる研究をします。また、学外（学内）コンサートや定期演奏会を実現する中で、演奏家としてのマナーを学び、合奏に必要な実践的な能力を学びます。その上で、生演奏でしか味わえない「音による会話」の臨場感を感じ、発展的な演奏をする喜びを体験します。 | | | | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 評価方法 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 実技試験、小テスト | 20 | 20 | 30 | - | 70 |
| | 課題提出、受講態度 | 10 | 10 | - | 10 | 30 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計(点) | 30 | 30 | 30 | 10 | 100 |
| 評価の特記事項 | 受講態度は、受講姿勢、課題の取り組み状況などを基に総合的に評価します。 全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験（実技試験）の受験資格はありません。 | | | | | |
| ICT活用 | ICTを活用した自主学習支援（Googleフォーム、学生ポータル） | | | | | |
| アグティブ・ラーニングの活用 | アンサンブルによるグループ・ワーク、ディスカッションなど | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | 小テストや課題は、個々の取り組みや学びを確認し、質問にはコメントを返します。アンサンブル及び、合奏レッスンにおいて、個々の課題を指摘し改善方法や練習方法を示します。 | | | | | |
| テキスト | 『随時プリント配付』 | | | | | |
| 参考書・教材 | 楽譜等その都度配布 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | ガイダンス、授業の進め方、授業の内容説明等 学内コンサートのためのアンサンブル、学外コンサート準備 [課題（準備・復習・予習）]シラバスの熟読、本時学修内容の復習。配布楽譜の予習・復習。正確な譜読み。(2~4h) | | | | | |
| 2 | 学内コンサートのためのアンサンブル、学外コンサート準備 [課題（予習・復習）]本時学修内容の復習。配布楽譜の予習・復習。正確な譜読み。(2~4h) | | | | | |
| 3 | 学内コンサートのためのアンサンブル、学外コンサートの準備 [課題（準備・予習・復習）]本時学修内容の復習。配布楽譜の予習・復習。正確な譜読み。(2~4h) | | | | | |
| 4 | 全調スケール（旋律的短音階）テスト 学内コンサートのためのアンサンブル [課題（予習・復習）]本時学修内容の復習。短音階テストの復習。配布楽譜の予習・復習。正確な譜読み。(2~4h) | | | | | |
| 5 | 学内コンサートのためのアンサンブル（まとめ） [課題（予習・復習）]本時学修内容の復習。配布楽譜の予習・復習。正確な譜読み。(2~4h) | | | | | |
| 6 | 学外コンサートのためのアンサンブル&小合奏 [課題（復習）]事前に自分の音程の癖を把握しておく。配布楽譜の予習・復習。正確な譜読み。(2~4h) | | | | | |
| 7 | 学外コンサートのためのアンサンブル&小合奏 [課題（復習）]配布楽譜の予習・復習。正確な譜読み。(2~4h) | | | | | |
| 8 | 学外コンサートのためのアンサンブル&小合奏 [課題（復習）]配布楽譜の予習・復習。正確な譜読み。(2~4h) | | | | | |
| 9 | 学外コンサートのためのアンサンブル&小合奏 [課題（準備・復習）]レッスンで指摘された箇所の改善と定着、発展。(2~4h) | | | | | |
| 10 | 学外コンサートのためのアンサンブル&小合奏 [課題（復習）]レッスンで指摘された箇所の改善と定着、発展。(2~4h) | | | | | |
| 11 | 定期演奏会等にむけた自由アンサンブル [課題（復習・予習）] レッスンで指摘された箇所の改善と定着、発展。(2~4h) | | | | | |
| 12 | 定期演奏会等にむけた自由アンサンブル [課題（復習）] レッスンで指摘された箇所の改善と定着、発展。(2~4h) | | | | | |
| 13 | 定期演奏会等にむけた自由アンサンブル [課題（復習）] レッスンで指摘された箇所の改善と定着、発展。(2~4h) | | | | | |
| 14 | 定期演奏会等にむけた自由アンサンブル [課題（復習）] 演習試験の振り返り。指摘された箇所の改善と定着、発展。(2~4h) | | | | | |
| 15 | 実技試験 [課題（復習）]実技試験の振り返り。指摘された箇所の改善と定着、発展。(2~4h) | | | | | |

| | |
|-------------|--|
| 時間外での学修 | 個人の基礎練習を日頃から行い身体にしみ込ませましょう。アンサンブルについて、個人の演奏能力向上とともに、メンバーとのコミュニケーションを図る必要があります。気を抜かず取り組んでください。 【この科目で求める望ましい授業時間外での総学修時間：30～60時間】 |
| 受講学生へのメッセージ | 履修学生は授業内容に沿った個人練習（予習・復習）と学修内容の復習を必要不可欠とします。授業の性格上、欠席や遅刻が他の受講生の音樂作りや授業の進行に多大な迷惑をかけることを承知の上で自覚と責任の心を持って授業に取り組みましょう。上級生としての自覚と責任ある言動を期待します。 オフィスアワーは、講義終了後、各教室で行います。その他、B204研究室にも気軽に相談に来てください。 |

| 【3S8S217】スコアリーディング | | 音楽総合学科 | 2年後期 | | | |
|--------------------|---|---|----------|------|----------|-------|
| 2単位 | 選択 | | 講義 | 30時間 | | |
| 教員 | 小林 聰 | | | | | |
| 資格・制限等 | 特になし | | | | | |
| 実務家教員 | 大学非常勤講師・20年、演奏家・37年、作編曲家・24年 | | | | | |
| 授業方法 | 講義を中心とし、ディスカッション、質疑応答も取り入れながら授業を行います。様々な編成のスコアを演奏可能なピアノ譜に書き換えることによって移調楽器などの扱いに慣れていきます。また、作成したピアノ譜から和声の分析を行うことによりスコアから音楽の構造を読み取る力をつけていきます。 | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | オーケストラ、吹奏楽で使用される楽器の音の高さ、記譜法を理解する。 | | | | |
| | 思考・判断・表現 | スコアを演奏可能なピアノ譜に書き換えるまでの取捨選択を的確に行う。 | | | | |
| | 技能 | スコアから和声を読み取る力をつける。 | | | | |
| | 関心・意欲・態度 | ある程度のスコアリーディング力を獲得することは、音楽に対する理解を深め、興味をより一層増大させると考えられる。 | | | | |
| 授業内容 | 様々な調性や音の高さで書かれたスコアは初心者にとっては、音楽の全体像を把握することは困難を伴います。スコアリーディングでは楽譜を変換し書き直すことでそれぞれの楽器に馴染みながら、一つ一つの瞬間にどのような音が鳴っているのかを理解し和声や音楽の構造について考えていきます。 | | | | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 評価方法 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 筆記試験 | 20 | 10 | 10 | - | 40 |
| | 授業時間内課題 | 10 | 10 | 10 | - | 30 |
| | 受講態度 | - | - | - | 30 | 30 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計(点) | 30 | 20 | 20 | 30 | 100 |
| 評価の特記事項 | 理解の達成度と問題解決への意欲を重視します。 | | | | | |
| ICT活用 | スコアリーディングへの質疑応答。 | | | | | |
| アグリ・ラーニングの活用 | ピアティーチングによる習熟度の相互確認。 | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | 各楽器の特徴、移調についての疑問に応え、リーディングの道筋となるピアノ譜への変換に適切なアドバイスを行います。 | | | | | |
| テキスト | | | | | | |
| 参考書・教材 | | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | オリエンテーション。スコアリーディングとは。【課題(復習)】学んだことの復習(4H) | | | | | |
| 2 | 弦楽四重奏のスコアを読んでみよう。各楽器の音の高さと音部記号の確認。【課題(復習)】学んだことの復習(4H) | | | | | |
| 3 | 弦楽四重奏のスコアをピアノ譜に書き換えてみよう。作成した楽譜から和声を分析します。【課題(予習、復習)】前回の曲をピアノ譜に書き換えます。(4H) | | | | | |
| 4 | 木管五重奏のスコアを読んでみよう。各楽器の音の高さと移調の確認。【課題(復習)】学んだことの復習(4H) | | | | | |
| 5 | 木管五重奏のスコアをピアノ譜に書き換えてみよう。作成した楽譜から和声を分析します。【課題(予習、復習)】前回の曲をピアノ譜に書き換えます。(4H) | | | | | |
| 6 | サックス四重奏のスコアを読んでみよう。各楽器の音の高さと移調の確認。【課題(復習)】学んだことの復習(4H) | | | | | |
| 7 | サックス四重奏のスコアをピアノ譜に書き換えてみよう。作成した楽譜から和声を分析します。【課題(予習、復習)】前回の曲をピアノ譜に書き換えます。(4H) | | | | | |
| 8 | 金管五重奏のスコアを読んでみよう。各楽器の音の高さと移調の確認。【課題(復習)】学んだことの復習(4H) | | | | | |
| 9 | 金管楽器のスコアをピアノ譜に書き換えてみよう。作成した楽譜から和声を分析します。【課題(予習、復習)】前回の曲をピアノ譜に書き換えます。(4H) | | | | | |
| 10 | 吹奏楽のスコアを読んでみよう。【課題(復習)】学んだことの復習(4H) | | | | | |
| 11 | 吹奏楽のスコアをピアノ譜に書き換えてみよう。作成した楽譜から和声を分析します。【課題(予習、復習)】前回の曲をピアノ譜に書き換えます。(4H) | | | | | |
| 12 | オーケストラのスコアを読んでみよう。第1回【課題(復習)】学んだことの復習(4H) | | | | | |
| 13 | オーケストラのスコアをピアノ譜に書き換えてみよう。第1回 作成した楽譜から和声を分析します。【課題(予習、復習)】前回の曲をピアノ譜に書き換えます。(4H) | | | | | |
| 14 | オーケストラのスコアを読んでみよう。第2回【課題(復習)】学んだことの復習(4H) | | | | | |
| 15 | オーケストラのスコアをピアノ譜に書き換えてみよう。第2回 作成した楽譜から和声を分析します。【課題(予習、復習)】前回の曲をピアノ譜に書き換えます。(4H) | | | | | |
| 時間外での学修 | 授業時間中にできなかったことは持ち帰って学修してください。2回の講義で1セットになっています。1回目で学んだ内容を踏まえて楽譜を作成してください。【この科目で求める望ましい授業外で総学修時間: 60時間】 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | スコアリーディングでは実施を中心に行なっていきますが、その都度楽器の特徴、記譜法などを確認します。繰り返し行なうことでそれぞれの特徴をしっかりと覚えてください。オフィスアワーは授業前後の休み時間に教室で実施します。 | | | | | |

| | | | | | | |
|----------------|--|---|----------|---------|----------|-------|
| 【3W5S211】吹奏楽研究 | | 音楽総合学科 | 2年前期 | | | |
| | | 2単位 | 選択 | 講義 30時間 | | |
| 教員 | 小林 聰 | | | | | |
| 資格・制限等 | 特になし | | | | | |
| 実務家教員 | 大学非常勤講師・20年、演奏家・37年、作編曲家・24年 | | | | | |
| 授業方法 | 講義を中心とし、ディスカッションも取り入れながら授業を行います。現代の吹奏楽の楽曲について、作曲家、楽曲について考えながら、楽曲を鑑賞するとともに実際に楽器を使って音を出しながら楽曲への理解度を深め、練習方法などを解説していきます。 | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 現代の吹奏楽の楽曲について詳細な知識を得る。 | | | | |
| | 思考・判断・表現 | 吹奏楽の楽曲を多く知ることで、現代の吹奏楽のスタイルを理解し、演奏時の思考方法、判断力を養い音楽表現の幅を広げる。 | | | | |
| | 技能 | 鑑賞から練習、演奏の方法を理解する。 | | | | |
| | 関心・意欲・態度 | 楽曲への関心を高め、上達の意欲への動機づけが自ら行えるようにする。 | | | | |
| 授業内容 | 作曲家、楽曲またその社会的背景などにも目を向け、楽曲への知識を高めます。楽曲の鑑賞によって曲をよく知るとともに、実際に楽器で演奏しながら練習方法などを考察し、楽団の入団試験では必須のオーケストラスタディの取り組み方を理解します。 | | | | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 評価方法 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 筆記試験 | 30 | 10 | 10 | - | 50 |
| | 受講態度 | 10 | 10 | 20 | 10 | 50 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計(点) | 40 | 20 | 30 | 10 | 100 |
| 評価の特記事項 | 各授業での合取り組みの姿勢、準備、真剣さ、熱意なども含め総合的な評価の対象とします。 | | | | | |
| ICT活用 | 不明なことなどはオンラインでの個人レッスンなどで対応します。学生ポータル | | | | | |
| アグティブ・ラーニングの活用 | グループワーク等 | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | わかるまで取り組む姿勢を大切に、授業後の時間も有効活用します。 | | | | | |
| テキスト | | | | | | |
| 参考書・教材 | 楽譜、楽曲、作曲者などに関する資料をその都度配布します。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | マーチを知ろう。ドイツ、フランス、アメリカ等の軍楽隊のために作られた作品の鑑賞と研究。楽譜を見ながら行進曲のリズムの基本を学びます。 〔課題（準備・復習）〕次回の研究対象についての下調べ。各時間でのオーケストラスタディの見直し（4H） | | | | | |
| 2 | イギリスの吹奏楽 ホルスト、ヴォーン＝ウィリアムスなどの作品から管楽合奏の響きの基本を学びます。 〔課題（準備・復習）〕次回の研究対象についての下調べ。各時間でのオーケストラスタディの見直し（4H） | | | | | |
| 3 | グレンジャーの音楽 アイリッシュ・チューンをもとにした独特的な和声感の表現を研究します。 〔課題（準備・復習）〕次回の研究対象についての下調べ。各時間でのオーケストラスタディの見直し（4H） | | | | | |
| 4 | ダリウス・ミヨーの音楽 「フランス」組曲について 作曲の時代背景を知り、各楽章に扱われた題材について考える。 〔課題（準備・復習）〕次回の研究対象についての下調べ。各時間でのオーケストラスタディの見直し（4H） | | | | | |
| 5 | ヴァツラフ・ネリベルの音楽 2つの交響的断章、交響的断章について 東欧の吹奏楽の背景を知る。 〔課題（準備・復習）〕次回の研究対象についての下調べ。各時間でのオーケストラスタディの見直し（4H） | | | | | |
| 6 | アルフレッド・リードの音楽 アルメニアンダンス、ハムレット、オセロなどについて 〔課題（準備・復習）〕次回の研究対象についての下調べ。各時間でのオーケストラスタディの見直し（4H） | | | | | |
| 7 | ジェームズ・バーンズの音楽 アルヴァマード序曲、交響曲第3番など 〔課題（準備・復習）〕次回の研究対象についての下調べ。各時間でのオーケストラスタディの見直し（4H） | | | | | |
| 8 | ヤン・ヴァン・デル・ローストの音楽 シンフォニア・フンガリカ、カンタベリー・コラールなど ベルギーの吹奏楽事情について 〔課題（準備・復習）〕次回の研究対象についての下調べ。各時間でのオーケストラスタディの見直し（4H） | | | | | |
| 9 | フィリップ・スパークの音楽 ジュビリー序曲、ドラゴンの年など 現在のイギリスの吹奏楽について 〔課題（準備・復習）〕次回の研究対象についての下調べ。各時間でのオーケストラスタディの見直し（4H） | | | | | |
| 10 | デイヴィッド・ギリングハムの音楽 エアロダイナミクス、闇の中のひとすじの光、アンド・キャント・イット・ビーなど 社会的背景をテーマとした作品の作曲の経緯を知る。 〔課題（準備・復習）〕次回の研究対象についての下調べ。各時間でのオーケストラスタディの見直し（4H） | | | | | |
| 11 | 保科洋の音楽 復興、交響的断章、古祀など 長年日本の吹奏楽を支えてきたその魅力を迫る。 〔課題（準備・復習）〕次回の研究対象についての下調べ。各時間でのオーケストラスタディの見直し（4H） | | | | | |
| 12 | 大栗裕、小山清茂、兼田敏、三善晃などの音楽 昭和時代の日本吹奏楽の流れを研究する。 〔課題（準備・復習）〕次回の研究対象についての下調べ。各時間でのオーケストラスタディの見直し（4H） | | | | | |

| 実施回 | 内容 | |
|-----------------|--|--|
| | 授業内容・目標 | |
| 13 | ベルト・アップルモントの音楽 交響曲第1番「ギルガメッシュ」、ガリバー旅行記など 〔課題（準備・復習）〕次回の研究対象についての下調べ。各時間でのオーケストラスタディの見直し (4H) | |
| 14 | クロード・トマス・スミスの音楽 ルイ・ブルジョワの讃歌による変奏曲、華麗なる舞曲など 華やか で技巧的なスミスの音楽の構造を知る。 〔課題（準備・復習）〕次回の研究対象についての下調べ。各時間でのオーケストラスタディの見直し (4H) | |
| 15 | フェレル・フェランの音楽 交響曲第2番「キリストの受難」など | |
| 時間外での学修 | 授業で学んだことの振り返り、オーケストラスタディの実施。 総学修時間 60 時間 | |
| 受講学生への メッセージ | 多くの曲を聞き、楽譜を見てその詳細を知ることはオーケストラスタディの基本です。吹奏楽に限らず合 奏に参加するための下準備は必要不可欠です。この時間でそのアプローチの方法を学んでください。 オフィスアワーは授業の後などの休み時間とします。 | |

| | | | | | | | |
|----------------|---|---|-------|----------|----|----------|-------|
| 【3W5A212】吹奏楽研究 | | 音楽総合学科 | 2年後期 | | | | |
| | | 2単位 | 選択 | 講義 30時間 | | | |
| 教員 | 小林 聰 | | | | | | |
| 資格・制限等 | 特になし | | | | | | |
| 実務家教員 | 大学非常勤講師・20年、演奏家・37年、作編曲家・24年 | | | | | | |
| 授業方法 | 講義を中心とし、ディスカッションを取り入れながら授業を行います。現代の吹奏楽の楽曲について、作曲家、楽曲について考えながら、楽曲を鑑賞するとともに実際に楽器を使って音を出しながら楽曲への理解度を深め、練習方法などを解説していきます。 | | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 現代の吹奏楽の楽曲について詳細な知識を得る。 | | | | | |
| | 思考・判断・表現 | 吹奏楽の楽曲を多く知ることで、現代の吹奏楽のスタイルを理解し、演奏時の思考方法、判断力を養い音楽表現の幅を広げる。 | | | | | |
| | 技能 | 鑑賞から練習、演奏の方法を理解する。 | | | | | |
| | 関心・意欲・態度 | 楽曲への関心を高め、上達の意欲への動機づけが自ら行えるようにする。 | | | | | |
| 授業内容 | 作曲家、楽曲またその社会的背景などにも目を向け、楽曲への知識を高めます。楽曲の鑑賞によって曲をよく知るとともに、実際に楽器で演奏しながら練習方法などを考察し、楽団の入団試験では必須のオーケストラスタディの取り組み方を理解します。 | | | | | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 評価方法 | 評価の観点 評価方法 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 筆記試験 | 筆記試験 | 30 | 10 | 10 | - | 50 |
| | 受講態度 | 受講態度 | 10 | 10 | 20 | 10 | 50 |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | 合 計(点) | 合 計(点) | 40 | 20 | 30 | 10 | 100 |
| 評価の特記事項 | 各授業での合取り組みの姿勢、準備、真剣さ、熱意なども含め総合的な評価の対象とします。 | | | | | | |
| ICT活用 | 不明なことなどはオンラインでの個人レッスンなどで対応します。学生ポータル | | | | | | |
| アグティブ・ラーニングの活用 | グループワーク等 | | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | わかるまで取り組む姿勢を大切に、授業後の時間も有効活用します。 | | | | | | |
| テキスト | | | | | | | |
| 参考書・教材 | | | | | | | |
| 内容 | | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | | |
| 1 | ヴィンセント・パーシケッティ、ウィリアム・シューマンの音楽 ああ涼しい谷間、仮面舞踏会、チエスター序曲 アメリカ20世紀のモダニズム 〔課題(準備・復習)〕次回の研究対象についての下調べ。各時間でのオーケストラスタディの見直し(4H) | | | | | | |
| 2 | ヨハン・デ・メイの音楽 交響曲「ロード・オブ・ザ・リングス」など オランダの吹奏楽事情 〔課題(準備・復習)〕次回の研究対象についての下調べ。各時間でのオーケストラスタディの見直し(4H) | | | | | | |
| 3 | フランコ・チェザリーニの音楽 ブルー・ホライズン、アルプスの詩など スイスの吹奏楽について 〔課題(準備・復習)〕次回の研究対象についての下調べ。各時間でのオーケストラスタディの見直し(4H) | | | | | | |
| 4 | ジョン・マッキーの音楽 ウィンダーク・シー、アウファルト・カクテルなど これからのアメリカの吹奏楽の方向性 〔課題(準備・復習)〕次回の研究対象についての下調べ。各時間でのオーケストラスタディの見直し(4H) | | | | | | |
| 5 | フランク・ティケリの音楽 アメリカン・エレジー、エンジェルズ・イン・アーキテクチャーなど 〔課題(準備・復習)〕次回の研究対象についての下調べ。各時間でのオーケストラスタディの見直し(4H) | | | | | | |
| 6 | 教育のための吹奏楽 ジェームズ・スウェアリンジエン、ステイブン・ライキニーなど 〔課題(準備・復習)〕次回の研究対象についての下調べ。各時間でのオーケストラスタディの見直し(4H) | | | | | | |
| 7 | 日本の吹奏楽 長生淳の音楽 風葉の舞、紺碧の波濤、時に道は美しなど 〔課題(準備・復習)〕次回の研究対象についての下調べ。各時間でのオーケストラスタディの見直し(4H) | | | | | | |
| 8 | 日本の吹奏楽 中橋愛生の音楽 闕下の桜樹～吹奏楽のための、斜響する時の峡谷～吹奏楽のための交响的序曲など 〔課題(準備・復習)〕次回の研究対象についての下調べ。各時間でのオーケストラスタディの見直し(4H) | | | | | | |
| 9 | 近年埋もれつつある名曲 ウォルター・ピストン/タンブリッジ・フェア、ポール・クレストン/祝典序曲、ハワード・ハンソン/コンチネンタル・マーチ、インゴ・ダール/シンフォニエッタ 〔課題(準備・復習)〕次回の研究対象についての下調べ。各時間でのオーケストラスタディの見直し(4H) | | | | | | |
| 10 | デイヴィッド・マスランカの音楽 子供の庭の夢、交響曲第4番など 〔課題(準備・復習)〕次回の研究対象についての下調べ。各時間でのオーケストラスタディの見直し(4H) | | | | | | |
| 11 | 真島俊夫の音楽 富士山、鳳凰が舞うなど 〔課題(準備・復習)〕次回の研究対象についての下調べ。各時間でのオーケストラスタディの見直し(4H) | | | | | | |
| 12 | 効率的で短時間で効果の上がる練習方法についての考察 グループディスカッション 練習で克服すべき一般的な課題の洗い出し 〔課題(準備・復習)〕次回の研究対象についての下調べ。各時間でのオーケストラスタディの見直し(4H) | | | | | | |

| 実施回 | 内容 | |
|-------------|--|---|
| | 授業内容・目標 | |
| 13 | 効率的で短時間で効果の上がる練習方法についての考察 〔課題（準備・復習）〕次回の研究対象についての下調べ。各時間でのオーケストラスタディの見直し（4H） | グループディスカッション 前回取り上げた克服するべき課題の解決方法への糸口を探す。 |
| 14 | 効率的で短時間で効果の上がる練習方法についての考察 〔課題（準備・復習）〕次回の研究対象についての下調べ。各時間でのオーケストラスタディの見直し（4H） | グループディスカッションの成果から得られた事柄の発表 |
| 15 | 効率的で短時間で効果の上がる練習方法についての考察 〔課題（準備・復習）〕次回の研究対象についての下調べ。各時間でのオーケストラスタディの見直し（4H） | グループディスカッションの成果から得られた事柄の発表 |
| 時間外での学修 | 授業で学んだことの振り返り、オーケストラスタディの実施。 総学修時間60時間 | |
| 受講学生へのメッセージ | 多くの曲を聴き、楽譜を見てその詳細を知ることはオーケストラスタディの基本です。吹奏楽に限らず合奏に参加するための下準備は必要不可欠です。この時間でそのアプローチの方法を学んでください。 オフィスアワーは授業の後などの休み時間とします。 | |

| 【3W5S215】演奏会研究 | | 音楽総合学科 | 2年前期 | | | |
|----------------|---|---|----------|------|----------|-------|
| 1単位 | | 選択 | 演習 | 30時間 | | |
| 教員 | 小林 聰 | | | | | |
| 資格・制限等 | 特になし | | | | | |
| 実務家教員 | 大学非常勤講師・20年、演奏家・37年、作編曲家・24年 | | | | | |
| 授業方法 | 講義を中心とし、ディスカッション、研究発表等も取り入れながら授業を行います。演奏会の歴史、成り立ちについて、時代ごとの変遷を解説していく。実際の現場ではどのような仕事があり、それぞれがどのような内容のことを行なっているのかを調べていく。いかに演奏会を開催し、運営していくことができるのかを様々な事例を元に考察するとともに、インターネットを使用した公開演奏について考えるとともにその仕組みを知る。 | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 歴史的な流れの理解。企画、運営の実務についての知識 | | | | |
| | 思考・判断・表現 | 運営の方法についての的確な判断。演奏会の質についての判断力。 | | | | |
| | 技能 | 良い演奏に触れ、質の高い演奏を知る | | | | |
| | 関心・意欲・態度 | 自ら選んだ題材を研究することで音楽に対する意欲を高める。演奏会運営の方法を知ることで将来自主公演を開く意欲を得るとともに、実現可能なものとしてのヴィジョンを描く。 | | | | |
| 授業内容 | 演奏会の歴史、成り立ちについて学ぶ。実際の現場ではどのような仕事がありそれらがどのように役割を担っているかを知る。このことから演奏会の開催、運営の実情を様々な事例を元に考察する。 | | | | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 評価方法 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 筆記試験 | 20 | 20 | 10 | - | 50 |
| | 発表(グループ発表含む) | 10 | 10 | 10 | - | 30 |
| | 受講態度 | - | - | - | 20 | 20 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計(点) | 30 | 30 | 20 | 20 | 100 |
| 評価の特記事項 | 強い探究心をもち広く情報収集が発表に活かせるか、自らが興味を抱いた事柄を他者への確に伝えられるかという観点を中心に評価します。 | | | | | |
| ICT活用 | 学生ポータルによる自主学習支援 | | | | | |
| アクティ・ラーニングの活用 | グループディスカッション等 | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | 各発表ごとにコメントします。 | | | | | |
| テキスト | | | | | | |
| 参考書・教材 | | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | 演奏会の始まりコレギュム・ムジクム バロックとその時代背景 教会音楽や劇の音楽から独立した経緯について 〔課題(準備)〕バロック時代の音楽史の概要を調べる。 | | | | | |
| 2 | モーツアルトの自主公演 作曲家が企画、運営を行なった初のコンサートがどうのようであったか 〔課題(準備)〕モーツアルトなど古典派の時代の作曲家について下調べ | | | | | |
| 3 | ロマン派の時代のコンサート オーケストラの成長期 〔課題(準備)〕ロマン派の時代について任意の作曲家を選び調べておくこと | | | | | |
| 4 | 近、現代のコンサート 新しい音楽への試み 〔課題(準備)〕近現代の音楽で前の時代との変化について考察しておく。 | | | | | |
| 5 | オーケストラのコンサートの舞台裏についての発表 ステージマネージャー、照明、舞台装置の仕事について 〔課題(準備)〕オーケストラのスタッフの仕事について各々任意の仕事を選択し下調べをする。 | | | | | |
| 6 | オーケストラの演奏会が開催されるまでの準備、コンサートの企画、宣伝についての発表 〔課題(準備)〕コンサートの企画、宣伝について具体的な例をひとつ選び調べる。 | | | | | |
| 7 | 演奏会のスタッフについての発表 コンサート当日の演奏家以外のスタッフの仕事とその流れ 〔課題(準備)〕演奏会当日の流れをシミュレーションして考える。 | | | | | |
| 8 | 演奏会の模擬企画 それぞれが演奏会の企画を持ちより一つの叩き台を作りあげ、ディスカッションを行う。 〔課題(準備)〕ディスカッションでの材料を集める。 | | | | | |
| 9 | コンサート会場についての知識 様々な形態の演奏にどのような演奏会場が適しているかをリサーチする。 〔課題(準備)〕コンサート会場についてディスカッションできるよう準備をする。 | | | | | |
| 10 | 選択演奏会についての研究発表 授業時間外に作成した資料をもとに選択した演奏会を選んだポイント、興味を持ったきっかけなどについて発表する。 〔課題(準備)〕研究発表の準備 | | | | | |
| 11 | 選択演奏会についての研究発表 授業時間外に作成した資料をもとに選択した演奏会を選んだポイント、興味を持ったきっかけなどについて発表する。 〔課題(準備)〕研究発表の準備 | | | | | |
| 12 | 選択演奏会についての研究発表 授業時間外に作成した資料をもとに選択した演奏会を選んだポイント、興味を持ったきっかけなどについて発表する。 〔課題(準備)〕研究発表の準備 | | | | | |
| 13 | 選択演奏会についての研究発表 実際に聞いた演奏会の感想、印象などを発表する。 〔課題(準備)〕研究発表の準備 | | | | | |
| 14 | 選択演奏会についての研究発表 実際に聞いた演奏会の感想、印象などを発表する。 〔課題(準備)〕研究発表の準備 | | | | | |
| 15 | 選択演奏会についての研究発表 実際に聞いた演奏会の感想、印象などを発表する。 〔課題(準備)〕研究発表の準備 | | | | | |
| 時間外での学修 | 研究発表については、様々な資料をもとに自分自身の考察を加えオリジナリティの高い発表を行なってください。【この科目で求める授業外での総学修時間：60時間】 | | | | | |

受講学生への
メッセージ

学外での鑑賞においては、社会的な行動をとり正しいマナーで臨むよう心がけましょう。また、演奏だけではなくその他の状況もしっかりと観察し演奏会がどのように行われているのかを学んでください。オフィスアワーは授業の間の休憩時間、授業後などとします。

| 【3W5A216】演奏会研究 | | 音楽総合学科 | 2年後期 | | | |
|----------------|--|---|----------|------|----------|-------|
| 1単位 | 選択 | | 演習 | 30時間 | | |
| 教員 | 小林 聰 | | | | | |
| 資格・制限等 | 特になし | | | | | |
| 実務家教員 | 大学非常勤講師・20年、演奏家・37年、作編曲家・24年 | | | | | |
| 授業方法 | 講義を中心とし、ディスカッションや研究発表を取り入れながら授業を行う。演奏会の歴史、成り立ちについて、時代ごとの変遷を解説していく。実際の現場ではどのような仕事があり、それそれがどのような内容のことを行なっているのかを調べていく。いかに演奏会を開催し、運営していくことができるのかを様々な事例を元に考察するとともに、インターネットを使用した公開演奏について考えるとともにその仕組みを知る。 | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 歴史的な流れの理解。企画、運営の実務についての知識 | | | | |
| | 思考・判断・表現 | 運営の方法についての的確な判断。演奏会の質についての判断力。 | | | | |
| | 技能 | 良い演奏に触れ、質の高い演奏を知る | | | | |
| | 関心・意欲・態度 | 自ら選んだ題材を研究することで音楽に対する意欲を高める。演奏会運営の方法を知ることで将来自主公演を開く意欲を得るとともに、実現可能なものとしてのヴィジョンを描く。 | | | | |
| 授業内容 | 演奏会の歴史、成り立ちについて学ぶ。実際の現場ではどのような仕事がありそれがどのように役割を担っているかを知る。このことから演奏会の開催、運営の実情を様々な事例を元に考察する。 | | | | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 評価方法 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 筆記試験 | 20 | 20 | 10 | - | 50 |
| | 発表 | 10 | 10 | 10 | - | 30 |
| | 受講態度 | - | - | - | 20 | 20 |
| | | | | | | |
| | 合 計(点) | 30 | 30 | 20 | 20 | 100 |
| 評価の特記事項 | 強い探究心をもち広く情報収集が発表に活かせるか、自らが興味を抱いた事柄を他者への確に伝えられるかという観点を中心に評価します。 | | | | | |
| ICT活用 | 学生ポータルによる自主学習支援 | | | | | |
| アクティ・ラーニングの活用 | グループディスカッション等 | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | 各発表ごとにコメントします。 | | | | | |
| テキスト | | | | | | |
| 参考書・教材 | | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | 〔課題(復習)〕インターネット配信について(YouTube等)の現状と概要を把握する。(4h) | | | | | |
| 2 | 〔課題(準備)〕インターネット配信についての準備。(4h) | | | | | |
| 3 | 〔課題(復習)〕前回のディスカッションでの内容と新しく得た知識を整理する。第3回で聞いたオーケストラについて考察する。(4h) | | | | | |
| 4 | 〔課題(復習)〕第4回で聞いたオーケストラについて考察する。(4h) | | | | | |
| 5 | 〔課題(復習)〕第5回で聞いたオーケストラについて考察する。(4h) | | | | | |
| 6 | 〔課題(復習)〕第6回で聞いたオーケストラについて考察する。(4h) | | | | | |
| 7 | 〔課題(復習)〕第7回で聞いたオーケストラについて考察する。(4h) | | | | | |
| 8 | 〔課題(復習)〕第8回で聞いたオーケストラについて考察する。(4h) | | | | | |
| 9 | 〔課題(復習)〕第9回で聞いたオーケストラについて考察する。(4h) | | | | | |
| 10 | 〔課題(準備)〕研究発表の準備(4h) | | | | | |
| 11 | 〔課題(準備)〕研究発表の準備(4h) | | | | | |
| 12 | 〔課題(準備)〕研究発表の準備(4h) | | | | | |
| 13 | 〔課題(準備)〕研究発表の準備(4h) | | | | | |
| 14 | 〔課題(準備)〕研究発表の準備(4h) | | | | | |
| 15 | 〔課題(準備)〕研究発表の準備(4h) | | | | | |
| 時間外での学修 | 研究発表については、様々な資料をもとに自分自身の考察を加えオリジナリティの高い発表を行なってください。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 学外での鑑賞においては、社会的な行動をとり正しいマナーで臨むよう心がけましょう。また、演奏だけでなくその他の状況もしっかりと観察し演奏会がどのように行われているのかを学んでください。オフィスアワーは授業の後などの休み時間とします。 | | | | | |

| 【3R6S307】リペア応用 A | | 音楽総合学科 | 2年前期 | | | |
|------------------|--|-------------------------------------|----------|------|----------|-------|
| 2単位 | | 必修 | 実技 | 90時間 | | |
| 教員 | 鬼頭 加奈 | | | | | |
| 資格・制限等 | 特になし | | | | | |
| 実務家教員 | 鬼頭：楽器店修理販売職・10年 | | | | | |
| 授業方法 | 実技が主になりますが、個々の改善点をクリア化してスキルアップを行っていきます。 主要メーカーの特別講義を数回実施しますので、幅広い商品知識、メーカー独自のリペア技術や使用工具について学修します。 | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 各木管楽器の仕組みや構造を理解し、的確なリペアが出来る。 | | | | |
| | 思考・判断・表現 | 各木管楽器の状態把握後、リペアの必要箇所を見つけ解決方法を判断できる。 | | | | |
| | 技能 | 各木管楽器の状態把握後、リペア箇所を自らの技術で問題解決が出来る。 | | | | |
| | 関心・意欲・態度 | 楽器に関する興味や関心を持ち、自らが率先して学修することが出来る。 | | | | |
| | 備考 | ・ の記号は、DP・到達目標との結びつき強さを示しています。 | | | | |
| 授業内容 | 1年次に学修した基礎知識を発展させ、より高度な技能を身に付ける事で、効率の良い作業方法を考える。また、完成度についても精度アップを図ります。 | | | | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 評価方法 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 筆記試験 | 20 | - | - | - | 20 |
| | 実技試験 | - | 25 | 35 | - | 60 |
| | 受講態度 | - | - | - | 20 | 20 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計(点) | 20 | 25 | 35 | 20 | 100 |
| 評価の特記事項 | 全授業の1/3以上欠席の場合、定期試験の受験資格はありません。 | | | | | |
| I C T 活用 | 学生ポータル等、ICTを活用した自主学修支援を行います。 | | | | | |
| アカティブ・ラーニングの活用 | なし。 | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | 授業毎に学生からの挙手を仰ぎ、完成度についてや分からぬで悩んでいる作業等についてフィードバックをします。 | | | | | |
| テキスト | 『「管打楽器の新しい楽器学と演奏法」(上・下) ヤマハ株式会社』 1年次に購入したものを使用します。 | | | | | |
| 参考書・教材 | 必要資料は、授業毎に配布します。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | クラリネット応用実習 タンポ交換、タンポ合せ 【課題・(復習・他)】1年次に学んだ技術を復習しながら、学んだ内容の復習(2h) | | | | | |
| 2 | クラリネット応用実習 全体バランス調整、軟物交換 【課題・(復習・他)】1年次に学んだ技術を復習しながら、学んだ内容の復習(2h) | | | | | |
| 3 | クラリネット応用実習 ジョイントコルク交換、嵌合調整 【課題・(復習・他)】1年次に学んだ技術を復習しながら、学んだ内容の復習(2h) | | | | | |
| 4 | クラリネット応用実習 セリ、ガタ修正復習 【課題・(復習・他)】1年次に学んだ技術を復習しながら、学んだ内容の復習(2h) | | | | | |
| 5 | フルート応用実習 タンポ交換、タンポ合わせ 【課題・(復習・他)】1年次に学んだ技術を復習しながら、学んだ内容の復習(2h) | | | | | |
| 6 | フルート応用実習 全体バランス調整、軟物交換 【課題・(復習・他)】1年次に学んだ技術を復習しながら、学んだ内容の復習(2h) | | | | | |
| 7 | フルート応用実習 全体調整(キイタッチ感、アソビの取り方、開き等) 【課題・(復習・他)】1年次に学んだ技術を復習しながら、学んだ内容の復習(2h) | | | | | |
| 8 | サクソフォン応用実習 タンポ交換、タンポ合わせ 【課題・(復習・他)】1年次に学んだ技術を復習しながら、学んだ内容の復習(2h) | | | | | |
| 9 | サクソフォン応用実習 ベル1番管=2番管脱着後組み立て調整 【課題・(復習・他)】学んだ内容の復習(2h) | | | | | |
| 10 | 主要メーカー特別講義 商品知識や、メーカー独自のリペア技術、使用工具について 【課題・(復習・他)】学んだ内容の復習(2h) | | | | | |
| 11 | クラリネット応用実習 タンポ交換、連絡バランス、ジョイントコルク交換 【課題・(復習・他)】学んだ内容の復習(2h) | | | | | |
| 12 | フルート応用実習 タンポ交換、連絡バランス、ヘッドコルク交換 【課題・(復習・他)】学んだ内容の復習(2h) | | | | | |
| 13 | サクソフォン応用実習 タンポ交換、連絡バランス、ネックコルク交換 【課題・(復習・他)】学んだ内容の復習(2h) | | | | | |
| 14 | 木管楽器総合実習 フルートノックピン抜き 【課題・(復習・他)】学んだ内容の復習(2h) | | | | | |

| 実施回 | 内容 |
|-------------|---|
| | 授業内容・目標 |
| 15 | 木管楽器総合実習 フルートジョイント部嵌合調整 【課題・(復習・他)】学んだ内容の復習(2h) |
| 時間外での学修 | 技能の反復練習は重要です。繰り返し行うことで、新しい発見もありますので、意欲を持って臨んでください。 【この科目で求められる授業外の総学修時間:30時間】 |
| 受講学生へのメッセージ | 自分の将来を見据えて、いまやるべきことを十分に理解し、更なるレベルアップを目指してください。オフィスアワーは授業後F101教室で行います。それ以外の空時間でも構いませんので、B304(B号館3F)へ気軽に来てください。 |

| 【3R6A308】リペア応用 B | | 音楽総合学科 | | 2年後期 | | |
|------------------|--|--------------------------------------|----------|------|----------|-------|
| 教員 | 鬼頭 加奈 | 2単位 | 必修 | 実技 | 90時間 | |
| 資格・制限等 | 特になし | | | | | |
| 実務家教員 | 鬼頭：楽器店修理販売職・10年 | | | | | |
| 授業方法 | 実技中心で進めますが、日常使われている木管楽器のリペアや、卒後を見据えて、店頭でのロールプレイ グを取り入れていきます。また、主要メーカーによる特別講義も行います。 | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 各木管楽器の仕組みや構造を理解し、的確なリペアが出来る。 | | | | |
| | 思考・判断・表現 | 各木管楽器の状態把握後、リペアの必要箇所を見つけて解決方法を判断できる。 | | | | |
| | 技能 | 各木管楽器の状態把握後、リペア箇所を自らの技術で問題解決が出来る。 | | | | |
| | 関心・意欲・態度 | 楽器に関する興味や関心を持ち、自らが率先して学修することが出来る。 | | | | |
| | 備考 | ・・・の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。 | | | | |
| 授業内容 | 前期で学修したリペア技能を発展させ、より高度なリペア技能を身に付け、作業時間短縮に向けて効率の良い作業方法を考える。主要メーカーによる、特別講義では、商品知識や、メーカー独自のリペア技術、使用工具等を学修します。また、卒後を考えてロールプレイングも行って行きます。 | | | | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 評価方法 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 筆記試験 | 20 | - | - | - | 20 |
| | 実技試験 | - | 25 | 35 | - | 60 |
| | 受講態度 | - | - | - | 20 | 20 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計(点) | 20 | 25 | 35 | 20 | 100 |
| 評価の特記事項 | 全授業1/3以上欠席の場合、定期試験の受験資格はありません。 | | | | | |
| I C T 活用 | 学生ポータル等で、ICTを活用した自主学修支援を行います。 | | | | | |
| アカティブ・ラーニングの活用 | なし。 | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | 授業毎に、分からぬ事や完成品のチェック希望には、拳手を仰ぎ、状態等についてフィードバックを行います。 | | | | | |
| テキスト | 『「管打楽器の新しい楽器学と演奏法」(上・下) ヤマハ株式会社』 1年次に購入したものを使用します。 | | | | | |
| 参考書・教材 | 必要資料等は、授業毎に配布します。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | 木管楽器応用実習 レジスター・チューブ、拇指音孔分解組み立て 【課題・(復習・他)】学んだ内容の復習(2h) | | | | | |
| 2 | 木管楽器応用実習 キイガタ修正(座ぐり、カウンター・ボア、キイポストの修正等) 【課題・(復習・他)】学んだ内容の復習(2h) | | | | | |
| 3 | 主要メーカー特別講義 商品知識、メーカー独自のリペア技術、使用工具について 【課題・(復習・他)】学んだ内容の復習(2h) | | | | | |
| 4 | 木管楽器応用実習 キイガタ修正(座ぐり、カウンター・ボア、キイポストの修正等) 【課題・(復習・他)】学んだ内容の復習(2h) | | | | | |
| 5 | 木管楽器応用実習 板バネ、針バネの曲げ形状とタッチ感について 【課題・(復習・他)】学んだ内容の復習(2h) | | | | | |
| 6 | 木管楽器応用実習 板バネ、針バネの曲げ形状とタッチ感について 【課題・(復習・他)】学んだ内容の復習(2h) | | | | | |
| 7 | 木管楽器応用実習 音孔修正(特にサクソフォンでの音孔変形修正と、上面修正) 【課題・(復習・他)】学んだ内容の復習(2h) | | | | | |
| 8 | 木管楽器応用実習 音孔修正(特にサクソフォンでの音孔変形修正と、上面修正) 【課題・(復習・他)】学んだ内容の復習(2h) | | | | | |
| 9 | 木管楽器応用総合 使用楽器(クラリネット)全タンポ交換、ジョイントコルク交換) 全体調整、拭き上げ 【課題・(復習・他)】学んだ内容の復習(2h) | | | | | |
| 10 | 主要メーカー特別講義 商品知識、メーカー独自のリペア手法について 【課題・(復習・他)】学んだ内容の復習(2h) | | | | | |
| 11 | 木管楽器応用総合 使用楽器(フルート)全タンポ交換、全体調整、拭き上げ 【課題・(復習・他)】学んだ内容の復習(2h) | | | | | |
| 12 | 木管楽器応用総合 使用楽器(アルトサクソフォン)部分タンポ交換、ネックコルク交換、全体調整、拭き上げ 【課題・(復習・他)】学んだ内容の復習(2h) | | | | | |
| 13 | 木管楽器応用総合 備品点検調整 【課題・(復習・他)】学んだ内容の復習(2h) | | | | | |

| 内容 | |
|-------------|---|
| 実施回 | 授業内容・目標 |
| 14 | 木管楽器応用総合 備品点検調整 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（2h） |
| 15 | 木管楽器応用総合 老朽化した木管楽器の調整とは パーツ管理について 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（2h） |
| 時間外での学修 | 技能の反復練習は重要です。繰り返し行うことで、新しい発見もありますので、意欲を持って臨んでください。 【この科目で求められる授業外の総学修時間：30時間】 |
| 受講学生へのメッセージ | 自分の将来を見据えて、いまやるべきことを十分に理解し、更なるレベルアップを目指してください。オフィスアワーは授業後F101教室で行います。それ以外の空時間でも構いませんので、B304（B号館3F）へ気軽に来てください。 |

| | | | | | | |
|------------------|--|-------------------------------------|----------|------|----------|-------|
| 【3R6S309】リペア応用 A | | 音楽総合学科 | 2年前期 | | | |
| 2単位 | | 必修 | 実技 | 90時間 | | |
| 教員 | 鬼頭 加奈・渡辺 博夫 | | | | | |
| 資格・制限等 | 特になし | | | | | |
| 実務家教員 | 鬼頭：楽器店修理販売職・10年 渡辺：メーカー修理職・34年 | | | | | |
| 授業方法 | 実技が主になりますが、個々の苦手意識を克服を行い、自らが対処できる技術を身に付けています。 また、主要メーカーによる特別講義で、商品知識や、メーカー独自のリペア手法や、使用工具等についても学修します。 | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 各木管楽器の仕組みや構造を理解し、的確なリペアが出来る。 | | | | |
| | 思考・判断・表現 | 各木管楽器の状態把握後、リペアの必要箇所を見つけ解決方法を判断できる。 | | | | |
| | 技能 | 各木管楽器の状態把握後、リペア箇所を自らの技術で問題解決が出来る。 | | | | |
| | 関心・意欲・態度 | 楽器に関する興味や関心を持ち、自らが率先して学修することが出来る。 | | | | |
| | 備考 | ・の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。 | | | | |
| 授業内容 | 1年次に学修した基礎技術を発展させ、より高度な技能を身に付け、効率の良い作業方法を確立する。 また、完成品の精度アップを図り、卒業後の実践的な技能習得を目指します。 木管楽器全般の商品知識向上も図ります。 | | | | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 評価方法 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 筆記試験 | 20 | - | - | - | 20 |
| | 実技試験 | - | 25 | 35 | - | 60 |
| | 受講態度 | - | - | - | 20 | 20 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計(点) | 20 | 25 | 35 | 20 | 100 |
| 評価の特記事項 | 全授業の1/3以上欠席の場合、定期試験の受験資格はありません。 | | | | | |
| ICT活用 | 学生ポータル等、ICTを活用した自主学修支援を行います。 | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの活用 | なし。 | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | 授業毎に学生からの挙手を仰ぎ、完成度についてや分からぬで悩んでいる作業等についてフィードバックをします。 | | | | | |
| テキスト | 『「管打楽器の新しい楽器学と演奏法』（上・下）ヤマハ株式会社』 1年次に購入したものを使用します。 | | | | | |
| 参考書・教材 | 必要資料等は、授業毎に配布します。 | | | | | |
| | | 内容 | | | | |
| 実施回 | | 授業内容・目標 | | | | |
| 1 | 木管楽器（クラリネット）：タンポ交換時のラック量、バーナー温度管理他 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（2h） | | | | | |
| 2 | 木管楽器（クラリネット）：タンポ交換時のラック量、バーナー温度管理他 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（2h） | | | | | |
| 3 | 木管楽器（クラリネット）：カップ皿ズレ修正法 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（2h） | | | | | |
| 4 | 木管楽器（フルート）：タンポ合わせについて 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（2h） | | | | | |
| 5 | 木管楽器（フルート）：タンポ合わせについて、連絡バランス、軟物交換 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（2h） | | | | | |
| 6 | 木管楽器（フルート）：タンポ合わせについて、連絡バランス、軟物交換 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（2h） | | | | | |
| 7 | 木管楽器（サクソフォン）：タンポ合わせについて 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（2h） | | | | | |
| 8 | 木管楽器（サクソフォン）：タンポ合わせ、連絡バランス、軟物交換 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（2h） | | | | | |
| 9 | 木管楽器（サクソフォン）：ベル1番管=2番管脱着、組み立て 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（2h） | | | | | |
| 10 | 主要メーカーによる特別講義 商品研修、メーカー独自のリペア手法や、使用工具紹介等 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（2h） | | | | | |
| 11 | 木管楽器応用実習（クラリネット） バネ圧、キイレイアウト調整他 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（2h） | | | | | |
| 12 | 木管楽器応用実習（フルート） バネ圧、キイレイアウト調整他 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（2h） | | | | | |
| 13 | 木管楽器応用実習（サクソフォン） バネ圧、キイレイアウト調整他 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（2h） | | | | | |
| 14 | 木管楽器応用実習総合（クラリネット、サクソフォン） スワブ詰まり修正他 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（2h） | | | | | |
| 15 | 木管楽器応用実習総合（フルート） ジョイント嵌合調整 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（2h） | | | | | |
| 時間外での学修 | 技能の反復練習は重要です。繰り返し行うことで、新しい発見もありますので、意欲を持って臨んでください。 【この科目で求められる授業外の総学修時間：30時間】 | | | | | |

受講学生への
メッセージ

自分の将来を見据えて、いまやるべきことを十分に理解し、更なるレベルアップを目指してください。オ
フィスアワーは授業後F101教室で行います。それ以外の空時間でも構いませんので、B304（B号館3F）へ気
軽に来てください。

| 【3R6A310】リペア応用 B | | 音楽総合学科 | | 2年後期 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------|---|--------------------------------------|----------|------|----------|-------|------|-------|-------|----------|----|----------|-------|------|----|---|---|---|---|----|------|---|----|----|---|---|----|------|---|---|---|---|----|----|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--------|--|----|----|----|----|-----|
| 2単位 | | 必修 | | 実技 | 90時間 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教員 | 鬼頭 加奈・渡辺 博夫 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 資格・制限等 | 特になし | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 実務家教員 | 鬼頭：楽器店修理販売職・10年 渡辺：メーカー修理職・34年 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法 | 実技中心で進めますが、日常使われている木管楽器のリペアや、卒後を見据えて、店頭でのロールブレイングを取り入れていきます。また、主要メーカーによる特別講義も行います。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 各木管楽器の仕組みや構造を理解し、的確なリペアが出来る。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 思考・判断・表現 | 各木管楽器の状態把握後、リペアの必要箇所を見つけて解決方法を判断できる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 技能 | 各木管楽器の状態把握後、リペア箇所を自らの技術で問題解決が出来る。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 関心・意欲・態度 | 楽器に関する興味や関心を持ち、自らが率先して学修することが出来る。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 備考 | ・・の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業内容 | 前期で学修したリペア技能を発展させ、より高度なリペア技能を身に付け、作業時間短縮に向けて効率の良い作業方法を考える。主要メーカーによる、特別講義では、商品知識や、メーカー独自のリペア技術、使用工具等を学修します。また、卒後を考えてロールブレイングも行って行きます。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 観点別評価 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法</th><th>評価の観点</th><th>知識・理解</th><th>思考・判断・表現</th><th>技能</th><th>関心・意欲・態度</th><th>合計(点)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>筆記試験</td><td>20</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>20</td></tr> <tr> <td>実技試験</td><td>-</td><td>25</td><td>35</td><td>-</td><td>-</td><td>60</td></tr> <tr> <td>受講態度</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>20</td><td>20</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td colspan="2">合 計(点)</td><td>20</td><td>25</td><td>35</td><td>20</td><td>100</td></tr> </tbody> </table> | | | | | | 評価方法 | 評価の観点 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) | 筆記試験 | 20 | - | - | - | - | 20 | 実技試験 | - | 25 | 35 | - | - | 60 | 受講態度 | - | - | - | - | 20 | 20 | | | | | | | | | | | | | | | 合 計(点) | | 20 | 25 | 35 | 20 | 100 |
| 評価方法 | 評価の観点 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 筆記試験 | 20 | - | - | - | - | 20 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 実技試験 | - | 25 | 35 | - | - | 60 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 受講態度 | - | - | - | - | 20 | 20 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合 計(点) | | 20 | 25 | 35 | 20 | 100 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価の特記事項 | 全授業1/3以上欠席の場合、定期試験の受験資格はありません。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| I C T 活用 | 学生ポータル等で、ICTを活用した自主学修支援を行います。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| アカティブ・ラーニングの活用 | なし。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | 授業毎に、分からぬ事や完成品のチェック希望には、拳手を仰ぎ、状態等についてフィードバックを行います。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| テキスト | 『「管打楽器の新しい楽器学と演奏法」(上・下) ヤマハ株式会社』 1年次に購入したものを使用します。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書・教材 | 必要資料等は、授業毎に配布します。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 内容 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 木管楽器応用 キイ動き不良(鍵管の曲がり、芯金の曲がり)修正 【課題・(復習・他)】学んだ内容の復習(2h) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 木管楽器応用 キイ動き不良(鍵管の曲がり、芯金の曲がり)修正 【課題・(復習・他)】学んだ内容の復習(2h) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | 木管楽器応用 ノックピンを抜いてのキイ調整 【課題・(復習・他)】学んだ内容の復習(2h) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | 木管楽器応用 ノックピンを抜いてのキイ調整 【課題・(復習・他)】学んだ内容の復習(2h) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | 木管楽器応用 サクソフォン指員取れ対応 【課題・(復習・他)】学んだ内容の復習(2h) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 | 木管楽器応用 管体の凹み修正、嵌合調整(フルート) 【課題・(復習・他)】学んだ内容の復習(2h) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 | 木管楽器応用 管体の凹み修正、嵌合調整(フルート) 【課題・(復習・他)】学んだ内容の復習(2h) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 | 木管楽器応用 レジスター・チューブ、拇指音孔の接着方法 【課題・(復習・他)】学んだ内容の復習(2h) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 | 楽器奏法での使用楽器修正 タンボ調整、連絡バランス調整、軟物交換 【課題・(復習・他)】学んだ内容の復習(2h) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10 | 主要メーカーによる特別講義 商品研修、メーカー独自のリペア手法や使用工具について 【課題・(復習・他)】学んだ内容の復習(2h) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11 | 楽器奏法での使用楽器修正 タンボ調整、連絡バランス調整、軟物交換 【課題・(復習・他)】学んだ内容の復習(2h) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12 | 店頭リペア模擬授業 ロールブレイング実施 【課題・(復習・他)】学んだ内容の復習(2h) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13 | 店頭リペア模擬授業 ロールブレイング実施 【課題・(復習・他)】学んだ内容の復習(2h) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 14 | 木管楽器応用まとめ 後期で学修した内容についてまとめる。必要と思われる工具等製作。パート管理について 【課題・(復習・他)】学んだ内容の復習(2h) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 実施回 | 内容 |
|-------------|---|
| | 授業内容・目標 |
| 15 | 木管楽器応用まとめ 後期で学修した内容についてまとめる。必要と思われる工具等製作。パート管理について 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（2h） |
| 時間外での学修 | 技能の反復練習は重要です。繰り返し行うことで、新しい発見もありますので、意欲を持って臨んでください。 【この科目で求められる授業外の総学修時間：30時間】 |
| 受講学生へのメッセージ | 自分の将来を見据えて、いまやるべきことを十分に理解し、更なるレベルアップを目指してください。オフィスアワーは授業後F101教室で行います。それ以外の空時間でも構いませんので、B304（B号館3F）へ気軽に来てください。 |

| | | | | | | |
|------------------|---|-----------------------------------|----------|------|----------|-------|
| 【3R6S311】リペア応用 A | | 音楽総合学科 | 2年前期 | | | |
| 2単位 | | 必修 | 実技 | 90時間 | | |
| 教員 | 松岡 龍 | | | | | |
| 資格・制限等 | 特になし | | | | | |
| 実務家教員 | 松岡：楽器店販売修理職・9年 | | | | | |
| 授業方法 | 全体での実技を中心とし、講座、DVD、小テストを盛り込みながら、より専門性の高い知識や技能を身に付ける授業を進めます。 | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 各金管楽器の仕組みや構造を理解し、的確なリペア技能対応が出来る。 | | | | |
| | 思考・判断・表現 | 各金管楽器の状態把握後、リペア箇所を見つけ解決方法が判断できる。 | | | | |
| | 技能 | 各金管楽器の状態把握後、リペア箇所を自らの技能で問題解決ができる。 | | | | |
| | 関心・意欲・態度 | 楽器に関する事に興味や関心を持ち、自らが率先して学修が出来る。 | | | | |
| | 備考 | ・○・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。 | | | | |
| 授業内容 | 1年次に学修した基礎技術を発展させ、より高度なリペア技能を身に付け、作業時間短縮に向けて、効率の良い作業方法を考え問題解決できる様授業を進めて行きます。 また、卒業後を見据えたより実践的なリペア技能の習得、金管楽器全般についての知識向上を図る。 | | | | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 評価方法 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 筆記試験 | 20 | - | - | - | 20 |
| | 実技試験 | - | 25 | 35 | - | 60 |
| | 受講態度 | - | - | - | 20 | 20 |
| | | | | | | |
| | 合 計(点) | 20 | 25 | 35 | 20 | 100 |
| 評価の特記事項 | 全授業の1/3以上欠席の場合、定期試験の受験資格はありません。 | | | | | |
| I C T 活用 | 学生ポータル等で、ICTを活用した自主学習支援を行います。 | | | | | |
| アカティブ・ラーニングの活用 | なし。 | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | 授業毎に、分からぬ事や完成品のチェック希望は挙手をし、そのフィードバックなども双方で行います。 | | | | | |
| テキスト | 『「管打楽器の新しい楽器学と演奏法」上・下』 1年次に購入したものを使用します。 | | | | | |
| 参考書・教材 | 授業毎に必要資料は配布します。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | 溶接応用実習 1年次に学修した内容の復習 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h) | | | | | |
| 2 | 溶接応用実習 1年次に学修した内容の復習 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h) | | | | | |
| 3 | 金管楽器(トランペット)応用実習 ピストン調整、抜差し管調整(ウォーターキイ位置修正) 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h) | | | | | |
| 4 | 金管楽器応用実習 ベル変形(凹み)、ベル胴変形(凹み)修正、スライド調整 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h) | | | | | |
| 5 | 金管楽器応用実習 ベル変形(凹み)、ベル胴変形(凹み)修正、スライド調整 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h) | | | | | |
| 6 | 金管楽器応用実習 ベル変形(凹み)、ベル胴変形(凹み)修正、スライド調整 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h) | | | | | |
| 7 | 金管楽器(ホルン)応用実習 ローター調整(軸ガタ、縦ガタ)、レバー糸交換 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h) | | | | | |
| 8 | 金管楽器(ホルン)応用実習 ローター調整(軸ガタ、縦ガタ)、レバー糸交換 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h) | | | | | |
| 9 | 金管楽器(ホルン)応用実習 レバー曲がり、レバー糸交換 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h) | | | | | |
| 10 | 金管楽器総合実習 溶接、凹み修正、各部調整 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h) | | | | | |
| 11 | 金管楽器総合実習 溶接、凹み修正、各部調整 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h) | | | | | |
| 12 | 金管楽器総合実習 溶接、凹み修正、各部調整 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h) | | | | | |
| 13 | 金管楽器総合実習 溶接、凹み修正、各部調整 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h) | | | | | |
| 14 | 金管楽器総合実習 溶接、凹み修正、各部調整 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h) | | | | | |

| 内容 | |
|-------------|--|
| 実施回 | 授業内容・目標 |
| 15 | 金管楽器総合実習 接合、凹み修正、各部調整 【課題（復習・他】学んだ内容の復習（3h） |
| 時間外での学修 | 技術の反復練習が重要です。確実にリペア技能を身に付ける様、空き時間等も活用しながら進めて下さい。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：45時間】 |
| 受講学生へのメッセージ | 自分の将来を見据えて、今やるべきことを理解し、更なる技能向上を図ってください。クラス内で討議も必要ですし、コミュニケーション作りの重要性も学修してください。 オフィスアワーは、授業前後の休み時間に教室で実施します。 |

| | | | | | | |
|------------------|---|-----------------------------------|----------|------|----------|-------|
| 【3R6A312】リペア応用 B | | 音楽総合学科 | 2年後期 | | | |
| 2単位 | | 必修 | 実技 | 90時間 | | |
| 教員 | 松岡 龍 | | | | | |
| 資格・制限等 | 特になし | | | | | |
| 実務家教員 | 松岡：楽器店販売修理職・9年 | | | | | |
| 授業方法 | 実技中心となります。自分の苦手意識克服を考えて反復練習となります。 また、老朽化した楽器をリペアする事は、卒業後に楽器店等での経験値を増加させることになりますから、積極的にトライして下さい。 | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 各金管楽器の仕組みや構造を理解し、的確なリペア技能が出来る。 | | | | |
| | 思考・判断・表現 | 各金管楽器の状態把握後、リペア箇所を見つけ解決方法を判断できる。 | | | | |
| | 技能 | 各金管楽器の状態把握後、リペア箇所を自らの技術で問題解決が出来る。 | | | | |
| | 関心・意欲・態度 | 楽器に関する関心や興味を持ち、自らが率先して学修することが出来る。 | | | | |
| | 備考 | ・・の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。 | | | | |
| 授業内容 | 前期で学修したリペア技能を発展させ、より高度なリペア技能を身に付け、作業時間短縮に向けて効率の良い作業方法を考える。また、お客様に渡せる状態とは?をしっかり考えて、不快感が起こらないようにするにはどうしたら良いかを考えてください。 | | | | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 評価方法 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 筆記試験 | 20 | - | - | - | 20 |
| | 実技試験 | - | 25 | 35 | - | 60 |
| | 受講態度 | - | - | - | 20 | 20 |
| | | | | | | |
| | 合 計(点) | 20 | 25 | 35 | 20 | 100 |
| 評価の特記事項 | 全授業の1/3以上欠席の場合、定期試験の受験資格がありません。 | | | | | |
| ICT活用 | 学生ポータル等で、ICTを活用した自主学修支援を行います。 | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの活用 | なし。 | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | 授業毎に、分からぬ事や、完成品のチェック希望には挙手を促し、状態等についてフィードバックを行います。 | | | | | |
| テキスト | 『「管打楽器の新しい楽器学と演奏法」上・下』 1年次に購入したものを使用します。 | | | | | |
| 参考書・教材 | 授業毎に必要資料は配布します。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | 金管楽器応用実習 ピストン固定修正 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h) | | | | | |
| 2 | 金管楽器応用実習 ピストン固定修正 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h) | | | | | |
| 3 | 金管楽器応用実習 ピストン固定修正、抜差し管変形修正、スライド調整 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h~5h) | | | | | |
| 4 | 金管楽器応用実習 ピストン固定修正、抜差し管変形修正、スライド調整 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h~5h) | | | | | |
| 5 | 金管楽器応用実習 ロータリー調整、糸テンション調整、レバー曲がり、スライド調整 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h~5h) | | | | | |
| 6 | 金管楽器応用実習 ロータリー調整、糸テンション調整、レバー曲がり、スライド調整 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h~5h) | | | | | |
| 7 | 金管楽器応用実習 溶接、ロータリー調整、糸テンション調整、レバー曲がり、スライド調整 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h~5h) | | | | | |
| 8 | 金管楽器応用実習 溶接、ローターガタ修正(ブッシュの場合含む)レバー曲がり、スライド調整 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h~5h) | | | | | |
| 9 | 金管楽器応用実習 溶接、ローターガタ修正(ブッシュの場合含む)レバー曲がり、スライド調整 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h~5h) | | | | | |
| 10 | 金管楽器総合実習 老朽化した楽器のリペア全般 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h~5h) | | | | | |
| 11 | 金管楽器総合実習 老朽化した楽器のリペア全般 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h~5h) | | | | | |
| 12 | 金管楽器総合実習 老朽化した楽器のリペア全般 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h~5h) | | | | | |
| 13 | 金管楽器総合実習 老朽化した楽器のリペア全般 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h~5h) | | | | | |

| 実施回 | 内容 | |
|-------------|--|--|
| | 授業内容・目標 | |
| 14 | 金管楽器総合実習 老朽化した楽器のリペア全般 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3h～5h） | |
| 15 | 金管楽器総合実習 老朽化した楽器のリペア全般 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3h～5h） | |
| 時間外での学修 | 苦手意識を無くし、確実性を目指してください。グループディスカッションの場を設けますから、出来ないで悩んでいない様に、積極的に活用してください。 【この科目で求める望ましい総学修時間：45～75時間】 | |
| 受講学生へのメッセージ | リペア技術を軸としたセールスエンジニアを目指しますが、人間性も重要ですので、日頃からコミュニケーション作りの意識付けを行って下さい。 オフィスアワーは、授業前後の休み時間に教室で実施します。 | |

| | | | | | | |
|------------------|--|--|----------|------|----------|-------|
| 【3R6S313】リペア応用 A | | 音楽総合学科 | 2年前期 | | | |
| 2単位 | | 必修 | 実技 | 90時間 | | |
| 教員 | 鬼頭 加奈 | | | | | |
| 資格・制限等 | 特になし | | | | | |
| 実務家教員 | 鬼頭：楽器店修理販売職・10年 | | | | | |
| 授業方法 | 実技が主になりますが、個々の改善点をクリア化してスキルアップを行って行きます。 主要メーカーの特別講義を数回実施しますので、幅広い商品知識、メーカー独自のリペア技術や使用工具について学修します。 | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 各金管楽器の仕組みや構造を理解し、的確なリペアが出来る。○ | | | | |
| | 思考・判断・表現 | 各金管楽器の状態把握後、リペアの必要箇所を見つけ解決方法を判断できる。 ○ | | | | |
| | 技能 | 各金管楽器の状態把握後、リペア箇所を自らの技術で問題解決が出来る。 | | | | |
| | 関心・意欲・態度 | 楽器に関する興味や関心を持ち、自らが率先して学修することが出来る。 | | | | |
| | 備考 | ・・・の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。 | | | | |
| 授業内容 | 1年次に学修した基礎知識を発展させ、より高度なリペア技能を身に付け、作業時間短縮の効率化を考えて、問題解決できるように授業を行っていきます。 | | | | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 評価方法 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 筆記試験 | 20 | - | - | - | 20 |
| | 実技試験 | - | 25 | 35 | - | 60 |
| | 受講態度 | - | - | - | 20 | 20 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| 合 計(点) | | 20 | 25 | 35 | 20 | 100 |
| 評価の特記事項 | 全授業の1/3以上欠席の場合、定期試験の受験資格はありません。 | | | | | |
| ICT活用 | 学生ポータル等で、ICTを活用した自主学修支援を行います。 | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの活用 | なし。 | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | 授業毎に学生からの挙手を仰ぎ、完成度についてや分からぬで悩んでいる作業等についてフィードバックをします。 | | | | | |
| テキスト | 『「管打楽器の新しい楽器学と演奏法』（上・下）ヤマハ株式会社』 1年次に購入したものを使用します。 | | | | | |
| 参考書・教材 | 資料等は、授業毎に配布します。 | | | | | |
| 実施回 | | 授業内容・目標 | | | | 内容 |
| 1 | 金管楽器応用実習 溶接、ピストン調整、凹み修正、スライド調整 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（2h） | | | | | |
| 2 | 金管楽器応用実習 溶接、ピストン調整、凹み修正、スライド調整 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（2h） | | | | | |
| 3 | 金管楽器応用実習 溶接、ピストン調整、凹み修正、スライド調整、抜き差し管調整 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（2h） | | | | | |
| 4 | 金管楽器応用実習 溶接、ピストン調整、凹み修正、スライド調整、抜き差し管調整 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（2h） | | | | | |
| 5 | 金管楽器応用実習 溶接、ピストン調整、凹み修正、スライド調整、抜き差し管調整 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（2h） | | | | | |
| 6 | 金管楽器応用実習（ホルン） ローター調整、縦ガタ、横ガタ修正、レバーレイアウト調整、紐テンションバランス 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（2h） | | | | | |
| 7 | 金管楽器応用実習（ホルン） ローター調整、縦ガタ、横ガタ修正、レバーレイアウト調整、紐テンションバランス 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（2h） | | | | | |
| 8 | 金管楽器応用実習（ホルン） ローター調整、縦ガタ、横ガタ修正、レバーレイアウト調整、紐テンションバランス 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（2h） | | | | | |
| 9 | 金管楽器応用 工具製作他 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（2h） | | | | | |
| 10 | 金管楽器応用 工具製作、凹み修正 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（2h） | | | | | |
| 11 | 金管楽器応用 工具製作、凹み修正 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（2h） | | | | | |
| 12 | 金管楽器応用 ピストン調整、ローター調整、スライド調整 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（2h） | | | | | |
| 13 | 金管楽器応用実習総合 苦手意識克服のために、楽器を選択し、作業方法や仕上がり度について確認する。 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（2h） | | | | | |

| 内容 | |
|-------------|---|
| 実施回 | 授業内容・目標 |
| 14 | 金管楽器応用実習総合 苦手意識克服のために、楽器を選択し、作業方法や仕上がり度について確認する。 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（2h） |
| 15 | 金管楽器応用実習総合 苦手意識克服のために、楽器を選択し、作業方法や仕上がり度について確認する。 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（2h） |
| 時間外での学修 | 技能の反復練習は重要です。繰り返し行うことで、新しい発見もありますので、意欲を持って臨んでください。 【この科目で求められる授業外の総学修時間：30時間】 |
| 受講学生へのメッセージ | 自分の将来を見据えて、いまやるべきことを十分に理解し、更なるレベルアップを目指してください。オフィスアワーは授業後F101教室で行います。それ以外の空時間でも構いませんので、B304（B号館3F）へ気軽に来てください。 |

| | | | | | | |
|------------------|--|--------------------------------------|----------|------|----------|-------|
| 【3R6A314】リペア応用 B | | 音楽総合学科 | 2年後期 | | | |
| 2単位 | | 必修 | 実技 | 90時間 | | |
| 教員 | 鬼頭 加奈 | | | | | |
| 資格・制限等 | 特になし | | | | | |
| 実務家教員 | 鬼頭：楽器店修理販売職・10年 | | | | | |
| 授業方法 | 実技中心で進めますが、日常使われている金管楽器のリペアや、卒後を見据えて、店頭でのロールティングを取り入れていきます。また、主要メーカーによる特別講義も行います。 | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 各金管楽器の仕組みや構造を理解し、的確なリペアが出来る。 | | | | |
| | 思考・判断・表現 | 各金管楽器の状態把握後、リペアの必要箇所を見つけて解決方法を判断できる。 | | | | |
| | 技能 | 各金管楽器の状態把握後、リペア箇所を自らの技術で問題解決が出来る。 | | | | |
| | 関心・意欲・態度 | 楽器に関する興味や関心を持ち、自らが率先して学修することが出来る。 | | | | |
| | 備考 | ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。 | | | | |
| 授業内容 | 実技が主になりますが、個々の改善点をクリア化してスキルアップを行って行きます。 場合によっては、グループ化して手法等についてのディスカッションの場を設ける事もあります。 主要メーカーの特別講義を数回実施しますので、幅広い商品知識、メーカー独自のリペア技術や使用工具について学修します。 | | | | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 評価方法 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 筆記試験 | 20 | - | - | - | 20 |
| | 実技試験 | - | 25 | 35 | - | 60 |
| | 受講態度 | - | - | - | 20 | 20 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計(点) | 20 | 25 | 35 | 20 | 100 |
| 評価の特記事項 | 全授業1/3以上欠席の場合、定期試験の受験資格はありません。 | | | | | |
| ICT活用 | 学生ポータル等で、ICTを活用した自主学修支援を行います。 | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの活用 | なし。 | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | 授業毎に学生からの挙手を仰ぎ、完成度についてや分からぬで悩んでいる作業等についてフィードバックをします。 | | | | | |
| テキスト | 『「管打楽器の新しい楽器学と演奏法」（上・下）ヤマハ株式会社』 1年次に購入したものを使用します。 | | | | | |
| 参考書・教材 | 資料等は、授業毎に配布します。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | 金管楽器応用 溶接、ピストン調整、凹み修正、抜き差し管調整、スライド調整 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（2h） | | | | | |
| 2 | 金管楽器応用 溶接、ピストン調整、凹み修正、抜き差し管調整、スライド調整 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（2h） | | | | | |
| 3 | 金管楽器応用 溶接、ピストン調整、凹み修正、抜き差し管調整、スライド調整 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（2h） | | | | | |
| 4 | 金管楽器応用 溶接、ピストン調整、凹み修正、抜き差し管調整、スライド調整 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（2h） | | | | | |
| 5 | 金管楽器応用 溶接、ピストン調整、凹み修正、抜き差し管調整、スライド調整 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（2h） | | | | | |
| 6 | 金管楽器応用 溶接、ピストン調整、凹み修正、抜き差し管調整、スライド調整 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（2h） | | | | | |
| 7 | 金管楽器応用 溶接、ピストン調整、凹み修正、抜き差し管調整、スライド調整 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（2h） | | | | | |
| 8 | 金管楽器応用 溶接、ピストン調整、凹み修正、抜き差し管調整、スライド調整 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（2h） | | | | | |
| 9 | 金管楽器応用 溶接、ピストン調整、凹み修正、抜き差し管調整、スライド調整 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（2h） | | | | | |
| 10 | 奏法使用楽器調整（トランペット、ホルン、トロンボーン） 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（2h） | | | | | |
| 11 | 奏法使用楽器調整（トランペット、ホルン、トロンボーン） 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（2h） | | | | | |
| 12 | 奏法使用楽器調整（トランペット、ホルン、トロンボーン） 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（2h） | | | | | |
| 13 | 金管楽器応用実習総合 苦手意識克服のため、作業の見直しと仕上がり度について確認する 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（2h） | | | | | |
| 14 | 金管楽器応用実習総合 苦手意識克服のため、作業の見直しと仕上がり度について確認する 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（2h） | | | | | |

| 実施回 | 内容 |
|-------------|---|
| | 授業内容・目標 |
| 15 | 金管楽器応用実習総合 苦手意識克服のため、作業の見直しと仕上がり度について確認する 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（2h） |
| 時間外での学修 | 技能の反復練習は重要です。繰り返し行うことで、新しい発見もありますので、意欲を持って臨んでください。 【この科目で求められる授業外の総学修時間：30時間】 |
| 受講学生へのメッセージ | 自分の将来を見据えて、いまやるべきことを十分に理解し、更なるレベルアップを目指してください。オフィスアワーは授業後F101教室で行います。それ以外の空時間でも構いませんので、B304（B号館3F）へ気軽に来てください。 |

| | | | | | | |
|----------------|--|--------------------------------------|----------|------|----------|-------|
| 【3R6A315】リペア特講 | | 音楽総合学科 | 2年後期 | | | |
| 2単位 | 選択 | | 演習 | 60時間 | | |
| 教員 | 渡辺 博夫 | | | | | |
| 資格・制限等 | 特になし | | | | | |
| 実務家教員 | メーカー修理職:34年 | | | | | |
| 授業方法 | 実習が主になりますが、小グループで解決策を見出し、検討結果等の発表の活動等も含めて、授業を進めて行きます。 | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 管楽器の仕組みや構造を理解し、的確なリペア対応が出来る。 | | | | |
| | 思考・判断・表現 | 管楽器の状態把握し、リペア箇所を見つけ解決方法を判断する。 | | | | |
| | 技能 | 木管楽器の状態把握し、リペア箇所を見つけ自らの技能で問題解決する。 | | | | |
| | 関心・意欲・態度 | 楽器に関する事に興味や関心を持ち、自らが率先して学修すること事が出来る。 | | | | |
| | 備考 | ・○・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。 | | | | |
| 授業内容 | 吹奏楽等で使用されている木管楽器の種類は多くあります。特殊管等の仕組みや構造を理解しリペア技術の幅や、商品知識向上を図ります。 | | | | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 評価方法 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 筆記試験 | 20 | 30 | 30 | - | 80 |
| | 受講態度 | - | - | - | 20 | 20 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計(点) | 20 | 30 | 30 | 20 | 100 |
| 評価の特記事項 | 全授業の1/3以上欠席の場合、定期試験の受験資格がありません。 | | | | | |
| ICT活用 | 学生ポータル等で、ICTを活用した自主学修支援を行います。 | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの活用 | グループワーク | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | 授業毎に、分からぬ事や作業完了品の状態確認については、学生から挙手を仰ぎ、個々にフィードバックを行います。 | | | | | |
| テキスト | 『管打楽器の新しい楽器学と演奏法（上・下）』ヤマハ株式会社 1年次に購入したものを使用します。 | | | | | |
| 参考書・教材 | 各社カタログ、配布資料は授業毎に配布します。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | ガイダンス、授業の進め方 【課題（復習・他）学んだ内容の復習（1h）】 | | | | | |
| 2 | ピッコロについて 構造説明、ヘッドコルク脱着方法、反射板位置（各社の寸法）説明、タンポ調整 【課題（復習・他）学んだ内容の復習（2h）】 | | | | | |
| 3 | フルートリングキイタイプについて 構造説明、タンポ調整 フルートリングキイタイプについて タンポ調整（専用工具製作を含む）、小グループ化で、ピッコロ、フルートリングキイの作業方法を討議する。 【課題（復習・他）学んだ内容の復習（2h）】 | | | | | |
| 4 | ハーモニーカラリネットについて 構造説明 ハーモニーカラリネットについて タンポ調整、連絡バランスの取り方 【課題（復習・他）学んだ内容の復習（2h）】 | | | | | |
| 5 | ハーモニーカラリネットについて レジスター連絡の取り方について、小グループ化し取り付け方について討議する。 オーボエについて 構造説明 【課題（復習・他）学んだ内容の復習（2h）】 | | | | | |
| 6 | オーボエについて タンポ調整、連絡バランスの取り方 ファゴットについて 構造説明 【課題（復習・他）学んだ内容の復習（2h）】 | | | | | |
| 7 | ファゴットについて タンポ調、連絡バランスの取り方、オーボエとファゴットについて、小グループ化し作業方法等を協議する。 ソプラノサクソフォン・バリトンサクソフォンについて 構造説明 【課題（復習・他）学んだ内容の復習（2h）】 | | | | | |
| 8 | ソプラノサクソフォン・バリトンサクソフォンについて タンポ調製、連絡バランスの取り方について（他社製品も含む） 【課題（復習・他）学んだ内容の復習（2h）】 | | | | | |
| 9 | 中低音楽器の構造について 中低音楽器のピストンについて 【課題（復習・他）学んだ内容の復習（2h）】 | | | | | |

| 実施回 | 内容 |
|-------------|--|
| | 授業内容・目標 |
| 10 | ベル、1番管分解組み立て（中低音楽器） 熱する面積が多いため、表面の塗装等を焦がさない様に脱着する。 また、胴輪では分解する方法をしっかり確認する。 【課題（復習・他）学んだ内容の復習（2h）】 |
| 11 | フレア部、ベル胴部の変形修正 芯金等の使用について（ローラー芯金、ベルデン トリムーバー、ベル胴芯金） 【課題（復習・他）学んだ内容の復習（2h）】 |
| 12 | 抜差し管頭、曲管部の凹み修正 芯金等の使用について（はね出しについても説明） また、ポールを使った曲管部の凹み修正も説明します。 【課題（復習・他）学んだ内容の復習（2h）】 |
| 13 | 溶接作業：ロー付け 加工したパーツをロー付けする（フラックス除去、最終仕上げ） 溶接作業：ろー付け 加工したパーツをロー付けする（フラックス除去、最終仕上げ） 【課題（復習・他）学んだ内容の復習（2h）】 |
| 14 | 木管楽器総合 分解組み立てなどメーカーによる違い等の再学修 【課題（復習・他）学んだ内容の復習（2h）】 |
| 15 | 金管楽器総合 分解組み立てなどメーカーによる違い等の再学修 【課題（復習・他）学んだ内容の復習（2h）】 |
| 時間外での学修 | 多くの楽器が存在するため、構造を理解しなければ進めません。しっかり身に付けて下さい。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30時間】 |
| 受講学生へのメッセージ | 楽器店では、金管楽器全般のリペア対応が必要となりますので、しっかり身に付けて下さい。 オフィスアワーは、毎週木曜日授業後に行いますが、それ以外の時間でも気軽に来てください。 |

| 【3R6A316】リペアグレード対策 | | 音楽総合学科 | | 2年前期 | | |
|--------------------|---|-----------------------------------|----------|------|----------|-------|
| 教員 | 松永 幸宏 | 2単位 | 選択 | 演習 | 60時間 | |
| 資格・制限等 | 特になし | | | | | |
| 実務家教員 | 松永：楽器店修理販売職・19年 | | | | | |
| 授業方法 | 実技が中心となり、合格レベルとはどんな状態作りなのかをしっかり理解するように授業を進めて行きます。授業内容によっては、ICTを活用しフィードバックを行っていきます。 | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 合格レベルとはどんな内容なのかを十分に理解が出来る。 | | | | |
| | 思考・判断・表現 | リペア技能をどう導き出して、限られた時間内に解決が出来る。 | | | | |
| | 技能 | 作業手順を理解し、出来上がりの状態が合格レベルに達している。 | | | | |
| | 関心・意欲・態度 | 応用的なリペア技能を見出す等、自らが率先して学修することが出来る。 | | | | |
| 授業内容 | ヤマハ株式会社が実施する、リペア技能評価取得に向け、木管楽器（3品目）、金管楽器（3品目）について実技を行っていきます。規定時間内で完成品が合格ラインに届くよう、作業を繰り返しながら効率化を目指します。 | | | | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 評価方法 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 筆記試験 | 20 | 30 | - | - | 50 |
| | 実技試験 | - | - | 30 | - | 30 |
| | 受講態度 | - | - | - | 20 | 20 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計(点) | 20 | 30 | 30 | 20 | 100 |
| 評価の特記事項 | 全授業の1/3以上欠席の場合、定期試験の受験資格はありません。 | | | | | |
| ICT活用 | 学生ポータル等でICTを活用した自主学修支援を行います。 | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの活用 | なし。 | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | 授業内に、学生から挙手を仰ぎ、完成度について分からぬで悩んでいる作業についてはフィードバックをします。 | | | | | |
| テキスト | 1年次に購入したものを使用します。 | | | | | |
| 参考書・教材 | 必要な資料等は、授業毎に配布します。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | ガイダンス：リペアグレードについて 試験内容、作業確認、時間管理と今後のスケジュール 【課題（復習・他）】作業時間を短縮するにはどのようにすればよいか考え、グレード試験に向け各自でスケジュールをたてる。木管楽器のタンポ合わせを復習しておく(2h) | | | | | |
| 2 | リペアグレード対策実習：木管楽器（サクソフォン） タンポ合わせの精度のアップを図る、作業の効率化（作業時間の短縮） 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習(2h) | | | | | |
| 3 | リペアグレード対策実習：木管楽器（サクソフォン） タンポ合わせの精度のアップを図る、作業の効率化（作業時間の短縮） 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習(2h) | | | | | |
| 4 | リペアグレード対策実習：木管楽器（クラリネット） タンポ合わせの精度のアップを図る、作業の効率化（作業時間の短縮） 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習(2h) | | | | | |
| 5 | リペアグレード対策実習：木管楽器（フルート） タンポ合わせの精度のアップを図る、作業の効率化（作業時間の短縮） 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習(2h) | | | | | |
| 6 | リペアグレード対策実習：木管楽器（フルート） タンポ合わせの精度のアップを図る、作業の効率化（作業時間の短縮） 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習(2h) | | | | | |
| 7 | リペアグレード対策実習：木管楽器（サクソフォン） タンポ合わせ、バランス調整。規定時間内に行い、総合的な仕上がり度を追求する。 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習(2h) | | | | | |
| 8 | リペアグレード対策実習：金管楽器（トランペット） ハンダ付作業の仕上がり追及 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習(2h) | | | | | |
| 9 | リペアグレード対策実習：金管楽器（トロンボーン） 規定時間内に行い、総合的に合格ライン達成を目指す。 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習(2h) | | | | | |
| 10 | リペアグレード対策実習：木管楽器（フルート） タンポ合わせ、バランス調整。規定時間内に行い、総合的な仕上がり度を追求する。 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習(2h) | | | | | |
| 11 | リペアグレード対策実習：木管楽器（フルート） タンポ合わせ、バランス調整。規定時間内に行い、総合的な仕上がり度を追求する。 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習(2h) | | | | | |
| 12 | リペアグレード対策実習：金管楽器（ホルン） ロータリー調整、糸の張り、レバー曲がり、抜き差し調整。作業の仕上がり度のアップを図る。 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習(2h) | | | | | |
| 13 | リペアグレード対策実習：木管楽器（クラリネット） タンポ合わせ、バランス調整。規定時間内に行い、総合的な仕上がり度を追求する。 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習(2h) | | | | | |
| 14 | リペアグレード対策実習：木管楽器（サクソフォン） タンポ合わせ、バランス調整。規定時間内に行い、総合的な仕上がり度を追求する。 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習(2h) | | | | | |

| 内容 | |
|-------------|--|
| 実施回 | 授業内容・目標 |
| 15 | リペアグレード対策実習：金管楽器（トランペット） ピストン調整、抜き差し管調整作業の仕上がり追及。 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習(2h) |
| 時間外での学修 | 復習が重要です。空き時間の有効活用をしっかり考えて実践してください。 【この科目で求められる望ましい授業時間外での総学修時間：30時間】 |
| 受講学生へのメッセージ | 反復練習が重要ですが、同じ作業が続くとモチベーション低下に繋がります、自己管理に気を付けてください。オフィスアワーは授業後F101教室で行います。それ以外の空き時間でも構いません。 |

| 【3R6A317】リペアグレード対策 | | 音楽総合学科 | | 2年前期 | | |
|--------------------|--|-----------------------------------|----------|------|----------|-------|
| 教員 | 鬼頭 加奈 | 2単位 | 選択 | 演習 | 60時間 | |
| 資格・制限等 | 特になし | | | | | |
| 実務家教員 | 鬼頭 楽器店修理販売職：10年 | | | | | |
| 授業方法 | 実技が中心になり、合格レベルとはどんな状態作りなのかをしっかり理解するよう授業を進めて行きます。授業内容によっては、ICTを活用しフィードバックを行っていきます。 | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 合格レベルはどんな状態なのかを十分に理解が出来る。 | | | | |
| | 思考・判断・表現 | リペア技能をどう導き出して、限られた時間内に解決が出来る。 | | | | |
| | 技能 | 作業手順を理解し、出来上がりの状態が合格レベルに達している。 | | | | |
| | 関心・意欲・態度 | 応用的なリペア技能を見出す等、自らが率先して学修することが出来る。 | | | | |
| | 備考 | ・・の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。 | | | | |
| 授業内容 | ヤマハ株式会社が実施する、リペア技能評価取得に向け、木管楽器（3品目）、金管楽器（3品目）について実技を行って行きます。規定時間内での完成品が合格ラインに届く様、作業の繰り返しから効率化を目指します。 | | | | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 評価方法 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 筆記試験 | 10 | - | - | - | 10 |
| | 実技試験 | - | 20 | 50 | - | 70 |
| | 受講態度 | - | - | - | 20 | 20 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計(点) | 10 | 20 | 50 | 20 | 100 |
| 評価の特記事項 | 全授業の1/3以上欠席の場合、定期試験の受験資格はありません。 | | | | | |
| I C T 活用 | 学生ポータル等でICTを活用した自主学修支援を行います。 | | | | | |
| アカティブ・ラーニングの活用 | なし。 | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | 授業内に、学生から挙手を仰ぎ、完成度についてや分からぬで悩んでいる作業についてフィードバックをします。 | | | | | |
| テキスト | 『「管打楽器の新しい楽器学と演奏法』（上・下）ヤマハ株式会社』 1年次に購入したものを使用します。 | | | | | |
| 参考書・教材 | 必要資料等は、授業毎に配布します。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | リペアグレード対策実習：木管楽器（サクソフォン） タンポ合わせの精度アップを図る、作業の効率化（作業時間短縮） 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（2h） | | | | | |
| 2 | リペアグレード対策実習：木管楽器（サクソフォン） タンポ合わせの精度アップを図る、作業の効率化（作業時間短縮） 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（2h） | | | | | |
| 3 | リペアグレード対策実習：木管楽器（クラリネット） タンポ合わせの精度アップを図る、作業の効率化（作業時間短縮） 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（2h） | | | | | |
| 4 | リペアグレード対策実習：木管楽器（フルート） タンポ合わせの精度アップを図る、作業の効率化（作業時間短縮） 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（2h） | | | | | |
| 5 | リペアグレード対策実習：木管楽器（フルート） タンポ合わせの精度アップを図る、作業の効率化（作業時間短縮） 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（2h） | | | | | |
| 6 | リペアグレード対策実習：木管楽器（サクソフォン） タンポ合わせ、バランス調整。規定時間内に行い、総合的な仕上がり度を追求する。 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（2h） | | | | | |
| 7 | リペアグレード対策実習：金管楽器（トランペット） ハンダ付作業の仕上がり追求 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（2h） | | | | | |
| 8 | リペアグレード対策実習：金管楽器（トロンボーン） 規定時間内に行い、総合的に合格ライン達成を目指す。 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（2h） | | | | | |
| 9 | リペアグレード対策実習：木管楽器（フルート） タンポ合わせ、バランス調整。規定時間内に行い、総合的な仕上がり度を追求する。 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（2h） | | | | | |
| 10 | リペアグレード対策実習：木管楽器（フルート） タンポ合わせ、バランス調整。規定時間内に行い、総合的な仕上がり度を追求する。 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（2h） | | | | | |
| 11 | リペアグレード対策実習：金管楽器（ホルン） ロータリー調整、糸の張り、レバー曲がり、抜き差し調整。作業の仕上がり度アップを図る。 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（2h） | | | | | |
| 12 | リペアグレード対策実習：木管楽器（クラリネット） タンポ合わせ、バランス調整。規定時間内に行い、総合的な仕上がり度を追求する。 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（2h） | | | | | |
| 13 | リペアグレード対策実習：木管楽器（サクソフォン） タンポ合わせ、バランス調整。規定時間内に行い、総合的な仕上がり度を追求する。 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（2h） | | | | | |

| 実施回 | 内容 | |
|-------------|--|--|
| | 授業内容・目標 | |
| 14 | リペアグレード対策実習：金管楽器（トランペット） ピストン、抜き差し管調整作業の仕上がり追求 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（2h） | |
| 15 | 総合復習 6品目の中から苦手とする項目の復習。定期試験の準備確認。 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（2h） | |
| 時間外での学修 | 復習が重要です。空き時間の有効活用をしっかり考えて実践してください。 【この科目で求められる望ましい授業外での総学修時間：30時間】 | |
| 受講学生へのメッセージ | 反復練習が重要ですが、同じ作業が続くとモチベーション低下に繋がりますから、自己管理に気を付けて下さい。オフィスアワーは授業後F101教室で行います。それ以外の空時間でも構いませんので、B304（B号館3F）へ気軽に来てください。 | |

| 【3R6A218】打楽器リペア演習 | | 音楽総合学科 | | 2年後期 | | |
|-------------------|---|---|----------|------|----------|-------|
| 教員 | 渡辺 博夫 | 1単位 | 選択 | 演習 | 30時間 | |
| 資格・制限等 | 特になし | | | | | |
| 実務家教員 | メーカー修理職:34年 | | | | | |
| 授業方法 | 実技が主になります。構造説明やそれぞれの楽器についての演奏形態等、打楽器全般の基礎的な知識やリペア技術が身に付く様、授業を進めて行きます。授業内容によっては、ICTを活用した課題提出とそのフィードバックを行います。 | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 各楽器の状態把握後、修理の必要性を見つけ解決方法が判断できる。 | | | | |
| | 思考・判断・表現 | 各楽器の状態把握後、修理の必要性を見つけ解決方法が判断できる。 | | | | |
| | 技能 | 各楽器の仕組みや構造を理解し、リペア箇所を自らのリペア技術で問題解決が出来る。 | | | | |
| | 関心・意欲・態度 | 楽器に関する興味や関心を持ち、自らが率先して学修することが出来る。 | | | | |
| | 備考 | ・○・Aの記号は、DP・到達目標と結びつきの強さを示しています。 | | | | |
| 授業内容 | 打楽器類より、主にティンパニーを取り上げ、仕組みや構造を理解し、トラブルとして多い症状に対応できるリペア技術を身につけます。また、他楽器でも構造をしっかり理解し、起こりやすいトラブルに対処できるリペア技術を身に付けます。重量のある大型楽器については、安全面からも学修します。 | | | | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 評価方法 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 筆記試験 | 20 | 30 | 30 | - | 80 |
| | 受講態度 | - | - | - | 20 | 20 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計(点) | 20 | 30 | 30 | 20 | 100 |
| 評価の特記事項 | 授業の1/3以上欠席の場合、定期試験の受験資格はありません。 | | | | | |
| ICT活用 | 学生ポータル等で、ICTを活用した自主学修支援を行います。 | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの活用 | グループワーク | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | 授業毎に、学生から挙手を仰ぎ、分からぬ事や、作業が進まず悩んでいる事についてフィードバックをします。 | | | | | |
| テキスト | 『管打楽器の新しい楽器学と演奏法（上・下）』ヤマハ株式会社 一年次に購入したものを使用します。 | | | | | |
| 参考書・教材 | 各社打楽器カタログ 必要資料は、授業毎に配布します | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | ガイダンス・打楽器概論 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（1h） | | | | | |
| 2 | ティンパニー基礎実習 TP-5xxを使用して、グループワークで作業を進めて行きます。 使用工具や、パート名称をしっかり理解をして下さい。 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（1h） | | | | | |
| 3 | ティンパニー基礎実習 TP-5xxを使用して、グループワークで作業を進めて行きます。 使用工具や、パート名称をしっかり理解をして下さい。 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（1h） | | | | | |
| 4 | ティンパニー基礎実習 TP-5xxを使用して、グループワークで作業を進めて行きます。 使用工具や、パート名称をしっかり理解をして下さい。 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（1h） | | | | | |
| 5 | ティンパニー基礎実習 バランステンションロッド、テンションロッド等の調整ポイントについてグループワークで進めて行きます。 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（1h） | | | | | |
| 6 | ティンパニー基礎実習 バランステンションロッド、テンションロッド等の調整ポイントについてグループワークで進めて行きます。 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（1h） | | | | | |
| 7 | ティンパニー基礎実習 チューニング、ペダルバランス等の調整ポイントについて グループワークで進めて行きます。 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（1h） | | | | | |
| 8 | ティンパニー基礎実習 チューニング、ペダルバランス等の調整 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（1h） | | | | | |
| 9 | 膜楽器基礎実習 コンサートバスドラム、マーチングバスドラムの構造や仕組みを理解する。 グループワークで進めて行きます。 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（1h） | | | | | |
| 10 | 膜楽器基礎実習 コンサートスネアドラム、マーチングスネアドラム 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（1h） | | | | | |

| 実施回 | 内容 |
|-------------|---|
| | 授業内容・目標 |
| 11 | 音板打楽器基礎実習 コンサートマリンバ、コンサートシロフォンの構造や仕組みを理解する。 グループワークで進めて行きます。 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（1h） |
| 12 | 音板打楽器基礎実習 ビブラフォン、クロッケンの構造や仕組みを理解する。 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（1h） |
| 13 | 打楽器類基礎実習 チャイム、ハープの構造や仕組みを理解する。 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（1h） |
| 14 | 打楽器類基礎実習 シンバルの構造や仕組みを理解する。合わせシンバルのストラップ交換を行います。 グループワークで進めて行きます。 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（1h） |
| 15 | 打楽器類基礎実習 マレット、小物打楽器類、膜楽器のヘッド等について 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（1h） |
| 時間外での学修 | 各社カタログをしっかりと読み取り、仕様の違いやセールスポイントを理解して下さい。 【この科目で求められる望ましい授業外の総学修時間：15時間】 |
| 受講学生へのメッセージ | 幅広い対応力が求められているためしっかりと理解して下さい。オフィスアワーは、毎週月曜日4限終了後、F101教室で行います。それ以外の空時間でも構いません。 |

| 【3R6A219】弦楽器リペア演習 | | 音楽総合学科 | | 2年後期 | |
|-------------------|---|---|----------|------|----------|
| 教員 | 松永 幸宏 | 1単位 | 選択 | 演習 | 30時間 |
| 資格・制限等 | 特になし | | | | |
| 実務家教員 | 松永：楽器店修理販売職・19年 | | | | |
| 授業方法 | 実際に楽器にさわる実習が中心ですが、資料などを活用した講義も取り入れグループでの実習などを含めて授業を展開していきます。学生ポータルやメールで質問等も受け付けます。場合により、Google Meetなどによる遠隔授業や、ICTを活用した課題提出とそのフィードバックなども双方向で行うこともあります。 | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 弦楽器の歴史や名称など基本的な知識を理解できる。 | | | |
| | 思考・判断・表現 | 基本的なメンテナンス知識を身に付け、不具合を見つけ適切な処置方法を考えることができる。 | | | |
| | 関心・意欲・態度 | より深く楽器に対して関心を持ち、積極的に知識を得ようと努力し取り組むことができる。 | | | |
| | 備考 | ・○・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。 | | | |
| 授業内容 | 楽器店及び学校販売の現場において最低限必要な弦楽器の知識や技術を学ぶ。 | | | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 評価方法 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 |
| | 筆記試験 | 50 | 40 | - | - |
| | 受講態度 | - | - | - | 10 |
| | | | | | 10 |
| | | | | | |
| | 合 計(点) | 50 | 40 | - | 10 |
| 評価の特記事項 | 受講態度は学修取り組み、技術向上への意欲等の状況。 | | | | |
| ICT活用 | ICTを活用した自主学習支援(学生ポータルなど) | | | | |
| アクティブ・ラーニングの活用 | なし | | | | |
| 課題に対するフィードバック | フィードバックとして、課題回収後、解答の解説を行います。 | | | | |
| テキスト | ありません。 | | | | |
| 参考書・教材 | 必要な資料は授業で配付します。 | | | | |
| 内容 | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | |
| 1 | ガイダンス、授業の進め方・バイオリンについて(歴史・名称) [課題(復習)]学んだ内容の復習(1h) | | | | |
| 2 | バイオリンについて(扱い方・セットアップ) [課題(復習)]学んだ内容の復習(1h) | | | | |
| 3 | バイオリンについて(弦交換)1 [課題(復習)]学んだ内容の復習(1h) | | | | |
| 4 | バイオリンについて(弦交換)2 [課題(復習)]学んだ内容の復習(1h) | | | | |
| 5 | バイオリンについて(全体ばらし、組立) [課題(復習)]学んだ内容の復習(1h) | | | | |
| 6 | バイオリンについて(魂柱たて1) [課題(復習)]学んだ内容の復習(1h) | | | | |
| 7 | バイオリンについて(魂柱たて2) [課題(復習)]学んだ内容の復習(1h) | | | | |
| 8 | バイオリンの弓について [課題(復習)]学んだ内容の復習(1h) | | | | |
| 9 | バイオリンのメンテナンス1 [課題(復習)]学んだ内容の復習(1h) | | | | |
| 10 | コントラバスの知識・実技1 [課題(復習)]学んだ内容の復習(1h) | | | | |
| 11 | コントラバスの知識・実技2 [課題(復習)]学んだ内容の復習(1h) | | | | |
| 12 | 楽器店における弦楽器の販売1 [課題(復習)]学んだ内容の復習(1h) | | | | |
| 13 | 楽器店における弦楽器の販売2 [課題(復習)]学んだ内容の復習(1h) | | | | |
| 14 | 楽器店における弦楽器の販売3 [課題(復習)]学んだ内容の復習(1h) | | | | |
| 15 | 授業外の課題のまとめ、試験に向けての復習確認作業 [課題(復習)]試験への再確認(1h) | | | | |
| 時間外での学修 | [課題]は技術を身に付ける上で必要なことです。授業外で確実に学修を行いましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】 | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 専門外の楽器ですが、今後必要になる知識です、積極的に授業に参画してください。オフィスアワーは毎週火曜日授業終了後に行います。 | | | | |

| 【3R6S224】楽器奏法 | | 音楽総合学科 | | 2年前期 | | |
|---------------|---|--|----------|------|----------|-------|
| 教員 | 佐溝 佳奈 | 1単位 | 必修 | 演習 | 30時間 | |
| 資格・制限等 | 特になし | | | | | |
| 実務家教員 | | | | | | |
| 授業方法 | 演奏形式で個人レッスンを中心に進めます。各楽器に分かれ5~6週かけてレッスンを受け各楽器の演奏技術を修得します。質問等は授業時や授業後に受け付けます。 | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 各楽器の演奏上の基本的な構造が理解し、その説明ができる。 | | | | |
| | 思考・判断・表現 | リペア修理後の楽器の状態が演奏によってある程度把握できる。 | | | | |
| | 技能 | 各楽器の基本的な奏法を身につけ、基本奏法の他に簡単な楽曲の演奏ができる。 | | | | |
| | 関心・意欲・態度 | 各楽器を演奏し修理の依頼者に対し故障の原因や修理での改善点がある程度説明できる。 | | | | |
| 授業内容 | リペア技術者にとって修理品の点検は不可欠、修理をしても点検するすべがなくては、プロの技術者とは呼べません。楽器奏法の授業では、フルート・クラリネット・サクソフォン・ホルン・トランペット・トロンボーンといった吹奏楽で使用される代表的な管楽器のレッスンを受けることにより、各楽器の基本的な奏法を修得し楽器検品などに活かします。また演奏することによって、その楽器の機構や特徴を学ぶことができます。 | | | | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 評価方法 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 実技試験 | - | - | 60 | - | 60 |
| | 各楽器の修得力 | 10 | 10 | - | - | 20 |
| | 受講態度 | - | - | - | 20 | 20 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計(点) | 10 | 10 | 60 | 20 | 100 |
| 評価の特記事項 | | | | | | |
| ICT活用 | | | | | | |
| アケイブ・ラーニングの活用 | 特になし | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | フィードバックとして、奏法や理解度確認テスト実施後、アドバイスを行います。 | | | | | |
| テキスト | | | | | | |
| 参考書・教材 | 楽譜等その都度配付します。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | ガイダンス、授業の説明、レッスンのグループ分け、レッスンの受け方 [課題(準備)]次回レッスン楽器の基礎知識(1~2h) | | | | | |
| 2 | 楽器1レッスン1: グループA(F1) B(C1) C(Sax) D(Tp) E(Hr) F(Tb) 1年の復習 基本奏法1 ロングトーン スケール 等 [課題・準備]レッスン楽器の練習(1~2h) | | | | | |
| 3 | 楽器1レッスン2: グループA(F1) B(C1) C(Sax) D(Tp) E(Hr) F(Tb) 1年の復習 基本奏法2 タンギング 等 注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題・準備]レッスン楽器の練習(1~2h) | | | | | |
| 4 | 楽器1レッスン3: グループA(F1) B(C1) C(Sax) D(Tp) E(Hr) F(Tb) 楽曲レッスン1 課題曲の譜読み 注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題・準備]レッスン楽器の練習(1~2h) | | | | | |
| 5 | 楽器1レッスン4: グループA(F1) B(C1) C(Sax) D(Tp) E(Hr) F(Tb) 楽曲レッスン2 課題曲仕上げ 注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題・準備]レッスン楽器の練習(1~2h) | | | | | |
| 6 | 楽器2レッスン1: グループA(C1) B(Sax) C(Tp) D(Hr) E(Tb) F(F1) 1年の復習 基本奏法1 ロングトーン スケール 等 [課題・準備]レッスン楽器の練習(1~2h) | | | | | |
| 7 | 楽器2レッスン2: グループA(C1) B(Sax) C(Tp) D(Hr) E(Tb) F(F1) 1年の復習 基本奏法2 タンギング 等 注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題・準備]レッスン楽器の練習(1~2h) | | | | | |
| 8 | 楽器2レッスン3: グループA(C1) B(Sax) C(Tp) D(Hr) E(Tb) F(F1) 楽曲レッスン1 課題曲の譜読み 注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題・準備]レッスン楽器の練習(1~2h) | | | | | |
| 9 | 楽器2レッスン4: グループA(C1) B(Sax) C(Tp) D(Hr) E(Tb) F(F1) 楽曲レッスン2 課題曲仕上げ 注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題・準備]レッスン楽器の練習(1~2h) | | | | | |
| 10 | 楽器3レッスン1: グループA(Sax) B(Tp) C(Hr) D(Tb) E(F1) F(C1) 1年の復習 基本奏法1 ロングトーン スケール 等 [課題・準備]レッスン楽器の練習(1~2h) | | | | | |
| 11 | 楽器3レッスン2: グループA(Sax) B(Tp) C(Hr) D(Tb) E(F1) F(C1) 1年の復習 基本奏法2 タンギング 等 注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題・準備]レッスン楽器の練習(1~2h) | | | | | |
| 12 | 楽器3レッスン3: グループA(Sax) B(Tp) C(Hr) D(Tb) E(F1) F(C1) 楽曲レッスン1 課題曲の譜読み 注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題・準備]レッスン楽器の練習(1~2h) | | | | | |
| 13 | 楽器3レッスン4: グループA(Sax) B(Tp) C(Hr) D(Tb) E(F1) F(C1) 楽曲レッスン2 課題曲仕上げ 注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題・準備]レッスン楽器の練習(1~2h) | | | | | |
| 14 | 不得意楽器のレッスン1 学期末実技試験対策 [課題(準備)]レッスン楽器の練習(1~2h) | | | | | |

| 内容 | |
|-------------|--|
| 実施回 | 授業内容・目標 |
| 15 | 不得意楽器のレッスン2 学期末実技試験対策 [課題(準備)] レッスン楽器の練習(1~2h) |
| 時間外での学修 | 短期間のレッスンの中で基本的な奏法を学ばなければいけないため、修得するためには強い意志と、努力が必要となります。与えられた課題をこなすためにしっかりと練習しましょう。 【この科目で求める望ましい授業時間外での総学修時間：30時間】 |
| 受講学生へのメッセージ | 授業前に楽器の準備をしてください。レッスンに当たっては楽器の取り扱いなど担当教員の指示をしっかりと聞いて行ってください。オフィスアワーは授業前後の休み時間に教室で実施します。 |

| 【3R6A225】楽器奏法 | | 音楽総合学科 | | 2年後期 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------------|--|----------|------------------------------------|----------|-------|---------------|-------|----------|----|----------|-------|------|---|---|----|---|----|---------|----|----|---|---|----|------|---|---|---|----|----|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--------|----|----|----|----|-----|
| 教員 | 佐溝 佳奈 | 1単位 | 必修 | 演習 | 30時間 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 資格・制限等 | 特になし | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 実務家教員 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法 | 演奏形式で個人レッスンを中心に進めます。各楽器に分かれ5~6週かけてレッスンを受け各楽器の演奏技術を修得します。質問等は授業時や授業後に受け付けます。 | 到達目標 | 知識・理解 各楽器の演奏上の基本的な構造が理解し、その説明ができる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 思考・判断・表現 リペア修理後の楽器の状態が演奏によってある程度把握できる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 技能 各楽器の基本的な奏法を身につけ、基本奏法の他に簡単な楽曲の演奏ができる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 関心・意欲・態度 楽器の扱い方、初步の演奏指導ができ、初級者への楽曲の指導ができる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業内容 | リペア技術者にとって修理品の点検は不可欠、修理をしても点検するすべがなくては、プロの技術者とは呼べません。楽器奏法の授業では、フルート・クラリネット・サクソフォン・ホルン・トランペット・トロンボーンといった吹奏楽で使用される代表的な管楽器のレッスンを受けることにより、各楽器の基本的な奏法を修得し楽器検品などに活かします。また演奏することによって、その楽器の機構や特徴を学ぶことができます。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 観点別評価 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価の観点 評価方法</th><th>知識・理解</th><th>思考・判断・表現</th><th>技能</th><th>関心・意欲・態度</th><th>合計(点)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実技試験</td><td>-</td><td>-</td><td>60</td><td>-</td><td>60</td></tr> <tr> <td>各楽器の修得力</td><td>10</td><td>10</td><td>-</td><td>-</td><td>20</td></tr> <tr> <td>受講態度</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>20</td><td>20</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>合 計(点)</td><td>10</td><td>10</td><td>60</td><td>20</td><td>100</td></tr> </tbody> </table> | | | | | 評価の観点 評価方法 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) | 実技試験 | - | - | 60 | - | 60 | 各楽器の修得力 | 10 | 10 | - | - | 20 | 受講態度 | - | - | - | 20 | 20 | | | | | | | | | | | | | 合 計(点) | 10 | 10 | 60 | 20 | 100 |
| 評価の観点 評価方法 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 実技試験 | - | - | 60 | - | 60 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 各楽器の修得力 | 10 | 10 | - | - | 20 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 受講態度 | - | - | - | 20 | 20 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合 計(点) | 10 | 10 | 60 | 20 | 100 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価の特記事項 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| I C T活用 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| アグティブ・ラーニングの活用 | 特になし | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | フィードバックとして、奏法や理解度確認テスト実施後、アドバイスを行います。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| テキスト | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書・教材 | 楽譜等その都度配付します。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 内容 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 楽器4レッスン1: グループA(Tp) B(Hr) C(Tb) D(Fl) E(Cl) F(Sax) 1年の復習 基本奏法1 ロングトーン スケール 等 [課題・準備] レッスン楽器の練習(1~2h) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 楽器4レッスン2: グループA(Tp) B(Hr) C(Tb) D(Fl) E(Cl) F(Sax) 1年の復習 基本奏法2 タンギング 等 注: 各楽器によってレッスン方法は異なる [課題・準備] レッスン楽器の練習(1~2h) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | 楽器4レッスン3: グループA(Tp) B(Hr) C(Tb) D(Fl) E(Cl) F(Sax) 楽曲レッスン1 課題曲の譜読み 注: 各楽器によってレッスン方法は異なる [課題・準備] レッスン楽器の練習(1~2h) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | 楽器4レッスン4: グループA(Tp) B(Hr) C(Tb) D(Fl) E(Cl) F(Sax) 楽曲レッスン2 課題曲曲仕上げ 注: 各楽器によってレッスン方法は異なる [課題・準備] レッスン楽器の練習(1~2h) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | 楽器5レッスン1: グループA(Hr) B(Tb) C(Fl) D(Cl) E(Sax) F(Tp) 1年の復習 基本奏法1 ロングトーン スケール 等 [課題・準備] レッスン楽器の練習(1~2h) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 | 楽器5レッスン2: グループA(Hr) B(Tb) C(Fl) D(Cl) E(Sax) F(Tp) 1年の復習 基本奏法2 タンギング 等 注: 各楽器によってレッスン方法は異なる [課題・準備] レッスン楽器の練習(1~2h) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 | 楽器5レッスン3: グループA(Hr) B(Tb) C(Fl) D(Cl) E(Sax) F(Tp) 楽曲レッスン1 課題曲の譜読み 注: 各楽器によってレッスン方法は異なる [課題・準備] レッスン楽器の練習(1~2h) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 | 楽器5レッスン4: グループA(Hr) B(Tb) C(Fl) D(Cl) E(Sax) F(Tp) 楽曲レッスン2 課題曲曲仕上げ 注: 各楽器によってレッスン方法は異なる [課題・準備] レッスン楽器の練習(1~2h) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 | 楽器6レッスン1: グループA(Tb) B(Fl) C(Cl) D(Sax) E(Tp) F(Hr) 1年の復習 基本奏法1 ロングトーン スケール 等 [課題・準備] レッスン楽器の練習(1~2h) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10 | 楽器6レッスン2: グループA(Tb) B(Fl) C(Cl) D(Sax) E(Tp) F(Hr) 1年の復習 基本奏法2 タンギング 等 注: 各楽器によってレッスン方法は異なる [課題・準備] レッスン楽器の練習(1~2h) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11 | 楽器6レッスン3: グループA(Tb) B(Fl) C(Cl) D(Sax) E(Tp) F(Hr) 楽曲レッスン1 課題曲の譜読み 注: 各楽器によってレッスン方法は異なる [課題・準備] レッスン楽器の練習(1~2h) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12 | 楽器6レッスン4: グループA(Tb) B(Fl) C(Cl) D(Sax) E(Tp) F(Hr) 楽曲レッスン2 課題曲曲仕上げ 注: 各楽器によってレッスン方法は異なる [課題・準備] レッスン楽器の練習(1~2h) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13 | 後期不得意楽器のレッスン1 学年末実技試験対策 [課題・準備] レッスン楽器の練習(1~2h) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 14 | 後期不得意楽器のレッスン2 学年末実技試験対策 [課題・準備] レッスン楽器の練習(1~2h) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 15 | 後期不得意楽器のレッスン3 学年末実技試験対策 [課題・準備] レッスン楽器の練習(1~2h) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | |
|-------------|---|
| 時間外での学修 | <p>短期間のレッスンの中で基本的な奏法を学ばなければいけないため、修得するためには強い意志と、努力が必要となります。与えられた課題をこなすためにしっかりと練習しましょう。 【この科目で求める望ましい授業時間外での総学修時間：15～30時間】</p> |
| 受講学生へのメッセージ | <p>授業前に楽器の準備をしてください。レッスンに当たっては楽器の取り扱いなど担当教員の指示をしっかりと聞いて行ってください。 オフィスアワーは授業前後の休み時間に教室で実施します。</p> |

| 【3R6S220】管楽器・業界研究 | | 音楽総合学科 | 2年前期 | | | |
|-------------------|--|--|----------|------|----------|-------|
| 2単位 | | 選択 | 講義 | 30時間 | | |
| 教員 | 松永 幸宏 | | | | | |
| 資格・制限等 | 特になし | | | | | |
| 実務家教員 | 松永：楽器店修理販売職・19年 | | | | | |
| 授業方法 | 講義形式で行います。 | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 楽器業界で即戦力として通用する幅広く豊富な知識を修得できる。楽器業界の流通、関連業務の業態を知ることが出来、卒業後の就職に生かせる。 | | | | |
| | 思考・判断・表現 | 学校教育や吹奏楽活動の現状に关心を持ち、学校から信頼される人間性豊かな人材を目指す。営業やリピアを実施する際、意欲的にお客様と良好な関係を築くことが出来る。 | | | | |
| | 関心・意欲・態度 | 管打楽器及び関連商品の幅広い知識と新しい情報に敏感であり、より専門的な情報収集に努めることができます。 | | | | |
| | 備考 | ・・の記号は、DP-到達目標との結びつきの強さを示しています。 | | | | |
| 授業内容 | 楽器業界で即戦力として通用する幅広い知識を修得します。製造業、卸業、小売業の流通の仕組み、それぞれの業態を学びます。又、業務を遂行する上での必要な関連知識についても学びます。楽器業界人の基本は豊かな感性と人間性及びコミュニケーション能力です。それらをグループワークなども行い学びます。 | | | | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 評価方法 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 筆記試験 | 50 | 20 | - | - | 70 |
| | 課題 | 20 | - | - | - | 20 |
| | 受講態度 | - | - | - | 10 | 10 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計(点) | 70 | 20 | - | 10 | 100 |
| 評価の特記事項 | 受講態度は学修取り組み、意欲等の状況で評価します。 | | | | | |
| I C T 活用 | ICTを活用した自主学習支援（学生ポータルなど） | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの活用 | グループワーク | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | フィードバックとして、課題やレポートにコメントを返します。 | | | | | |
| テキスト | | | | | | |
| 参考書・教材 | 管楽器・打楽器価格一覧表2023年版、楽器別カタログを使用します。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | 授業のガイダンス、「楽器業界ビジネス講座で学ぶ事」楽器研究で学んだブレイング・セールス・エンジニアについての再確認をする。今、求められる新しいタイプの業界人とは。 [課題(復習)]学修内容を復習し年間の授業の内容と流れを確認すること。(4h) | | | | | |
| 2 | 音楽産業と楽器産業について 管・打楽器業界の歴史、日本における管楽器メーカーの歴史的流れを知り現在を理解する。 [課題(復習)]学修内容を復習。歴史を学ぶ意図・目的を考えること。(4h) | | | | | |
| 3 | 小売業について 小売業の業態、店頭（店舗）業務 [課題(復習)]学修内容の復習。(4h) | | | | | |
| 4 | 卸業について 卸業の業態・業務内容、主要商社研究。 [課題(復習/作成)]学修内容の復習。(4h) | | | | | |
| 5 | 楽器製造業について 楽器製造の業態、楽器製造メーカー [課題(復習)]学修内容の復習。(4h) | | | | | |
| 6 | 楽器製造業について 楽器製造の方法 DVD [課題(復習)]学修内容の復習。(4h) | | | | | |
| 7 | グループワーク 4回目と5回目の授業課題を用いてのグループワーク [課題(復習/作成)]学修内容の復習。(4h) | | | | | |
| 8 | グループ発表 3回目と5回目の授業課題を用いてのグループ発表 [課題(復習/作成)]学修内容の復習。(4h) | | | | | |
| 9 | 木管楽器の専門知識 楽器ごとの専門用語、専門知識を身に付けカタログを超えた提案や説明ができるように学ぶ [課題(復習)]学修内容の復習。(4h) | | | | | |
| 10 | 木管楽器の専門知識 楽器ごとの専門用語、専門知識を身に付けカタログを超えた提案や説明ができるように学ぶ [課題(復習)]学修内容の復習。(4h) | | | | | |
| 11 | 木管楽器の専門知識 楽器ごとの専門用語、専門知識を身に付けカタログを超えた提案や説明ができるように学ぶ [課題(復習)]学修内容の復習。(4h) | | | | | |
| 12 | 金管楽器の専門知識 楽器ごとの専門用語、専門知識を身に付けカタログを超えた提案や説明ができるように学ぶ [課題(復習)]学修内容の復習。(4h) | | | | | |
| 13 | 金管楽器の専門知識 楽器ごとの専門用語、専門知識を身に付けカタログを超えた提案や説明ができるように学ぶ [課題(復習)]学修内容の復習。(4h) | | | | | |

| 実施回 | 内容 |
|-------------|--|
| | 授業内容・目標 |
| 14 | 金管楽器の専門知識 楽器ごとの専門用語、専門知識を身に付けカタログを超えた提案や説明ができるように学ぶ [課題(復習)]学修内容の復習。(4h) |
| 15 | 目標:まとめ 定期試験の準備確認 [課題(復習)]学んだことを確認すること。知識を生かせる知恵を身につけること。(4h) |
| 時間外での学修 | 楽器店は楽器業界の第一線として重要です。楽器店以外の店舗からも多くを学べます。吹奏楽及び管打樂器関連専門誌、楽器関連業界誌、インターネット等で最新情報を学び、自分の資料を作成しましょう”将来に必ず活かされます”。 【この科目で求める授業外での総学修時間：15～30時間】 |
| 受講学生へのメッセージ | 業界人としての視点をもって多くの現場を見てください。楽器業界に就職した際のシミュレーションが出来ます。グループ活動では個人の参画意識が重要です。やむを得ない場合を除き、授業は休まないよう個人の責任感を強く意識してください。オフィスアワー：授業後には教室で対応します。 |

| 【3R6S227】リペア入門 | | 音楽総合学科 | 2年前期 | | | |
|----------------|---|---|----------|----|----------|-------|
| 教員 | 鬼頭 加奈 | 1単位 | 選択 | 演習 | | |
| 資格・制限等 | 特になし | | | | | |
| 実務家教員 | 鬼頭：楽器店修理販売職・10年 | | | | | |
| 授業方法 | 吹奏楽指導者、演奏者における指導上必要な知識を総合的に講義によって学びます。 実際に楽器にさわる実習が中心ですが、資料などを活用した講義も取り入れ授業を展開していきます。学生ポータルやメールで質問等も受け付けます。場合により、Google Meetなどによる遠隔授業や、ICTを活用した課題提出とそのフィードバックなども双方向で行うこともあります。 | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 管楽器の構造・仕組み、名称など基本的な知識を理解できる。 | | | | |
| | 思考・判断・表現 | 不具合を見つけ適切なアドバイスを伝えることができる。 | | | | |
| | 技能 | 基本的なお手入れ方法、メンテナンス技術を身に付ける。 | | | | |
| | 関心・意欲・態度 | より深く楽器に対して関心を持ち、積極的に知識を得ようと努力し取り組むことができる。 | | | | |
| | 備考 | ・○・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。 | | | | |
| 授業内容 | 指導の現場において最低限必要な管楽器の知識や取扱い方法を学ぶ。 | | | | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 評価方法 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 課題提出 | 40 | 30 | 10 | - | 80 |
| | 受講態度 | - | - | - | 20 | 20 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計(点) | 40 | 30 | 10 | 20 | 100 |
| 評価の特記事項 | 受講態度は学修取り組み、技術向上への意欲等の状況。 | | | | | |
| ICT活用 | ICTを活用した自主学習支援（学生ポータルなど） | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの活用 | なし | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | フィードバックとして、課題回収後、解答の解説を行います。 | | | | | |
| テキスト | ありません。 | | | | | |
| 参考書・教材 | 必要な資料は授業で配付します。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | ガイダンス（授業の進め方・工具の扱い・注意事項） [課題(復習)]学んだ内容の復習(1h) | | | | | |
| 2 | クラリネット（扱い方・お手入れ方法） [課題(復習)]学んだ内容の復習(1h) | | | | | |
| 3 | クラリネット（構造・仕組み、分解・組立） [課題(復習)]学んだ内容の復習(1h) | | | | | |
| 4 | クラリネット（構造・仕組み、分解・組立） [課題(復習)]学んだ内容の復習(1h) | | | | | |
| 5 | クラリネット（状態確認方法） [課題(復習)]学んだ内容の復習(1h) | | | | | |
| 6 | フルート（扱い方・お手入れ方法） [課題(復習)]学んだ内容の復習(1h) | | | | | |
| 7 | フルート（構造・仕組み、分解・組立） [課題(復習)]学んだ内容の復習(1h) | | | | | |
| 8 | フルート（状態確認方法） [課題(復習)]学んだ内容の復習(1h) | | | | | |
| 9 | サックス（扱い方・お手入れ方法） [課題(復習)]学んだ内容の復習(1h) | | | | | |
| 10 | サックス（構造・仕組み、分解・組立） [課題(復習)]学んだ内容の復習(1h) | | | | | |
| 11 | サックス（構造・仕組み、分解・組立） [課題(復習)]学んだ内容の復習(1h) | | | | | |
| 12 | サックス（状態確認方法） [課題(復習)]学んだ内容の復習(1h) | | | | | |
| 13 | その他木管楽器（扱い方・お手入れ方法） [課題(復習)]学んだ内容の復習(1h) | | | | | |
| 14 | その他木管楽器（扱い方・お手入れ方法） [課題(復習)]学んだ内容の復習(4h) | | | | | |
| 15 | まとめ（リペア知識の活かし方、課題提出、試験に向けての確認作業） [課題(復習)]試験への再確認(4h) | | | | | |
| 時間外での学修 | 専門楽器以外の楽器の知識を身に付けることは、指導の現場で必要なことです。授業外で復習し確実に学修を行いましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 専門外の楽器もありますが、今後必要になる知識です、積極的に授業に参画してください。 オフィスアワーは毎週水曜日授業終了後に行います。 | | | | | |

| | | | | |
|----------------|---|---|------|-------|
| 【3R6A228】リペア入門 | | 音楽総合学科 | 2年後期 | |
| 1単位 | | 選択 | 演習 | 30時間 |
| 教員 | 鬼頭 加奈 | | | |
| 資格・制限等 | 特になし | | | |
| 実務家教員 | 鬼頭：楽器店修理販売職・10年 | | | |
| 授業方法 | 吹奏楽指導者、演奏者における指導上必要な知識を総合的に講義によって学びます。 実際に楽器にさわる実習が中心ですが、資料などを活用した講義も取り入れ授業を展開していきます。学生ポータルやメールで質問等も受け付けます。場合により、Google Meetなどによる遠隔授業や、ICTを活用した課題提出とそのフィードバックなども双方向で行うこともあります。 | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 管楽器の構造・仕組み、名称など基本的な知識を理解できる。 | | |
| | 思考・判断・表現 | 不具合を見つけ適切なアドバイスを伝えることができる。 | | |
| | 技能 | 基本的なお手入れ方法、メンテナンス技術を身に付ける。 | | |
| | 関心・意欲・態度 | より深く楽器に対して関心を持ち、積極的に知識を得ようと努力し取り組むことができる。 | | |
| | 備考 | ・○・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。 | | |
| 授業内容 | 指導の現場において最低限必要な管楽器の知識や取扱い方法を学ぶ。 | | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 | | | |
| | 評価方法 | | | 合計(点) |
| | 課題提出 | 40 | 30 | 10 |
| | 受講態度 | | | 20 |
| | | | | 20 |
| | | | | |
| | 合 計(点) | 40 | 30 | 10 |
| 評価の特記事項 | 受講態度は学修取り組み、技術向上への意欲等の状況。 | | | |
| ICT活用 | ICTを活用した自主学習支援（学生ポータルなど） | | | |
| アクティブ・ラーニングの活用 | なし | | | |
| 課題に対するフィードバック | フィードバックとして、課題回収後、解答の解説を行います。 | | | |
| テキスト | ありません。 | | | |
| 参考書・教材 | 必要な資料は授業で配付します。 | | | |
| 内容 | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | |
| 1 | トランペット（扱い方・お手入れ方法） [課題(復習)]学んだ内容の復習(1h) | | | |
| 2 | トランペット（お手入れ・メンテナンス方法） [課題(復習)]学んだ内容の復習(1h) | | | |
| 3 | トランペット（状態確認方法） [課題(復習)]学んだ内容の復習(1h) | | | |
| 4 | フレンチホルン（扱い方・お手入れ方法） [課題(復習)]学んだ内容の復習(1h) | | | |
| 5 | フレンチホルン（お手入れ・メンテナンス方法） [課題(復習)]学んだ内容の復習(1h) | | | |
| 6 | フレンチホルン（状態確認方法） [課題(復習)]学んだ内容の復習(1h) | | | |
| 7 | トロンボーン（扱い方・お手入れ・メンテナンス方法） [課題(復習)]学んだ内容の復習(1h) | | | |
| 8 | トロンボーン（状態確認方法） [課題(復習)]学んだ内容の復習(1h) | | | |
| 9 | その他金管楽器（扱い方・お手入れ方法） [課題(復習)]学んだ内容の復習(1h) | | | |
| 10 | その他金管楽器（扱い方・お手入れ方法） [課題(復習)]学んだ内容の復習(1h) | | | |
| 11 | 使用楽器の状態診断（現在の楽器の状態を判断する） [課題(復習)]学んだ内容の復習(1h) | | | |
| 12 | 使用楽器の状態診断（現在の楽器の状態を判断する） [課題(復習)]学んだ内容の復習(1h) | | | |
| 13 | 使用楽器の状態診断（現在の楽器の状態を判断する） [課題(復習)]学んだ内容の復習(1h) | | | |
| 14 | 使用楽器の状態診断（現在の楽器の状態を判断する） [課題(復習)]学んだ内容の復習(1h) | | | |
| 15 | まとめ（授業の振り返り、課題提出、試験に向けての確認作業） [課題(復習)]試験への再確認(1h) | | | |
| 時間外での学修 | 専門楽器以外の楽器の知識を身に付けることは、指導の現場で必要なことです。授業外で復習し確実に学修を行いましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】 | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 専門外の楽器もありますが、今後必要になる知識です、積極的に授業に参画してください。 オフィスアワーは毎週水曜日授業終了後に行います。 | | | |

| | | | | | | |
|----------------|---|--|----------|------|----------|-------|
| 【3R6S221】楽器店実習 | | 音楽総合学科 | 2年前期 | | | |
| 1単位 | 必修 | | 演習 | 30時間 | | |
| 教員 | 松永 幸宏・森岡 佐和・鬼頭 加奈 | | | | | |
| 資格・制限等 | 特になし | | | | | |
| 実務家教員 | 森岡：オーケストラ25年、松永：楽器店修理販売業・19年、鬼頭：楽器店修理販売職・10年 | | | | | |
| 授業方法 | 心構え等を学修したあと、各楽器店へ出向き実際の楽器店全般業務を行います。 実習後は、レポート提出します。 | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 各楽器の構造や演奏技術に関する知識を持って、担当者のアドバイスを理解し、的確に業務遂行ができる。 | | | | |
| | 思考・判断・表現 | 楽器店の業務内容について十分理解をすることによって、楽器店就職意識をより明確にする。また、担当者からの依頼業務について、自身で考え解決ができる。 | | | | |
| | 関心・意欲・態度 | 担当者、マネージャー及びお客様とのコミュニケーション作りが円滑にできる。 | | | | |
| | 備考 | ・○・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。 | | | | |
| 授業内容 | 主に愛知県・岐阜県の楽器店（管楽器専門店、総合楽器店）にインターン実習で出向き日頃の楽器店業務を理解する。実際の楽器店業務全般に携わることで、楽器店従業員・リペア技術者としての姿勢を学び、就職した際にスムーズに業務への対応が出来るようになる。 | | | | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 評価方法 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 規律・マナー | 20 | - | - | - | 20 |
| | 積極性 | - | 10 | - | 5 | 15 |
| | 責任感 | - | - | - | 10 | 10 |
| | 総合所見 | 10 | 10 | - | 10 | 30 |
| | レポート | - | - | - | 25 | 25 |
| | 合 計(点) | 30 | 20 | - | 50 | 100 |
| 評価の特記事項 | 企業からの実習評価用紙の評価、及び実習を終了後レポートを提出することが単位の要件となります。 | | | | | |
| ICT活用 | 学生ポータル等で、ICTを活用した自主学習支援を行います。 | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの活用 | なし | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | フィードバックとして、課題やレポートにコメントして返します。 | | | | | |
| テキスト | ありません | | | | | |
| 参考書・教材 | 楽器店担当者から必要資料の配付はあります。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | ガイダンス、実習へ向けての準備・説明 実習までのスケジュール、準備物、連絡事項等を確認する。 【課題（準備）】楽器店実習の意味合いについても理解する。（1h） | | | | | |
| 2～14 | 5日間の楽器店実習 【課題（復習）】日々の実習日誌の記入（1h） | | | | | |
| 15 | 楽器店実習終了後 就職へ向けた各自の課題の分析 【課題（復習・他）】お礼状作成、実習レポート作成（2h） | | | | | |
| 時間外での学修 | 各楽器店のHPを観ることで、店舗の独自性や主力商品等を理解して、単なる実習経験ではなく、楽器店の様々な業務内容を理解してください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 初めて会う楽器店スタッフの方々や、環境の違いなどで緊張の連続になるかも知れませんが、いろんな事を吸収して下さい。挨拶は、元気にはっきりと。第一印象で決まってしまいます。 オフィスアワーは、随時B402。 | | | | | |

| 【3S9A103】音楽総合特講 | | 音楽総合学科 | | 2年前期 | | | |
|-----------------|--|------------------------------------|-------|----------|------|----------|-------|
| | | 2単位 | 選択 | 講義 | 30時間 | | |
| 教員 | 松永 幸宏・菅田 文子・横井 香織・森岡 佐和・鬼頭 加奈 | | | | | | |
| 資格・制限等 | 特になし | | | | | | |
| 実務家教員 | オムニバス形式で行う。各授業担当講師が実務家教員としてのキャリアあり | | | | | | |
| 授業方法 | 講義、演習形式 | | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 総合楽器店の業務内容や取り扱い楽器について理解している | | | | | |
| | 思考・判断・表現 | 取り扱い楽器について自分で説明できるようになる | | | | | |
| | 技能 | 総合楽器店におけるフィールドワークで自分の考えをまとめることができる | | | | | |
| | 関心・意欲・態度 | わからないことを積極的に調べ、共有することができる | | | | | |
| | 備考 | ・○・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。 | | | | | |
| 授業内容 | 総合楽器店勤務に必要な知識を学ぶ。教室運営や営業について、取り扱い楽器の知識など。フィールドワークとして楽器店に出向きレイアウトや店内販促についてまとめる。 | | | | | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 | 評価方法 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | レポート | | 20 | 10 | 10 | 10 | 50 |
| | 発表 | | 10 | 20 | 10 | 10 | 50 |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | 合 計(点) | | 30 | 30 | 20 | 20 | 100 |
| 評価の特記事項 | | | | | | | |
| ICT活用 | グーグルフォームを用いて質問できるようにして双方向の授業を行います | | | | | | |
| アクティ・ラーニングの活用 | クラス内の発表やディスカッションを取り入れます。 | | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | 授業内で回答します | | | | | | |
| テキスト | 必要資料は授業内で配布します。 | | | | | | |
| 参考書・教材 | | | | | | | |
| 内容 | | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | | |
| 1 | 授業説明・シラバス説明 課題：楽器店勤務を志望した理由についてレポートを書きまとめる(4H) | | | | | | |
| 2 | 総合楽器店業務について：営業職(営業販売・店頭販売)について、事務職、音楽教室運営について 課題：本日学んだことについて自分の感想をまとめる(4H) | | | | | | |
| 3 | 取扱楽器の知識(1)鍵盤楽器 ピアノ(UP・GP)電子ピアノ・電子オルガン 課題：本日学んだことをノートにまとめる(4H) | | | | | | |
| 4 | 取扱楽器の知識(2)管楽器 木管楽器・金管楽器 課題：本日学んだことをノートにまとめる(4H) | | | | | | |
| 5 | 取扱楽器の知識(3)管楽器 木管楽器・金管楽器 課題：本日学んだことをノートにまとめる(4H) | | | | | | |
| 6 | 取扱楽器の知識(4)弦楽器 バイオリン 課題：本日学んだことをノートにまとめる(4H) | | | | | | |
| 7 | 取扱楽器の知識(5)教育楽器、小物楽器 リコーダー、鍵盤ハーモニカ、オカリナ、ハーモニカ等 課題：本日学んだことをノートにまとめる(4H) | | | | | | |
| 8 | 取り扱い楽器の知識(6)LM系楽器 エレキベース・アコースティックギター(FG・CG)エレキベース・ドラム 課題：本日学んだことをノートにまとめる(4H) | | | | | | |
| 9 | 取扱楽器の知識(7)LM系楽器 エレキベース・アコースティックギター(FG・CG)エレキベース・ドラム 課題：本日学んだことをノートにまとめる(4H) | | | | | | |
| 10 | 取扱楽器の知識(8)楽譜・教材・著作権 課題：本日学んだことをノートにまとめる(4H) | | | | | | |
| 11 | フィールドワーク 課題：本日学んだことをノートにまとめる(4H) | | | | | | |
| 12 | のまとめ、発表 課題：本日学んだことをノートにまとめる(4H) | | | | | | |
| 13 | チラシ、ポップなど店内販促グッズ 手書き 課題：本日学んだことをノートにまとめる(4H) | | | | | | |
| 14 | チラシ、ポップなど店内販促グッズ PC 課題：本日学んだことをノートにまとめる(4H) | | | | | | |
| 15 | まとめ(総合楽器店就職に向けての心構え・知識等の確認) 課題：本日学んだことをノートにまとめる(4H) | | | | | | |
| 時間外での学修 | 学んだことをまとめ、定着させること 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30時間】 | | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 学生の意見を取り入れて双方向の授業にしていきたいと考えていますので、内容や進め方についての要望があつたら積極的に発言してください。オフィスアワーは、各アカデミック・アドバイザーの指示に従ってください。 | | | | | | |

| 【3S8A223】公務員・一般職試験対策 | | 音楽総合学科 | | 2年前期 | | |
|----------------------|---|---------------------------------------|----------|------|----------|-------|
| 教員 | 菅田 文子 | 2単位 | 選択 | 講義 | 30時間 | |
| 資格・制限等 | 特になし | | | | | |
| 実務家教員 | | | | | | |
| 授業方法 | 演習形式、質問は個別指導の際やメールにて受付、返答します。 | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 専門分野を学ぶ基礎となり、社会人に教養として求められる知識を身につける。 | | | | |
| | 思考・判断・表現 | 社会人に求められる資質としての思考力や判断力を身につける。 | | | | |
| | 技能 | 社会人に求められる資質の1つとして、知的操作や知的技法の基礎を身につける。 | | | | |
| | 関心・意欲・態度 | 自己の目標や状況に応じて、意欲を持って主体的に学修に取り組むことができる。 | | | | |
| 授業内容 | 一般職に就職を希望する学生に向けて学修支援を行う。 オンラインや問題集を活用し、自分に必要な分野の学びを深める。 一方的な授業ではなく、受講学生との話し合いにより主体的な学びを身につける。 | | | | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 評価方法 | | | | | |
| | 学修記録 | 20 | 10 | 10 | 10 | 50 |
| | 受講態度 | 10 | 10 | - | 30 | 50 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計(点) | 30 | 20 | 10 | 40 | 100 |
| 評価の特記事項 | | | | | | |
| ICT活用 | | | | | | |
| アケティブ・ラーニングの活用 | 学生が自分の苦手とする分野を選び、学びを深める。担当教員は学生の個別のニーズに応えて教材の準備や採点などを支援する。 | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | 毎回学生と前回の学びについて振り返りを行う。 | | | | | |
| テキスト | | | | | | |
| 参考書・教材 | 授業で指示します。その他必要な資料は配付します。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | オリエンテーション 学生との面談により学修方針を決定、必要な教材を図書館やオンラインで検索する [課題(復習)]自分の決めた分野の学習(1~2h) | | | | | |
| 2 | 学生との面談、それぞれの課題に取り組み、採点、評価を行う [課題(復習)]自分の決めた分野の学習(1~2h) | | | | | |
| 3 | 学生との面談、それぞれの課題に取り組み、採点、評価を行う [課題(復習)]自分の決めた分野の学習(1~2h) | | | | | |
| 4 | 学生との面談、それぞれの課題に取り組み、採点、評価を行う [課題(復習)]自分の決めた分野の学習(1~2h) | | | | | |
| 5 | 学生との面談、それぞれの課題に取り組み、採点、評価を行う [課題(復習)]自分の決めた分野の学習(1~2h) | | | | | |
| 6 | 学生との面談、それぞれの課題に取り組み、採点、評価を行う [課題(復習)]自分の決めた分野の学習(1~2h) | | | | | |
| 7 | 学生との面談、それぞれの課題に取り組み、採点、評価を行う [課題(復習)]自分の決めた分野の学習(1~2h) | | | | | |
| 8 | 学生との面談、それぞれの課題に取り組み、採点、評価を行う [課題(復習)]自分の決めた分野の学習(1~2h) | | | | | |
| 9 | 学生との面談、それぞれの課題に取り組み、採点、評価を行う [課題(復習)]自分の決めた分野の学習(1~2h) | | | | | |
| 10 | 学生との面談、それぞれの課題に取り組み、採点、評価を行う [課題(復習)]自分の決めた分野の学習(1~2h) | | | | | |
| 11 | 学生との面談、それぞれの課題に取り組み、採点、評価を行う [課題(復習)]自分の決めた分野の学習(1~2h) | | | | | |
| 12 | 学生との面談、それぞれの課題に取り組み、採点、評価を行う [課題(復習)]自分の決めた分野の学習(1~2h) | | | | | |
| 13 | 学生との面談、それぞれの課題に取り組み、採点、評価を行う [課題(復習)]自分の決めた分野の学習(1~2h) | | | | | |
| 14 | 学生との面談、それぞれの課題に取り組み、採点、評価を行う [課題(復習)]自分の決めた分野の学習(1~2h) | | | | | |
| 15 | 学生との面談、それぞれの課題に取り組み、採点、評価を行う これまでの学習の振り返りを行う [課題(復習)]自分の決めた分野の学習(1~2h) | | | | | |
| 時間外での学修 | 自分で決めた課題を授業時間外にすすめてください。 教科書以外の問題集なども使い、各自で学修を進めてください。 【この科目で求める望ましい時間外での総学修時間:30時間】 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 音楽総合学科の学生が一般職を目指す場合、学習面で身につけなければならない知識があると思われます。一人で勉強するよりも決まった時間に仲間と勉強するほうが頑張れると思います。一緒に頑張りましょう。オフィスアワーは毎週火曜13時~14時、B403です。 | | | | | |

| | | | | | | |
|----------------|--|---------------------------|----------|------|----------|-------|
| 【3S8S203】ヴォーカル | | 音楽総合学科 | 2年前期 | | | |
| 1単位 | 選択 | | 演習 | 30時間 | | |
| 教員 | 五島 由美子 | | | | | |
| 資格・制限等 | 特になし | | | | | |
| 実務家教員 | 声楽家49年、声楽指導46年、合唱指導32年 | | | | | |
| 授業方法 | 実技演習が中心ですが、曲に仕上げと共に小グループに分かれて、各自の問題点を指摘しながら演習成果を発表し、授業を展開していきます。 | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | ヴォーカル で学んだ技術が応用できる。 | | | | |
| | 思考・判断・表現 | 曲に応じた表現が出来る。 | | | | |
| | 技能 | ピアノに合わせて的確に自分の音楽を伝達できる。 | | | | |
| | 関心・意欲・態度 | 声楽の幅広いジャンルに進んで、研究・探索が出来る。 | | | | |
| 授業内容 | ヴォーカル で学修した声楽の基礎を応用し、音楽に必要な音楽表現を身に付けていく授業です。 | | | | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 評価方法 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 試験 | 20 | 20 | 10 | - | 50 |
| | 学修態度 | - | - | - | 10 | 10 |
| | レポート・発表 | 10 | 10 | 10 | 10 | 40 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計(点) | 30 | 30 | 20 | 20 | 100 |
| 評価の特記事項 | | | | | | |
| ICT活用 | | | | | | |
| アグティブ・ラーニングの活用 | グループワーク | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | 童謡・唱歌がもたらす意義を説明する。 | | | | | |
| テキスト | 『女子音楽 カンターレ』音楽之友社 『イタリア歌曲集(中声用)』音楽之友社 『コンコーネ50番(中声用)』全音楽譜出版社 手持ち可 | | | | | |
| 参考書・教材 | | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | イタリア歌曲 1 Sento nel core (課題) 子音と母音の練習をする。 1h | | | | コンコーネ30 | |
| 2 | イタリア歌曲 2 Sento nel core (課題) 腹筋の練習をする。 1h | | | | コンコーネ31 | |
| 3 | イタリア歌曲 3 Sento nel core まとめ (課題) 各自の課題を見つけ、次への挑戦につなげる。 1h | | | | コンコーネ32 | |
| 4 | イタリア歌曲 4 Gia il sole dal Gange (課題) イタリア語独自の発声の訓練をする。 1h | | | | コンコーネ33 | |
| 5 | イタリア歌曲 5 Gia il sole dal Gange (課題) テンポ感を感じ、リズムを正確にとる訓練をする。 1h | | | | コンコーネ34 | |
| 6 | イタリア歌曲 6 Gia il sole dal Gange (課題) 各自選曲し、個人レッスンをする為の練習。 1h | | | | コンコーネ35 | |
| 7 | イタリア歌曲 7 試演会 各自選曲した曲を披露する。 (課題) 各自問題点を指摘し、次回につなげる。 1h | | | | コンコーネ36 | |
| 8 | 日本歌曲 1 赤とんぼ 日本語の意味を味わう。 (課題) 歌詞を覚える。 1h | | | | コンコーネ37 | |
| 9 | 日本歌曲 2 赤とんぼ ピアノ合わせをする。 (課題) ピアノ合わせでの問題点を解決する。 1h | | | | コンコーネ38 | |
| 10 | 日本歌曲 3 からたちの花 オクターブの跳躍練習をする。 (課題) 母音唱、階名唱、ハミング等でオクターブ練習をする。 1h | | | | コンコーネ39 | |
| 11 | 日本歌曲 4 からたちの花 歌詞を味わう。 (課題) 歌詞を味わいながら、気持ちを込めて歌う。 1h | | | | コンコーネ40 | |
| 12 | 日本歌曲 5 おぼろ月夜 唱歌の由来を知る。 (課題) 歌詞を味わい、唱歌を知る限り挙げてみる。 1h | | | | コンコーネ41 | |
| 13 | 日本歌曲 6 おぼろ月夜 (課題) 景色、情景を思い浮かべながら歌う。 1h | | | | コンコーネ42 | |
| 14 | 日本歌曲 個人レッスン 各自選曲した1曲をレッスンする。 (課題) 試演会に向けて、各自選曲した曲を歌い込む。 1h | | | | コンコーネ43 | |
| 15 | 日本歌曲 試演会 各自選曲した1曲を試演する。 (課題) 試験に向けて、試演会での反省点を克服する。 1h | | | | コンコーネ44 | |
| 時間外での学修 | 日常から言葉の表現力を身に着けましょう。 総学修時間15時間 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 身体表現ですので体調には十分気を付けましょう。 オフィスアワーは授業後教室にて。 | | | | | |

| | | | | | | | | |
|----------------|--|----------------------------|----------|---------|----------|-------|--|--|
| 【3S8A204】ヴォーカル | | 音楽総合学科 | 2年後期 | | | | | |
| 1単位 | 選択 | | 演習 | 30時間 | | | | |
| 教員 | 五島 由美子 | | | | | | | |
| 資格・制限等 | 特になし | | | | | | | |
| 実務家教員 | 声楽家49年、声楽指導46年、合唱指導32年 | | | | | | | |
| 授業方法 | 実技演習が中心ですが、曲の仕上げと共に小グループに分かれて、各自の問題点を指摘しながら演習成果を発表し、授業を展開していきます。 | | | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | ヴォーカル ~ で学んだ技術が応用できる。 | | | | | | |
| | 思考・判断・表現 | 曲に応じた表現が出来る。 | | | | | | |
| | 技能 | ピアノに合わせて的確に自分の音楽を伝達できる。 | | | | | | |
| | 関心・意欲・態度 | 声楽の幅広いジャンルに進んで、研究・探索が出来る。 | | | | | | |
| 授業内容 | ヴォーカル ~ で学修した声楽の基礎を応用し、音楽に必要な音楽表現を身に付けていく授業です。 | | | | | | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 評価方法 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) | | |
| | 試験 | 20 | 20 | 10 | - | 50 | | |
| | 学修態度 | - | - | - | 10 | 10 | | |
| | レポート・発表 | 10 | 10 | 10 | 10 | 40 | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | 合 計(点) | 30 | 30 | 20 | 20 | 100 | | |
| 評価の特記事項 | | | | | | | | |
| ICT活用 | | | | | | | | |
| アグティブ・ラーニングの活用 | グループワーク | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | 童謡・唱歌がもたらす意義を説明する。 | | | | | | | |
| テキスト | 『女子音楽 カンターレ』音楽之友社 『イタリア歌曲集(中声用)』音楽之友社 『コンコーネ50番(中声用)』全音楽譜出版社 手持ち可 | | | | | | | |
| 参考書・教材 | | | | | | | | |
| 内容 | | | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | | | |
| 1 | 重唱1 (課題) 二部合唱1 パート毎に譜読みをする。 | Edelweiss | 1h | コンコーネ45 | | | | |
| 2 | 重唱2 (課題) 正確に音符を取る練習をする。 | Edelweiss | 1h | コンコーネ46 | | | | |
| 3 | 重唱3 (課題) 英語の発音練習をする。 | When you wish upon a star. | 1h | コンコーネ47 | | | | |
| 4 | 重唱4 (課題) 上下パートを聞き分ける練習をする。 | When you wish upon a star. | 1h | コンコーネ48 | | | | |
| 5 | 重唱5 (課題) ハミングで正しい響きを掴む。 | アニーローリー | 1h | コンコーネ49 | | | | |
| 6 | 重唱6 (課題) 3人で合わせをする。 | アニーローリー | ピアノ合わせ | コンコーネ50 | | | | |
| 7 | 重唱7 発表 | | | | | | | |
| 8 | 重唱8 (課題) 日本歌曲における重唱1 日本語特有の歌詞を味わう。 | 花 | 1h | | | | | |
| 9 | 重唱9 (課題) 日本歌曲における重唱2 歌詞による表現の違いを学ぶ。 | 花 | 1h | | | | | |
| 10 | 重唱10 (課題) 日本歌曲における重唱3 情景を味わう。 | 夏の思い出 | 1h | | | | | |
| 11 | 重唱11 (課題) 日本歌曲における重唱4 重唱の響きを感じる。 | 夏の思い出 | 1h | | | | | |
| 12 | 重唱12 (課題) 日本歌曲における重唱5 唱歌について学ぶ。 | おぼろ月夜 | 1h | | | | | |
| 13 | 重唱13 (課題) 日本歌曲における重唱6 ピアノパートと合わせる | おぼろ月夜 | 1h | | | | | |
| 14 | 重唱14 (課題) 日本歌曲における重唱7 他の声部を聞き分ける。 | 赤とんぼ | 三重唱 | | | | | |
| 15 | 重唱15 (課題) 仕上げ お互いにピアノを弾き合うことが出来るまで練習する。 | 各自曲を選択し、伴奏合わせをする。 | 1h-2h | | | | | |
| 時間外での学修 | 日常から言葉の表現力を身に着けましょう。 総学修時間15時間 | | | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 身体表現ですので体調には十分気を付けましょう。 オフィスアワーは授業後教室にて。 | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|------------------|--|--|----------|------|----------|-------|--|--|--|
| 【3S8S207】ソルフェージュ | | 音楽総合学科 | | 2年前期 | | | | | |
| 1単位 | | 選択 | | 演習 | | | | | |
| 教員 | 五島 由美子 | | | | | | | | |
| 資格・制限等 | 特になし | | | | | | | | |
| 実務家教員 | 声楽家49年、声楽指導46年、合唱指導32年 | | | | | | | | |
| 授業方法 | 実技・実践を中心として基礎的な音楽知識の習得をしていきます。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 音感、リズム感、和音感を身に着けフレーズを理解し音楽活動の基礎を養う。 | | | | | | | |
| | 思考・判断・表現 | 得られた知識を、実際の音楽の現場に対応できるものにする。 | | | | | | | |
| | 技能 | 音楽の専門家としての知識・理解の上に、音楽を通して人とコミュニケーション能力がある。 | | | | | | | |
| | 関心・意欲・態度 | 常に自己資質の向上を目指し、積極的に音楽を通して人とコミュニケーションをとろうとする意欲がある。 | | | | | | | |
| | 備考 | ・・の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。 | | | | | | | |
| 授業内容 | 1年で学んだソルフェージュを更に展開させ、重唱を取り入れます。 | | | | | | | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 評価方法 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) | | | |
| | 発表(グループ発表を含む) | 10 | 10 | 10 | - | 30 | | | |
| | 筆記試験 | 30 | 30 | - | - | 60 | | | |
| | 受講態度 | - | - | - | 10 | 10 | | | |
| | | | | | | | | | |
| | 合 計(点) | 40 | 40 | 10 | 10 | 100 | | | |
| 評価の特記事項 | | | | | | | | | |
| ICT活用 | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの活用 | グループワーク | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | フィードバックとして項目別確認テストの後、各人に個別に指示をします。 | | | | | | | | |
| テキスト | 『コールユーブンゲン』大阪開成社 『コンコーネ50番(中声用)』全音楽譜出版社 『新曲視唱(1)』エー・ティー・エヌ 手持ち可 | | | | | | | | |
| 参考書・教材 | | | | | | | | | |
| 内容 | | | | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | | | | |
| 1 | 授業ガイドソルフェージュを理解して臨む。さらに高度な技術を学ぶ。コンコーネ7 コールユーブンゲンNo.46 新曲視唱第3章No.21~No.30 聴音 (課題) コールユーブンゲンNo.48の予習とNo.46の復習。1h 新曲視唱復習 聴音の見直し | | | | | | | | |
| 2 | コールユーブンゲンNo.48 新曲視唱第3章No.31~No.40 聴音 (課題) コールユーブンゲンNo.49の予習とNo.48の復習。1h 新曲視唱復習 聴音の見直し | | | | | | | | |
| 3 | コールユーブンゲンNo.49 新曲視唱第3章No.61~No.70 聴音 (課題) コールユーブンゲンNo.50の予習とNo.49の復習。1h 新曲視唱復習 聴音の見直し | | | | | | | | |
| 4 | コールユーブンゲンNo.50 新曲視唱第3章No.71~No.80 聴音 (課題) コールユーブンゲンNo.51の予習とNo.50の復習。1h 新曲視唱復習 聴音の見直し | | | | | | | | |
| 5 | コールユーブンゲンNo.51 新曲視唱第3章No.81~No.90 聴音 (課題) コールユーブンゲンNo.52の予習とNo.51の復習。1h 到達度確認テスト コンコーネ11 新曲視唱復習 聴音の見直し | | | | | | | | |
| 6 | コールユーブンゲンNo.52 新曲視唱第4章No.1~No.10 聴音 (課題) コールユーブンゲンNo.53の予習とNo.52の復習。1h 新曲視唱復習 聴音の見直し | | | | | | | | |
| 7 | コールユーブンゲンNo.53 新曲視唱第4章No.11~No.20 聴音 (課題) コールユーブンゲンNo.54の予習とNo.53の復習。1h 新曲視唱復習 聴音の見直し | | | | | | | | |
| 8 | コールユーブンゲンNo.54 新曲視唱第4章No.21~No.30 聴音 (課題) コールユーブンゲンNo.55の予習とNo.54の復習。1h 新曲視唱復習 聴音の見直し | | | | | | | | |
| 9 | コールユーブンゲンNo.55 新曲視唱第4章No.31~No.40 聴音 (課題) コールユーブンゲンNo.56の予習とNo.55の復習。1h 新曲視唱復習 聴音の見直し | | | | | | | | |
| 10 | コールユーブンゲンNo.56 新曲視唱第4章No.41~No.50 聴音 (課題) コールユーブンゲンNo.57の予習とNo.56の復習。1h 到達度確認テスト コンコーネ16 新曲視唱復習 聴音の見直し | | | | | | | | |
| 11 | コールユーブンゲンNo.57 新曲視唱第4章No.51~No.60 聴音 (課題) コールユーブンゲンNo.58の予習とNo.57の復習。1h 新曲視唱復習 聴音の見直し | | | | | | | | |
| 12 | コールユーブンゲンNo.58 新曲視唱第4章No.61~No.70 聴音 (課題) コールユーブンゲンNo.59の予習とNo.58の復習。1h 新曲視唱復習 聴音の見直し | | | | | | | | |
| 13 | コールユーブンゲンNo.59 新曲視唱第4章No.111~No.120 聴音 (課題) コールユーブンゲンNo.59の復習。1h 新曲視唱復習 聴音の見直し | | | | | | | | |
| 14 | コールユーブンゲンまとめ 新曲視唱第4章No.121~No.130 聴音 (課題) コールユーブンゲン 2年前期の課題復習。1h 新曲視唱復習 聴音の見直し | | | | | | | | |
| 15 | コールユーブンゲンまとめ 新曲視唱第4章No.131~No.140 聴音 (課題) コールユーブンゲン 2年前期の課題復習。1h コンコーネ21 | | | | | | | | |
| 時間外での学修 | 学修した課題を確実に理解すべく、毎日読譜練習をすること 総学修時間15時間 | | | | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 演奏をするうえで、必要で大切な課目です。日々の練習を怠らないように。 オフィスアワーは授業後教室にて。 | | | | | | | | |

| 【3S8A208】ソルフェージュ | | 音楽総合学科 | | 2年後期 | |
|------------------|---|---------------------------------------|----------|------|----------|
| 教員 | 五島 由美子 | 1単位 | 選択 | 演習 | 30時間 |
| 資格・制限等 | 特になし | | | | |
| 実務家教員 | 声楽家49年、声楽指導46年、合唱指導32年 | | | | |
| 授業方法 | 実技・実践を中心として基礎的な音楽知識の習得・応用をしていきます。 | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 個性を理解し、楽譜の基礎的な理解が出来る。 | | | |
| | 思考・判断・表現 | 音楽を楽譜からの確にとらえ、音楽的に表現する能力を身に着けることが出来る。 | | | |
| | 技能 | 音感・リズム感・和音感を身に着けることが出来る。 | | | |
| | 関心・意欲・態度 | 常に自己資質の向上を目指し、自身の音楽活動に活かす努力が出来る。 | | | |
| | 備考 | ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。 | | | |
| 授業内容 | 2年次前期で学んだソルフェージュを更に展開させ、重唱を取り入れます。 | | | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 |
| | 評価方法 | | | | 合計(点) |
| | 実技試験 | 10 | 10 | 10 | - 30 |
| | 筆記試験 | 30 | 30 | - | - 60 |
| | 受講態度 | - | - | - | 10 10 |
| | 合 計(点) | 40 | 40 | 10 | 10 100 |
| 評価の特記事項 | | | | | |
| ICT活用 | | | | | |
| アクティブラーニングの活用 | グループワーク | | | | |
| 課題に対するフィードバック | フィードバックとして項目別確認テストの後、各人に個別に指示をします。 | | | | |
| テキスト | 『コールユーブンゲン』大阪開成社 『コンコーネ50番(中声用)』全音楽譜出版社 『新曲視唱(1)』エー・ティー・エヌ 手持ち可 | | | | |
| 参考書・教材 | | | | | |
| 内容 | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | |
| 1 | コールユーブンゲンNo.60・No.61 新曲視唱第4章No.141～No.150 聴音 (課題) コールユーブンゲンNo.62・No.63の予習とNo.60・No.61の復習 1h | | | | |
| 2 | コールユーブンゲンNo.62・No.63 新曲視唱第4章No.151～No.160 聴音 (課題) コールユーブンゲンNo.64・No.65の予習とNo.62・No.63の復習 1h | | | | |
| 3 | コールユーブンゲンNo.64・No.65 新曲視唱第4章No.161～No.170 聴音 (課題) コールユーブンゲンNo.66・No.67の予習とNo.64・No.65の復習 1h | | | | |
| 4 | コールユーブンゲンNo.66・No.67 新曲視唱第4章No.171～No.180 聴音 (課題) コールユーブンゲンNo.68・No.69の予習とNo.66・No.67の復習 1h | | | | |
| 5 | コールユーブンゲンNo.68・No.69 新曲視唱第5章No.1～No.10 到達度確認テスト 聴音 (課題) コールユーブンゲンNo.70・No.71の予習とNo.68・No.69の復習 1h | | | | |
| 6 | コールユーブンゲンNo.70・No.71 新曲視唱第5章No.11～No.20 聴音 (課題) コールユーブンゲンNo.72・No.73の予習とNo.70・No.71の復習 1h | | | | |
| 7 | コールユーブンゲンNo.72・No.73 新曲視唱第5章No.21～No.30 聴音 (課題) コールユーブンゲンNo.74・No.75の予習とNo.72・No.73の復習 1h | | | | |
| 8 | コールユーブンゲンNo.74・No.75 新曲視唱第5章No.31～No.40 聴音 (課題) コールユーブンゲンNo.76・No.77の予習とNo.74・No.75の復習 1h | | | | |
| 9 | コールユーブンゲンNo.76・No.77 新曲視唱第5章No.41～No.50 聴音 (課題) コールユーブンゲンNo.78・No.79の予習とNo.76・No.77の復習 1h | | | | |
| 10 | コールユーブンゲンNo.78・No.79 新曲視唱第5章No.61～No.70 到達度確認テスト 聴音 (課題) コールユーブンゲンNo.80・No.81の予習とNo.78・No.79の復習 1h | | | | |
| 11 | コールユーブンゲンNo.80・No.81 新曲視唱第5章No.71～No.80 聴音 (課題) コールユーブンゲンNo.82・No.83の予習とNo.80・No.81の復習 1h | | | | |
| 12 | コールユーブンゲンNo.82・No.83 新曲視唱総復習 聴音 (課題) コールユーブンゲンNo.84・No.85の予習とNo.82・No.83の復習 1h | | | | |
| 13 | コールユーブンゲンNo.84・No.85 新曲視唱総復習 聴音 (課題) コールユーブンゲンNo.86・No.87の予習とNo.84・No.85の復習 1h | | | | |
| 14 | コールユーブンゲンNo.86・No.87 新曲視唱総復習 聴音 (課題) コールユーブンゲン 2年間の復習 1h | | | | |
| 15 | コールユーブンゲンNo.86・No.87 新曲視唱総復習 聴音 到達度確認テスト (課題) コールユーブンゲン 2年間の復習 1h | | | | |
| 時間外での学修 | 毎回の授業で学んだ課題の復習、予習をしっかり行うことがソルフェージュ上達を確実なものにします。 総学修時間15時間 | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 短大での学修の集大成です。日々の努力が大切です。 オフィスアワーは授業後教室にて。 | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|--|----------------------------------|----------|------|----------|
| 【3S8S213】ポピュラー音楽史 | | 音楽総合学科 | | 2年後期 | |
| | | 2単位 | 選択 | 講義 | 30時間 |
| 教員 | 菅田 文子 | | | | |
| 資格・制限等 | 特になし | | | | |
| 実務家教員 | 音楽療法関連施設職員・5年、作編曲経験・25年 | | | | |
| 授業方法 | 演習を交えた講義形式 | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | ポピュラー音楽の歴史と各国の関連について知識を得る。 | | | |
| | 思考・判断・表現 | 各国のポピュラー音楽の歴史と特徴について述べることができる。 | | | |
| | 技能 | 楽曲分析ができるようになる。 | | | |
| | 関心・意欲・態度 | テーマに沿った楽曲を探し、分析したうえで発表することができる。 | | | |
| | 備考 | ・・・の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。 | | | |
| 授業内容 | ポピュラー音楽の成り立ち、欧米から日本への伝播を経たポピュラー音楽の現状を学ぶ。この授業では英国、米国、韓国、日本のポピュラー音楽についての歴史と関連について知識を得る。楽曲分析の方法を学び、様々な音楽スタイルについて知る。 | | | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 評価方法 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 |
| | 課題提出 | 20 | 20 | 20 | - |
| | 受講態度 | - | - | - | 20 |
| | 発表 | - | - | - | 20 |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | 合 計(点) | 20 | 20 | 20 | 40 |
| 評価の特記事項 | 授業の1/3欠席した者、課題の提出、発表がないものは期末試験の受験資格がありません。 | | | | |
| ICT活用 | 資料の検索にインターネットを活用します。課題をGoogle Formで提出してもらいます。 | | | | |
| アグティブ・ラーニングの活用 | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | 授業内でコメントします。 | | | | |
| テキスト | 授業内でプリントを配布します。 | | | | |
| 参考書・教材 | | | | | |
| 内容 | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | |
| 1 | ジャズの歴史と他ジャンルに与えた影響について [課題(復習)]授業で紹介したジャズの曲を1曲選び、作曲者、演奏者についてまとめる(4h) | | | | |
| 2 | ロックの誕生: 楽器の進化、エルヴィス・プレスリーとビートルズ [課題(復習)]ビートルズの曲を1曲選び、製作年、作曲者、曲のエピソードについてまとめる(4h) | | | | |
| 3 | 英国ロックの歴史: ロックギタリスト [課題(復習)]英国ロックミュージシャンの曲を1曲選び、作曲者、演奏者についてまとめる(4h) | | | | |
| 4 | フォーク・ロック、サイケデリック・ロック、カントリー・ロック、ソフト・ロック [課題(復習)]今回紹介したジャンルの中から1曲選び、作曲者、演奏者についてまとめる(4h) | | | | |
| 5 | ブルースとR&B、ソウルミュージック [課題(復習)]今回紹介したジャンルの中から1曲選び、作曲者、演奏者についてまとめる(4h) | | | | |
| 6 | 1980年代以降のポピュラー音楽 [課題(復習)]今回紹介したジャンルの中から1曲選び、作曲者、演奏者についてまとめる(4h) | | | | |
| 7 | 1990年代以降のポピュラー音楽 [課題(復習)]今回紹介したジャンルの中から1曲選び、作曲者、演奏者についてまとめる(4h) | | | | |
| 8 | 日本のポピュラー音楽 戦後から1980年代 [課題(復習)]今回紹介したジャンルの中から1曲選び、作曲者、演奏者についてまとめる(4h) | | | | |
| 9 | 日本のポピュラー音楽 1990年代から現代 [課題(復習)]今回紹介したジャンルの中から1曲選び、作曲者、演奏者についてまとめる(4h) | | | | |
| 10 | K-POP 歴史 [課題(復習)]今回紹介したジャンルの中から1曲選び、作曲者、演奏者についてまとめる(4h) | | | | |
| 11 | K-POP 現在 [課題(復習)]今回紹介したジャンルの中から1曲選び、作曲者、演奏者についてまとめる(4h) | | | | |
| 12 | 楽曲分析演習 コード進行 [課題(復習)]自分が分析する曲を選び、一番の終わりまでのCメロ譜を作成する(4h) | | | | |
| 13 | 楽曲分析演習 音楽スタイル [課題(復習)]自分が選んだ曲のスタイルについて類似の曲など傾向をまとめる。作曲者が影響を受けた他のミュージシャンについて調べる。(4h) | | | | |
| 14 | 楽曲分析演習 和声の分析 [課題(復習)]自分が選んだ曲の和声分析を行い、どこがユニークなのか、典型的な進行なのかを整理しまとめる(4h) | | | | |
| 15 | まとめ、発表 [課題(復習)]レポート課題を仕上げる(4h) | | | | |
| 時間外での学修 | 各自が授業時間外で資料を検索、まとめるなどの作業が必要です。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間: 60時間】 | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 自分が好きな曲以外も系統立てて聴くことで自分の音楽の幅が広がります。積極的に聴取してください。 オフィスアワーは研究室(B403: B号館4階)で毎週火曜日の13:00~14:30です。 | | | | |

| 【3S3S205】鍵盤楽器 | | 音楽総合学科 | 2年前期 | | | |
|----------------|---|--|----------|------|----------|-------|
| 1単位 | | 選択 | 演習 | 30時間 | | |
| 教員 | 野口 歩 | | | | | |
| 資格・制限等 | 特になし | | | | | |
| 実務家教員 | | | | | | |
| 授業方法 | 一人ひとりの進度に合った選曲をし、毎回課題に対するフィードバックを取り入れた個人レッスンを行います。 レッスン時間までの待ち時間は、練習室で自主練習をしていてください。 質問等は授業時やメール等で受け付けます。 | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | ピアノの基本的な演奏技術や音楽知識を理解し、人に音楽を伝えるための知識を習得できる。 | | | | |
| | 思考・判断・表現 | 演奏する曲に対する思考力と表現力を自ら考え培うことができる。 | | | | |
| | 技能 | コミュニケーションを取りながら専門的な技能の向上に努めることができる。 | | | | |
| | 関心・意欲・態度 | 各専門分野に役立てていけるよう、意欲的に取り組むことができる。 | | | | |
| 授業内容 | 1年次で基礎的な演奏技術や知識を習得したことをもとに更に発展させていきます。 演奏を通し自己の内面や感性を磨き表現力豊かな音楽を作り出せるように。そして、各専門分野に結び付け役立てていけるようにしていきます。 | | | | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 評価方法 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 実技試験 | - | 30 | 30 | - | 60 |
| | 受講態度 | 20 | - | - | 20 | 40 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計(点) | 20 | 30 | 30 | 20 | 100 |
| 評価の特記事項 | 受講態度は課題の取り組み状況を含みます。 | | | | | |
| I C T 活用 | ICTを活用した自主学習支援 (Gmailなど) | | | | | |
| アケティブ・ラーニングの活用 | 曲の選択・課題の取り組み等は、学生一人ひとりの判断に委ねます。 | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | 課題の学修成果に対するコメントは、レッスン中に随時伝えます。 | | | | | |
| テキスト | | | | | | |
| 参考書・教材 | 個々に合わせて選択します。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | | | | | 授業内容・目標 | |
| 1 | ガイダンス・一人一人、次回からの練習曲を選曲 [課題(準備・予習)]次回からの練習曲を譜読みする(1h) | | | | | |
| 2 | 練習曲(1)テクニック練習 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、テクニックを付ける(1h) | | | | | |
| 3 | 練習曲(2)部分練習 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、片手奏や部分練習を十分に行う(1h) | | | | | |
| 4 | 練習曲(3)音楽表現 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、音の強弱やフレーズを考えて演奏する(1h) | | | | | |
| 5 | 練習曲(4)曲想 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、曲のイメージを自ら創造する(1h) | | | | | |
| 6 | 練習曲(5)弾き込み [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、曲の流れを考えて反復練習する(1h) | | | | | |
| 7 | 練習曲(6)仕上げ [課題(復習)]レッスンの復習をし、曲をまとめる(1h) | | | | | |
| 8 | 練習曲(7)試験曲の選曲・譜読み [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、譜読みをする(1h) | | | | | |
| 9 | 練習曲(8)指使い・片手奏 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、片手奏や部分練習を行う(1h) | | | | | |
| 10 | 練習曲(9)フレージング・テンポ [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、曲にふさわしいフレージングやテンポを付ける(1h) | | | | | |
| 11 | 練習曲(10)曲想 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、音楽の流れや響きを考える(1h) | | | | | |
| 12 | 練習曲(11)暗譜 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、暗譜を丁寧にする(1h) | | | | | |
| 13 | 練習曲(12)弾き込み [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、曲の流れをとらえて止まらず演奏できるように弾き込む(1h) | | | | | |
| 14 | 練習曲(13)仕上げ [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、仕上げる(1h) | | | | | |
| 15 | 練習曲(14)学習成果のまとめ [課題(復習・準備)]試験に向けてさらに曲の仕上げをする・休暇中の課題曲決め(1h) | | | | | |
| 時間外での学修 | レッスンで習得したことを改善できるように日々の練習の積み重ねが大切であるとともに、様々な音楽に興味を持ち知識を得られるように心がけましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | ピアノの演奏を通し各々の専門分野に結び付け役立てていけるよう目標を持って取り組みましょう。 オフィスアワーは授業前後の休み時間に教室で実施。 | | | | | |

| 【3S3A206】鍵盤楽器 | | 音楽総合学科 | 2年後期 | | | |
|----------------|---|---|----------|------|----------|-------|
| 1単位 | | 選択 | 演習 | 30時間 | | |
| 教員 | 野口 歩 | | | | | |
| 資格・制限等 | 特になし | | | | | |
| 実務家教員 | | | | | | |
| 授業方法 | 一人ひとりの進度に合った選曲をし、毎回課題に対するフィードバックを取り入れた個人レッスンを行います。 レッスン時間までの待ち時間は、練習室で自主練習をしていてください。 質問等は授業時やメール等で受け付けます。 | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | ピアノの基礎的な演奏技術や音楽知識を理解し、人に音楽を伝えるための知識を習得することができる。 | | | | |
| | 思考・判断・表現 | 演奏する曲に対する思考力と表現力を自ら考え培うことができる。 | | | | |
| | 技能 | コミュニケーションを取りながら専門的な技能の向上に努めることができる。 | | | | |
| | 関心・意欲・態度 | 各専門分野に役立てていけるよう、意欲的に取り組むことができる。 | | | | |
| 授業内容 | 1年次で基礎的な演奏技術や知識を習得したことをもとに更に発展させていきます。 演奏を通し自己の内面や感性を磨き表現力豊かな音楽を作り出せるように。そして、各専門分野に結び付け役立てていけるようにしていきます。 | | | | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 評価方法 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 実技試験 | - | 30 | 30 | - | 60 |
| | 受講態度 | 20 | - | - | 20 | 40 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計(点) | 20 | 30 | 30 | 20 | 100 |
| 評価の特記事項 | 受講態度は課題の取り組み状況を含みます。 | | | | | |
| I C T 活用 | ICTを活用した自主学習支援 (Gmailなど) | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの活用 | 曲の選択・課題の取り組みは、学生一人一人の判断に委ねます。 | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | 課題の学修成果に対するコメントは、レッスン中に随時伝えます。 | | | | | |
| テキスト | | | | | | |
| 参考書・教材 | 個々に合わせて選択します。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | 練習曲(1)休暇中の課題発表・見直し [課題(復習・準備)]レッスンの復習をし、休暇中の課題の見直しをし、次回からの練習曲を選曲(1h) | | | | | |
| 2 | 練習曲(2)譜読み [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、選曲した練習曲の譜読みをする(1h) | | | | | |
| 3 | 練習曲(3)部分練習 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、片手奏や部分練習を十分に行う(1h) | | | | | |
| 4 | 練習曲(4)フレージング [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、音の強弱やフレーズを考えて演奏する(1h) | | | | | |
| 5 | 練習曲(5)曲想 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、楽譜の意味を理解し曲想をつける(1h) | | | | | |
| 6 | 練習曲(6)テンポ [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、楽曲にふさわしいテンポにする(1h) | | | | | |
| 7 | 練習曲(7)音色づくり [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、楽曲にふさわしい音色をイメージして創り出す(1h) | | | | | |
| 8 | 練習曲(8)試験曲の部分練習 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、演奏するにあたり困難なところを重点的に部分練習する(1h) | | | | | |
| 9 | 練習曲(9)フレージング・バランス [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、フレーズの確認と左右の音のバランスを考える(1h) | | | | | |
| 10 | 練習曲(10)音楽表現 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、豊かな音楽表現をつける(1h) | | | | | |
| 11 | 練習曲(11)暗譜 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、暗譜を丁寧にする(1h) | | | | | |
| 12 | 練習曲(12)確実な暗譜 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、楽譜の再確認と暗譜を確実にする(1h) | | | | | |
| 13 | 練習曲(13)弾き込み [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、曲の流れを止めずに演奏できるようにする(1h) | | | | | |
| 14 | 練習曲(14)仕上げ [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、何度も繰り返し練習する(1h) | | | | | |
| 15 | 練習曲(15)まとめ [課題(復習)]これまでに習得した演奏技術や音楽表現を活かした演奏ができるようにする(1h) | | | | | |
| 時間外での学修 | レッスンで習得したことを改善できるように日々の練習の積み重ねが大切であるとともに、様々な音楽に興味を持ち知識を得られるように心がけましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | ピアノの演奏を通し各々の専門分野に結び付け役立てていけるよう目標を持って取り組みましょう。 オフィスアワーは授業前後の休み時間に教室で実施。 | | | | | |

| 【3S8S216】作譜 | | 音楽総合学科 | 2年前期 | | | |
|----------------|---|--|----------|----|----------|-------|
| 教員 | 小林 聰 | 1単位 | 選択 | 演習 | | |
| 資格・制限等 | 特になし | | | | | |
| 実務家教員 | 大学非常勤講師・20年、演奏家・37年、作編曲家・24年 | | | | | |
| 授業方法 | 講義とPCによる作業の実施とアドバイスを行います。 楽譜作成ソフトFinale2014を使用してコンピュータによる楽譜の作成を実習します。Finale2014に付属のチュートリアルに沿って簡単なスコアの浄書を行います。ピアティーチングを行い相互の理解度を高めます。 | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | Finaleの機能と操作方法を理解する。 | | | | |
| | 思考・判断・表現 | 楽譜に合った機能を正しく選択できる判断力を養う。 | | | | |
| | 技能 | Finaleの機能を覚え、適切な操作で楽譜を作成できること。 | | | | |
| | 関心・意欲・態度 | 楽譜の浄書から発展し、オリジナルな作品を生み出す潜在性を知る。 | | | | |
| 授業内容 | Finale2014のチュートリアルを一通り行い機能と操作方法を覚えていきます。 | | | | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 評価方法 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 作品提出 | 50 | 10 | 20 | - | 80 |
| | 受講態度 | - | - | - | 20 | 20 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計(点) | 50 | 10 | 20 | 20 | 100 |
| 評価の特記事項 | 理解の達成度と問題解決への意欲を重視します。 | | | | | |
| I C T 活用 | 操作方法等への質疑応答。 | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの活用 | PCを使用した実際の作業、ピアティーチングによる習熟度の相互確認。 | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | 操作方法の疑問に応え目的への道筋を明瞭に示します。 | | | | | |
| テキスト | | | | | | |
| 参考書・教材 | | | | | | |
| 内容 | | 授業内容・目標 | | | | |
| 実施回 | 1 | Finaleの設定、起動[課題(復習)]学んだことの復習(1h) | | | | |
| | 2 | 新規ファイル作成、ステップ入力(1)：音符・休符入力の基本手順[課題(復習)]学んだことの復習 移調の練習(1h) | | | | |
| | 3 | ステップ入力(2)：臨時記号の入力、和音と2声部、コピー＆ペースト、連符[課題(復習)]学んだことの復習(1h) | | | | |
| | 4 | プレイバック、発送記号の入力、アーティキュレーションの入力、スラーの入力[課題(復習)]学んだことの復習(1h) | | | | |
| | 5 | 高速ステップ入力(1)：音符の入力、タイ、和音の入力、休符、臨時記号[課題(復習)]学んだことの復習(1h) | | | | |
| | 6 | 高速ステップ入力(2)：音価の変更、音程の変更、編集枠を間違えたら、連符[課題(復習)]学んだことの復習(1h) | | | | |
| | 7 | サックスカルテットの楽譜を作ってみよう。1：複数の小説を選択するには、画面外にコピーをするには。小節の追加、削除挿入。調の変更。拍子の変更、弱起の設定。[課題(復習)]学んだことの復習(1h) | | | | |
| | 8 | サックスカルテットの楽譜を作ってみよう。2：小節線の種類をかえるには。小節の幅を変えるには。終始線を普通の小節線にするには。反復記号。[課題(復習)]学んだことの復習(1h) | | | | |
| | 9 | 金管五重奏の楽譜を作ってみよう。1：発送記号の作成、アーティキュレーションの一括割り付け、スラーの微調整、[課題(復習)]学んだことの復習(1h) | | | | |
| | 10 | 金管五重奏の楽譜を作ってみよう。2：レイアウト、ページのサイズ[課題(復習)]学んだことの復習(1h) | | | | |
| | 11 | ドラムの楽譜を作ってみよう。1：ハイハット、スネアドラム、バスドラム[課題(復習)]学んだことの復習(1h) | | | | |
| | 12 | ドラムの楽譜を作ってみよう。2：仕上げ[課題(復習)]学んだことの復習(1h) | | | | |
| | 13 | 自由課題1：これまで学んだことのまとめ。[課題(復習)]学んだことの復習(1h) | | | | |
| | 14 | 自由課題2：これまで学んだことのまとめ。[課題(復習)]学んだことの復習(1h) | | | | |
| | 15 | 自由課題3：これまで学んだことのまとめ。パート譜の作成[課題(復習)]学んだことの復習(1h) | | | | |
| 時間外での学修 | 授業では教室に備え付けのPCを使用します。時間外には配布したチュートリアルマニュアルを見ながらイメージトレーニングをしましょう。【この科目で求める望ましい授業外で総学修時間：15時間】 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | Finaleは世界中で最も使われている楽譜作成ソフトウェアです。あらゆるジャンルの音楽の楽譜を作成することができます。スコアを作る基本を学びながら作譜を身近なものと感じることができます。データ保存のためのUSBメモリを各自持参してください。オフィスアワーは授業前後の休み時間に教室で実施します。 | | | | | |

| 【3T7F202】スポーツ・レクリエーション | | 音楽総合学科 | | 2年前期 | | | |
|------------------------|--|---|-------|----------|------|----------|-------|
| 教員 | 松岡 邦明 | 1単位 | 選択 | 演習 | 30時間 | | |
| 資格・制限等 | 特になし | | | | | | |
| 実務家教員 | NPO法人岐阜県レクリエーション協会事務局次長6年（2014年～2020年）、（一社）岐阜県レクリエーション協会ミナレク運動担当次長4年（2021年～）、岐南町レクリエーション協会理事長6年（2018年～）幼稚園教諭7年 | | | | | | |
| 授業方法 | 内容に合わせて、教室を使った講義形式と、体育館を利用したレクリエーション実技・演習を行います。講義・実技共に、指導者としての役割を学ぶために「ロールプレイ」「グループ討議」「発表」の形式を交えます。授業内容によっては、ICTを活用した課題や自己評価提出等フィードバックを行っていきます。 | | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | レクリエーション活動の理論に裏付けられた支援技術を理解する | | | | | |
| | 思考・判断・表現 | 場面や個々の特性に応じたレクリエーション活動を創作できる。 | | | | | |
| | 技能 | 支援技術の方法を効果的に利用し、レクリエーション活動が提供できる。 | | | | | |
| | 関心・意欲・態度 | レクリエーション活動を通じ、様々な場面で誰とでも笑顔でふれあうコミュニケーションを意識できる。 | | | | | |
| | 備考 | ・・・の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。 | | | | | |
| 授業内容 | 岐阜県と岐阜県レクリエーション協会が推進している県民皆が1つはレクリエーションを行い、体・心・頭の健康を増進させ、健康長寿につなげる「ミナレク運動」について学ぶ。レクリエーション活動を通じ、対象者が自主的・主体的に行える心の仕組み、技術の支援方法を理解し、アプローチできる力を身につけていきます。 | | | | | | |
| 観点別評価 | 評価方法 | 評価の観点 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 小レポート | - | 20 | - | - | - | 20 |
| | 発表 | - | - | 20 | - | - | 20 |
| | 自己評価 | 10 | - | - | - | - | 10 |
| | 受講態度 | - | - | - | 50 | 50 | 50 |
| | | | | | | | |
| | 合 計(点) | 10 | 20 | 20 | 50 | 50 | 100 |
| 評価の特記事項 | | | | | | | |
| ICT活用 | ICTを活用した自主学習支援（ポータルサイトなど） 状況に応じてICTを活用した双方型授業 | | | | | | |
| アカティブ・ラーニングの活用 | グループワーク等を通して特定の課題に対する意見交換を行い課題を解決していく。 | | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | 授業時間外課題は、次回以降の授業で紹介しコメントする。 | | | | | | |
| テキスト | 『『楽しさをとおした心の元気づくり/レクリエーション支援の理論と方法』』（公財）日本レクリエーション協会 受講者は購入済み | | | | | | |
| 参考書・教材 | | | | | | | |
| 内容 | | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | | |
| 1 | オリエンテーション 「レクリエーション・インストラクター」資格取得理解 ・生涯にわたる運動習慣の重要性がわかり、「レクリエーション概論」を振り返る。具体的なレクリエーション活動について、「ぎふ清流レクリエーションフェスティバル」の概要を理解し、レクリエーション活動の実際について学ぶ。 「ミナレク運動」についても理解する。 [課題（復習）] (1h) 「レクリエーションフェスティバル」の概要をまとめる。 | | | | | | |
| 2 | 自主的・主体的に楽しむ力を高める展開方法（実技） アイスブレーキングゲームを中心の展開を実施。レクリエーションを展開する中で、心の解きほぐしがでていくのを実感できる。 [課題（復習）] (1h) 心の解きほぐしがどんなところで感じられたかを既習の理論と照らし合わせて考える | | | | | | |
| 3 | 信頼関係づくりの理論 ・レクリエーション支援におけるコミュニケーションの方法や信頼関係づくりの方法を学ぶ。 [課題（復習）] (1h) レクリエーション支援におけるホスピタリティをどのように表していくと良いかまとめる。 | | | | | | |
| 4 | 良好な集団作りの理論 ・レクリエーションを通じた良好な集団作りを目指し、集団内のコミュニケーションが段階的にすすめられることを理解する。 [課題（予習）] (1h) これまでの生活の中で「居心地の良い集団」「居心地のよかつたのはなぜ？」また、「居心地のよくない集団」「居心地のよくなかったのはなぜ？」を振り返ってみる。 | | | | | | |
| 5 | 自主的・主体的に楽しむ力を育む（理論） 自主的・主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開法における支援技術やCSSプロセスの活用方法を学ぶ。 [課題（復習）] (1h) CSSプロセスの場面を意識した保育実習活動を実践する。 | | | | | | |
| 6 | 自主的主体的に楽しむ力を高める展開方法（実技） 「モルック」を通じて、目標設定と言葉や表情の活用方法の一体的な実践方法を学ぶ。 [課題（復習）] (1h) 「モルック」の指導展開について既存学習で振り返る。 | | | | | | |
| 7 | レクリエーション活動の習得（実技） 「運動あそび」を体験し、現場ですぐ活用できるレクリエーションを学ぶ。 [課題（復習）] (1h) 「運動あそび」についての指導展開について既存学習で振り返る。 | | | | | | |
| 8 | 講習会や研修会に参加 または、レクリエーションについての課題提出 [課題（課題）] (1h) 「講習会や研修会に参加して学んだこと」 | | | | | | |
| 9 | 講習会や研修会に参加 または、レクリエーションについての課題提出 [課題（課題）] (1h) 「講習会や研修会に参加して学んだこと」 | | | | | | |

| 実施回 | 内容 |
|-------------|---|
| | 授業内容・目標 |
| 10 | レクリエーション活動の習得（実技） ・「伝承遊び」マンカラについて理解し、体験する。 ・「清流の国」文化祭2024についても理解し、伝承遊びにふれる。 [課題（復習）] (1h) 「伝承遊び」について振り返る |
| 11 | レクリエーション活動の習得（実技） ・「バスケットピンポン」のルールを理解し練習・ゲーム・審判を体験する。 [課題（復習）] (1h) 「バスケットピンポン」のルールを振り返る |
| 12 | レクリエーション活動の習得（理論） ・「ぎふ清流レクリエーションフェスティバル2024」においての種目がどのような種目が良いのか、自分なりの考えをまとめる。 [課題（復習）] (1h) 選択したアクティビティにおいて支援技術や目標設定を意識した支援ができる。 |
| 13 | リスクマネジメントの方法 ・安全管理 レク活動に伴うさまざまな危険を最小限におさえる方法について [課題（復習）] (1h) レク活動を行う際の安全管理について |
| 14 | ぎふ清流レクリエーションフェスティバルについて ・ぎふ清流レクリエーションフェスティバル2024 ミナレク広場in西濃において1つのレク体験コーナーを企画・運営する。グループワーク等を取り入れ、情報共有を行い、自主的・主体的に活動できる企画立案・ブース運営について学ぶ。 [課題（復習）] (1h) 演習発表できるように準備をすすめる |
| 15 | ぎふ清流レクリエーションフェスティバル2024 ミナレク広場in西濃について「リハーサル」 ・企画発表・ブース運営について 小レポート「感想」 ・スポーツ・レクリエーション を学んで感じたこと、今後どのように活かしていきたいなど。 [課題（復習）] (1h) 自己評価と発表者への評価 |
| 時間外での学修 | (一社)岐阜県レクリエーション協会や市町村レクリエーション協会主催事業に積極的に参加。現場でスタッフや参加者として関わり、社会貢献の実践を体験する。 毎時間の課題 (15h) |
| 受講学生へのメッセージ | 服装はTPOに合わせることが大切です。学習内容に合わせたふさわしい服装を心がけてください。 現場での実践につながるよう明るい笑顔で、楽しんで積極的に授業に参加してください。 挨拶は基本です。 授業内容が会場・物品の都合で前後することもあります。 オフィスアワーは、授業後10分間とします。 |

| 【3T7F203】スポーツ・レクリエーション | | 音楽総合学科 | | 2年後期 | |
|------------------------|--|---------------------------------|----------|------|----------|
| 教員 | 日比 千穂 | 1単位 | 選択 | 演習 | 30時間 |
| 資格・制限等 | 特になし | | | | |
| 実務家教員 | NPO法人岐阜県レクリエーション協会理事9年（2013年～2021年）一般社団法人岐阜県レクリエーション協会理事4年（2021年～）NPO法人大垣市レクリエーション協会理事長8年（2015年～）一般社団法人日本タスボニー協会理事1年（2023年～）岐阜県公立小学校教諭6年（1990年～1997年） | | | | |
| 授業方法 | 内容に合わせて、教室を使った実技・演習、体育館・屋外を利用したレクリエーション実技・演習を行います。講義・実技共に、指導者としてのやくわりを学ぶため、「ロールプレイ」「グループ討議」「発表」の形式を交えます。授業内容によっては、ICTを活用した遠隔授業や自己評価提出、質問等も受付、学習状況を確認し、フィードバックを行います。 | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 年齢や体力・技能を考慮した活動を理解する。 | | | |
| | 思考・判断・表現 | 発達の特性を生かした指導計画を作成できる。 | | | |
| | 技能 | ゲームの特性を理解し、楽しいの伝達ができる。 | | | |
| | 関心・意欲・態度 | 積極的に関わり合いを持ち、社会に貢献する姿となることができる。 | | | |
| | 備考 | ・・の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。 | | | |
| 授業内容 | 健康への関心は、高まっています。適度な運動は、心の開放、体力維持・増進につながります。レクリエーションを学ぶことで、理論的にも技術的にもコミュニケーション力を高める方法が習得できます。そして、対象者に合わせた自主的主体的なやる気を引き出せる企画・プログラムを実践できる力としていきます。目的に合わせたゲームやニュースポーツを中心に実践し、アクティビティに関する知的理性和指導法の修得について学び、実践できる指導者をめざします。 | | | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 評価方法 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 |
| | 実技試験 | 5 | - | 5 | 10 |
| | 自己評価(毎回) | 10 | - | 10 | - |
| | 受講態度 | - | 10 | - | 20 |
| | レポート(2回) | - | 10 | - | - |
| | 発表(グループ発表含む) | 5 | - | 5 | 10 |
| | 合 計(点) | 20 | 20 | 20 | 40 |
| 評価の特記事項 | フィードバックとして、小テストやレポート提出後、解答の解説やコメントを行います。 | | | | |
| ICT活用 | ICTを活用した自主学習支援（ポータルサイトなど） 状況に応じてICTを活用した双方向型授業 | | | | |
| アクティブ・ラーニングの活用 | レクリエーションの理論学び、実際のレクリエーションを活用し、理論の振り返りを繰り返す。グループ・ディスカッションやグループワークを取り入れ、実践の反省から、次の企画への改善につなげる。 | | | | |
| 課題に対するフィードバック | 授業時間外課題は、次回以降の授業で紹介しコメントする | | | | |
| テキスト | 『楽しさをとおした心の元気づくり』(公財)日本レクリエーション協会(1,800円)ISBN:978-4-931180-95-6 「スポーツ・レクリエーション」受講者は購入済み | | | | |
| 参考書・教材 | | | | | |
| 内容 | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | |
| 1 | オリエンテーション 現場実習11月3日（日・祝）に行われる清流レクリエーションフェスティバルin西濃と国民文化祭でのレクリエーションの役割を理解し、本講座の学習目標を持つ。 レクリエーション・インストラクターの資格について学ぶ [課題（復習）] レクリエーション指導者資格の目的を明確し、どのような指導者を目指すのか目標をたてる（1h） | | | | |
| 2 | モデルプログラム実施（伝承遊び） ・「歌遊び」「手遊び」「グループあそび」や日本の文化の中でできた昔あそびを知り、遊びを選択して楽しめる場の作り方を学ぶ。 [課題（復習）] 練習をして、現場で「私できます」を習得する。（1h） | | | | |
| 3 | 安全管理の方法 安全配慮義務を学び、事前・活動中・事後に配慮すべきこと、また、配慮できる見方考え方を習得する。 [課題（復習）] 安全配慮義務についてまとめる（1h） | | | | |
| 4 | レクリエーション支援の実施1プログラム（清流レクリエーションフェスティバル担当種目のプログラム作成と演習） ・レクリエーションの活動のアレンジやコミュニケーション技術を学び、活用し、参加者がより主体的に参加できる声掛けを意識したロールプレイングを行う。 [課題（復習）] 段階的なアレンジがどのようなことに気を付けておこなうとよいかまとめる（1h）（1h） | | | | |
| 5 | レクリエーション支援の実施2プログラム（清流レクリエーションフェスティバル担当種目のプログラム作成と演習） ・活動が安全に、また、円滑にできるようにスケジュールや場所の確認を行う。 ・レクリエーションの活動のアレンジやコミュニケーション技術を学び、活用し、参加者がより主体的に参加できる声掛けを意識したロールプレイングを行う。 [課題（復習）] 現場での楽しい作りを確認し、安全配慮について確認し当日に挑む（1h） | | | | |
| 6 | 現場実習 - スタッフ参加 11月3日（日・祝）[大垣市青年の家]清流レクリエーションフェスティバルin西濃 ・レクリエーション協会加盟団体によるレクリエーション活動の実際を知る。 [課題（復習）] 軽スポーツについて振り返る。（1h） | | | | |
| 7 | 現場実習 - スタッフ参加 11月3日（日・祝）[大垣市青年の家]清流レクリエーションフェスティバルin西濃 ・レクリエーション協会や種目団体による活動支援を体感する。 [課題（復習）] 参加者の方々の様子や、それにかかる一般ボランティアの方々の様子で気づいたことをまとめる。（1h） | | | | |

| 実施回 | 内容 |
|-------------|---|
| | 授業内容・目標 |
| 8 | レクリエーション支援の実施 3 支援実施 11月3日(日・祝) [大垣市青年の家] 清流レクリエーションフェスティバルin西濃 ・参加者が気持ちよく参加でき、また、参加者・スタッフ共に安全配慮に十分注意した活動をすることができる。 [課題(予習)] 担当コーナーの準備確認・リスクマネジメントの視点を持って配布物確認(時間・トイレ・手洗い場所・休憩場所・飲食場所・救護場所など)(1h) |
| 9 | レクリエーション支援の実施 4 支援実施 11月3日(日・祝) [大垣市青年の家] 清流レクリエーションフェスティバルin西濃 ・打ち合わせや準備を活かし、参加者とのコミュニケーションをとり、励ましや共感を言葉掛けを意識し、心地よい場の提供できるホスピタリティーあふれる対応を目指す。 [課題(復習)] [清流レクリエーションfestival]報告書作成次回提出(1h) |
| 10 | レクリエーション支援の実施 5 評価及び改善 グループワーク・プログラムを用いて、清流レクリエーションフェスティバルを振り返る。反省会を持ち、それぞれのグループのこれまでの活動発表を準備する。 [課題(復習)] 発表の担当の部分をまとめ、準備する。(1h) |
| 11 | モデル・プログラムの実施 (ネイチャーゲーム) ・野外活動で「生きる」を学ぶ目的としたゲームの中で、虫や植物たちの自然の中で生きるを感じるプログラムを体験する。 [課題(復習)] 「わかちあう」についてまとめる。(1h) |
| 12 | レクリエーション支援の実施 6 プログラム立案 (実技演習の立案・評価・改善) ・スポーツ・レクリエーション・ を通じて学んだコミュニケーション技術や支援技術、アレンジ法を一體的に実施できる実技演習のプログラムを立案する。 [課題(復習)] プログラムで担当となった部分を技法や理論を盛り込んで発表できるようにする。(1h) |
| 13 | レクリエーション支援の実施 7 科目終了判定 (コミュニケーション・ゲームの評価・改善) 実技演習Aグループ ・学生を参加者にみたてて、実際のプログラムを展開する。 [課題(復習)] コミュニケーション・ゲームについて振り返りをする。(1h) |
| 14 | レクリエーション支援の実施 8 科目終了判定 (コミュニケーション・ゲームの評価・改善) 実技演習Bグループ ・学生を参加者にみたてて、実際のプログラムを展開する。 [課題(復習)] コミュニケーション・ゲームについて振り返りをする。(1h) |
| 15 | レクリエーション支援の実施 9 科目終了判定 (コミュニケーション・ゲームの評価・改善) 実技演習Cグループ ・学生を参加者にみたてて、実際のプログラムを展開する。 [課題(復習)] コミュニケーション・ゲームについて振り返りをする。(1h) |
| 時間外での学修 | 【この科目で求められる望ましい授業外での総学修時間:18時間】 (特非)岐阜県レクリエーション協会(特非)大垣市レクリエーション協会など地域レクリエーション協会主催事業に積極的に参加。市民活動事業の現場でスタッフや参加者として関わり、社会貢献の実践を体験する(事前に参加手続きを各自で行なう)。参加報告提出すること(3h) |
| 受講学生へのメッセージ | スポーツ要素を多く含む激しい動きもあります。活動しやすい服装(体育館シューズ必・スカート不可)で積極的に参加し、現場での実践につながるよう明るい表情やわかりやすい表現方法を学んでいきます。体育館の利用状況や種目道具の使用状況で授業内容の入れ替えがあります。オフィスアワーは、授業後10分間とします。 |

| 【3S8F214】和太鼓 | | 音楽総合学科 | 2年前期 | | | |
|----------------|--|--|----------|------|----------|-------|
| 1単位 | 選択 | | 演習 | 30時間 | | |
| 教員 | 藤井 久美子 | | | | | |
| 資格・制限等 | MTコース必修 | | | | | |
| 実務家教員 | 高等学校音楽非常勤講師(31年) | | | | | |
| 授業方法 | 演習形式で、グループワークなども取り入れて授業を行います。ペアを組み、お互い向かい合って一つの太鼓を打ち合い、指導教員の打ち方を見ながら打法等を身につけます。質問等は授業時やメール等で受け付けます。 | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 和太鼓の歴史や太鼓の種類、打法についての必要な知識を身につけることができる。 | | | | |
| | 思考・判断・表現 | その曲に適した打法や躍動感のある表現能力を身につけることができる。 | | | | |
| | 技能 | 和太鼓をしっかり打ち込み、正しいリズム感や拍子感を身につけることができる。 | | | | |
| | 関心・意欲・態度 | 意欲的に練習して、仲間とアンサンブルを楽しむことができる。 | | | | |
| | 備考 | ・・・の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。 | | | | |
| 授業内容 | まず和太鼓を打つことで、日本の伝統音楽の響きに慣れ豊かなリズム感や拍子感を養い、楽しい遊びや豊かな身体表現ができるようになり、和楽器のアンサンブルを楽しみ即興演奏や即興伴奏ができるまでの音楽的能力を養いたい。 | | | | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 評価方法 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 実技試験 | 5 | 5 | 50 | - | 60 |
| | ステージ発表 | - | 5 | 10 | 5 | 20 |
| | 創作(作曲) | - | 5 | 5 | - | 10 |
| | 受講態度 | - | - | - | 10 | 10 |
| | 合 計(点) | 5 | 15 | 65 | 15 | 100 |
| 評価の特記事項 | 受講態度は、学修への取組状況、ステージ発表等から総合的に評価します。フィードバックとして演奏発表後に演奏内容についてコメントします。 | | | | | |
| ICT活用 | ICTを活用した自主学習支援(Gmailなど) | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの活用 | グループ練習やペア練習をすることで、対話のある空間を作り、他者と交わる中で発見したり、考えたり、工夫したり、自分達で音楽を作っていく経験を味わう。 | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | フィードバックとして演奏発表後、演奏内容についてコメントします。授業時間外課題については、次回以降の授業で紹介しコメントします。 | | | | | |
| テキスト | ありません。 | | | | | |
| 参考書・教材 | 必要な楽譜は配付します。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | 日本太鼓の歴史と鼓動・種類・知識 ムチャクチャ乱打、握りが決めて バチに慣れよう [課題(復習)]学んだ内容を復習する(1h) | | | | | |
| 2 | 日本太鼓の打法・太鼓の楽譜に慣れよう 唱歌演奏 [課題(復習)]学んだ内容を復習する(1h) | | | | | |
| 3 | 基礎練習 基本リズムに慣れよう [課題(復習)]学んだ内容を復習する(1h) | | | | | |
| 4 | 基礎練習 やさしい・楽しい・美しいわらべ歌で遊ぼう [課題(復習)]学んだ内容を復習する(1h) | | | | | |
| 5 | 基礎練習 やさしい・楽しい・美しいわらべ歌で遊ぼう [課題(復習)]学んだ内容を復習する(1h) | | | | | |
| 6 | 和楽器のアンサンブル練習 [課題(復習)]学んだ内容を復習する(1h) | | | | | |
| 7 | 和楽器のアンサンブル練習 [課題(復習)]学んだ内容を復習する(1h) | | | | | |
| 8 | 和楽器による即興演奏への導入 和楽器のアンサンブルと即興演奏・和太鼓作曲 [課題(復習)]学んだ内容を復習する(1h) | | | | | |
| 9 | オリジナル曲()練習 セット打ち 唱歌演奏 [課題(復習)]学んだ内容を復習する(1h) | | | | | |
| 10 | オリジナル曲()練習 リズム練習 [課題(復習)]学んだ内容を復習する(1h) | | | | | |
| 11 | オリジナル曲()練習 構え・打ち込み [課題(復習)]学んだ内容を復習する(1h) | | | | | |
| 12 | オリジナル曲()練習 バチさばき・打ち込み [課題(復習)]学んだ内容を復習する(1h) | | | | | |
| 13 | オリジナル曲()練習 音の表現・打ち込み [課題(復習)]学んだ内容を復習する(1h) | | | | | |
| 14 | オリジナル曲()練習 身体表現・打ち込み [課題(復習)]学んだ内容を復習する(1h) | | | | | |
| 15 | オリジナル曲()まとめ 発表会 [課題(復習)]学んだ内容を復習する(1h) | | | | | |
| 時間外での学修 | 毎日のストレッチと授業で行ったオリジナル曲の見直し練習。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間: 15時間】 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 誰でも叩けば音が出る和太鼓。でも打ち方は千差万別。自分がイメージした音を自由に出せる楽器です。とにかく力を抜いてリラックスして自分の音を追及してみてください。 オフィスアワーは、授業前後の休み時間に教室で実施。 | | | | | |

| 【3S8F215】和太鼓 | | 音楽総合学科 | 2年後期 | | | |
|----------------|--|--|----------|------|----------|-------|
| 1単位 | 選択 | | 演習 | 30時間 | | |
| 教員 | 藤井 久美子 | | | | | |
| 資格・制限等 | MTコース必修 | | | | | |
| 実務家教員 | 高等学校音楽非常勤講師（31年） | | | | | |
| 授業方法 | 演習形式で、グループワークなども取り入れて授業を行います。ペアを組み、お互い向かい合って一つの太鼓を打ち合い、指導教員の打ち方を見ながら打法等を身につけます。質問等は授業時やメール等で受け付けます。 | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 和太鼓の歴史や太鼓の種類、打法についての必要な知識を身につけることができる。 | | | | |
| | 思考・判断・表現 | その曲に適した打法や躍動感のある表現能力を身につけることができる。 | | | | |
| | 技能 | 和太鼓をしっかり打ち込み、正しいリズム感や拍子感を身につけることができる。 | | | | |
| | 関心・意欲・態度 | 意欲的に練習して、仲間とアンサンブルを楽しむことができる。 | | | | |
| | 備考 | ・・・の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。 | | | | |
| 授業内容 | まず和太鼓を打つことで、日本の伝統音楽の響きに慣れ豊かなリズム感や拍子感を養い、楽しい遊びや豊かな身体表現ができるようになり、和楽器のアンサンブルを楽しみ即興演奏や即興伴奏ができるまでの音楽的能力を養いたい。 | | | | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 評価方法 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 実技試験 | 5 | 5 | 50 | - | 60 |
| | ステージ発表 | - | 5 | 10 | 5 | 20 |
| | 創作(作曲) | - | 5 | 5 | - | 10 |
| | 受講態度 | - | - | - | 10 | 10 |
| | 合 計(点) | 5 | 15 | 65 | 15 | 100 |
| 評価の特記事項 | 受講態度は、学修への取組状況、ステージ発表等から総合的に評価します。フィードバックとして演奏発表後に演奏内容についてコメントします。 | | | | | |
| ICT活用 | ICTを活用した自主学習支援（Gmailなど） | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの活用 | グループ練習やペア練習をすることで、対話のある空間を作り、他者と交わる中で発見したり、考えたり、工夫したり、自分達で音楽を作っていく経験を味わう。 | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | フィードバックとして演奏発表後、演奏内容についてコメントします。授業時間外課題については、次回以降の授業で紹介しコメントします。 | | | | | |
| テキスト | ありません。 | | | | | |
| 参考書・教材 | 必要な楽譜は配布します。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | 基礎練習 基本リズムをこなそう [課題（復習）]学んだ内容を復習する(1h) | | | | | |
| 2 | 和楽器のアンサンブルと即興演奏 [課題（復習）]学んだ内容を復習する(1h) | | | | | |
| 3 | 和楽器のアンサンブルと和太鼓譜作曲 [課題（復習）]学んだ内容を復習する(1h) | | | | | |
| 4 | オリジナル曲()練習 ペアのアンサンブル曲『風の舞』 第一部リズム練習 [課題（復習）]学んだ内容を復習する(1h) | | | | | |
| 5 | オリジナル曲()練習 第二部リズム練習 [課題（復習）]学んだ内容を復習する(1h) | | | | | |
| 6 | オリジナル曲()練習 第三部リズム練習 [課題（復習）]学んだ内容を復習する(1h) | | | | | |
| 7 | オリジナル曲()練習 全体通しリズム練習 [課題（復習）]学んだ内容を復習する(1h) | | | | | |
| 8 | オリジナル曲()練習 構え・打ち込み [課題（復習）]学んだ内容を復習する(1h) | | | | | |
| 9 | オリジナル曲()練習 バチさばき・打ち込み [課題（復習）]学んだ内容を復習する(1h) | | | | | |
| 10 | オリジナル曲()練習 音の表現・打ち込み [課題（復習）]学んだ内容を復習する(1h) | | | | | |
| 11 | オリジナル曲()練習 身体表現・打ち込み [課題（復習）]学んだ内容を復習する(1h) | | | | | |
| 12 | オリジナル曲()練習 三宅打ち リズム練習 [課題（復習）]学んだ内容を復習する(1h) | | | | | |
| 13 | オリジナル曲()練習 構え・打ち込み [課題（復習）]学んだ内容を復習する(1h) | | | | | |
| 14 | オリジナル曲()練習 バチさばき・打ち込み [課題（復習）]学んだ内容を復習する(1h) | | | | | |
| 15 | オリジナル曲()まとめ 発表会 [課題（復習）]学んだ内容を復習する(1h) | | | | | |
| 時間外での学修 | 毎日のストレッチと授業で行ったオリジナル曲の見直し練習。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:15時間】 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 誰でも叩けば音が出る和太鼓。でも打ち方は千差万別。自分がイメージした音を自由に出せる楽器です。 とにかく力を抜いてリラックスして自分の音を追及してみてください。 オフィスアワーは、授業前後の休み時間に教室で実施。 | | | | | |

| | | | | | | |
|----------------|--|--|----------|------|-------|-----|
| 【3T7S108】社会福祉 | | 音楽総合学科 | 2年後期 | | | |
| 2単位 | 選択 | | 講義 | 30時間 | | |
| 教員 | 川島 民子 | | | | | |
| 資格・制限等 | MTコース必修 | | | | | |
| 実務家教員 | 特別支援学校教員25年 | | | | | |
| 授業方法 | 講義、ビデオ視聴、授業のテーマに沿ったグループディスカッション等で進めていきます。活動後の振り返りやレポートにより、個別に返答、もしくは全体の場でフィードバックを行います。 | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 社会福祉の課題と施策について保育職として必要な基本的な知識をもち、理解できる。 | | | | |
| | 思考・判断・表現 | 社会福祉の課題に対する対応について、得られた知識をもとに、保育職の立場で思考・判断・表現できる。 | | | | |
| | 技能 | 社会福祉の現場で必要とされる専門的な技能を身につけることができる。 | | | | |
| | 関心・意欲・態度 | 社会福祉の課題や対応について関心をもち積極的に学ぶことができる。 | | | | |
| | 備考 | ・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。 | | | | |
| 授業内容 | 少子化、貧困が社会福祉の大きな課題です。どのような施策や制度、人材によって支えられているかを学ぶとともに、高齢者福祉、障がい者福祉についても学んでいきます。 | | | | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 合計(点) | |
| | 評価方法 | | | | | |
| | 筆記試験 | 40 | 30 | - | - | 70 |
| | レポート | - | 10 | 5 | - | 15 |
| | 受講態度 | - | - | - | 15 | 15 |
| | 合 計(点) | 40 | 40 | 5 | 15 | 100 |
| 評価の特記事項 | 講義が中心になりますが、筆記試験だけではなく、日頃の振り返りやレポートからも評価します。受講態度は、出席状況とともに学修への取組や提出物の状況などからも評価します。 | | | | | |
| ICT活用 | 社会福祉に関する動画映像の視聴や、調べ学習を通して理解を深めます | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの活用 | テーマに関する内容について、調べ学習やグループ協議、発表を行うことによって主体的・対話的に学修に向かえるようにします。 | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | 授業後の振り返りから、個別に返答、または全体の場でフィードバックを行います。 | | | | | |
| テキスト | | | | | | |
| 参考書・教材 | 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 その他、必要な資料はその都度配付します | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | オリエンテーション 講義で大事にしたいこと、授業の進め方、学修評価等について | | | | | |
| 2 | 社会福祉とわたしたち：わたしたちの生活に社会福祉がどのように関わっているか学ぶ [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる(4~5h) | | | | | |
| 3 | 社会福祉の歴史：日本の福祉についてこれまでの歩みについて学ぶ。 [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる(4~5h) | | | | | |
| 4 | 社会福祉の現代的課題：現代の生活課題について学ぶ [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる(4~5h) | | | | | |
| 5 | 社会福祉の行政機関：社会福祉の公的機関について学ぶ [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる(4~5h) | | | | | |
| 6 | 社会福祉施設：社会福祉施設の種類や形態について学ぶ [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる(4~5h) | | | | | |
| 7 | 社会福祉と社会保障の制度：社会保険、公的扶助、社会手当等について学ぶ [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる(4~5h) | | | | | |
| 8 | 社会福祉の専門職：社会福祉専門職の専門性について学ぶ [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる(4~5h) | | | | | |
| 9 | 子ども家庭福祉：子どもの人権や現代課題との関連について学ぶ [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる(4~5h) | | | | | |
| 10 | 少子化と子育て支援：現代の生活課題に対する施策について学ぶ [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる(4~5h) | | | | | |
| 11 | 高齢者福祉：高齢者福祉の仕組みについて学ぶ [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる(4~5h) | | | | | |
| 12 | 障害者福祉：障害者福祉の仕組みについて学ぶ [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる(4~5h) | | | | | |
| 13 | 相談援助：相談援助の意味と方法について学ぶ [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる(4~5h) | | | | | |
| 14 | 利用者支援：権利擁護や苦情解決について学ぶ [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる(4~5h) | | | | | |
| 15 | 社会福祉についてのまとめ：社会福祉に関する話題をもとに、保育者としての在り方について考える [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる(4~5h) | | | | | |
| 時間外での学修 | 参考となる本や雑誌などを進んで読むようにしましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 社会福祉に関する基礎的な知識は保育職を目指すに当たって不可欠です。一緒に学び、考えていきましょう。オフィスアワー：研究室水曜日15：00~16：00 | | | | | |

| 【3T7S106】特別支援教育 | | 音楽総合学科 | 2年後期 | | | |
|-----------------|---|--|----------|------|----------|-------|
| 2単位 | 選択 | | 講義 | 30時間 | | |
| 教員 | 川島 民子 | | | | | |
| 資格・制限等 | 特になし | | | | | |
| 実務家教員 | 特別支援学校教員 25年 | | | | | |
| 授業方法 | 講義、ビデオ視聴、授業のテーマに沿ったグループディスカッション等で進めていきます。活動後の振り返りやレポートにより、個別に返答、もしくは全体の場でフィードバックを行います。 | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 特別支援教育の理念や障害のある児童生徒の理解を深め、高度な知識を身に付けることができる | | | | |
| | 思考・判断・表現 | 支援者としての視点から、自分なりの考え方や保育観をもって、特別な教育的ニーズを有する子どもたちに向かい、問題や課題に対して考えることができる | | | | |
| | 技能 | 児童生徒一人ひとりの見方考え方、学び方の多様性を理解し、支援方法を考えることができる | | | | |
| | 関心・意欲・態度 | 連携の意義や必要性を知り、様々なケースに対応できる柔軟さとコミュニケーション能力を身に付けることができる | | | | |
| 授業内容 | 特別な教育的ニーズを有する子どもたちに対して、適切な支援が求められています。特別支援教育に関する基礎的な知識を身に付け、教育の現状について学びます。 | | | | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 評価方法 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 筆記試験 | 30 | 15 | 15 | - | 60 |
| | 振り返り、レポート | - | 10 | 5 | 10 | 25 |
| | 受講態度 | - | - | - | 15 | 15 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計(点) | 30 | 25 | 20 | 25 | 100 |
| 評価の特記事項 | 講義が中心になりますが、筆記試験だけではなく、日頃の振り返りやレポートからも評価します。受講態度は、出席状況とともに学修への取組や提出物の状況などからも評価します。 | | | | | |
| ICT活用 | 特別支援教育に関する動画映像の視聴や、調べ学習を通して理解を深めます。 | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの活用 | テーマに関する内容について、調べ学習やグループ協議、発表を行うことによって主体的に学修に向かえます。 | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | 授業後の振り返りから、個別に返答、または全体の場でフィードバックを行います。 | | | | | |
| テキスト | | | | | | |
| 参考書・教材 | 特別支援学校 幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領。授業時に資料を配布します。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | オリエンテーション 講義で大事にしたいこと、授業の進め方、学修評価等について | | | | | |
| 2 | 特別支援教育の現状 特別支援教育の意義、学習指導要領の改訂等について学ぶ [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる(4~5h) | | | | | |
| 3 | 特別支援学校の教育の実際 特別支援学校の教育課程、指導方法、特別支援学校のセンター的機能の実際等を学ぶ [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる(4~5h) | | | | | |
| 4 | 特別支援学級の教育の実際 特別支援学級の教育課程、指導方法、指導の実際等を学ぶ [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる(4~5h) | | | | | |
| 5 | 通級による指導の実際 通級による指導の位置付け、指導方法、指導の実際等を学ぶ [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる(4~5h) | | | | | |
| 6 | 自立活動について 特別支援学校における教育課程の一つである自立活動について学ぶ [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる(4~5h) | | | | | |
| 7 | 園・校内の支援体制 特別支援教育コーディネーターや校内委員会等の園や校内の支援体制について学ぶ [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる(4~5h) | | | | | |
| 8 | 個別の指導計画と個別の教育支援計画について 個別の指導計画と個別の教育支援計画の関係性や作成の意義について学ぶ [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる(4~5h) | | | | | |
| 9 | 保護者の理解と支援 保護者の障害受容や保護者支援における課題等について学ぶ [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる(4~5h) | | | | | |
| 10 | 関係機関との連携 地域の児童発達支援センター等の役割や連携について学ぶ [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる(4~5h) | | | | | |
| 11 | 特別支援教育に関する現代のテーマ(1) インクルーシブ教育について学ぶ [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる(4~5h) | | | | | |
| 12 | 特別支援教育に関する現代のテーマ(2) インクルーシブ教育について知った上で、合理的配慮について学ぶ [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる(4~5h) | | | | | |
| 13 | 特別支援教育に関する現代のテーマ(3) 不登校や外国籍の児童生徒についての現状と課題を知る。 [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる(4~5h) | | | | | |

| 実施回 | 内容 |
|-------------|---|
| | 授業内容・目標 |
| 14 | 身近な出来事を特別支援教育の視点から問う 自然災害等を特別支援教育の支援から分析する 【課題(復習)】配付された資料を復習し、関連する文献に触れる(4~5h) |
| 15 | 特別支援教育についてのまとめ：特別支援教育に関する話題をもとに、保育者としての在り方について考える 【課題(復習)】配付された資料を復習し、関連する文献に触れる(4~5h) |
| 時間外での学修 | 特別支援教育に関する当事者の著書も数冊読んで、当事者の思いを理解できる保育者を目指してください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】 |
| 受講学生へのメッセージ | 幼稚園等では特別な教育的ニーズを有する園児児童生徒等の支援は大きな柱になっています。実習等を通して実際の様子を実感してください。オフィスアワー：研究室にて水曜日15:00~16:00 |

| | | | | | |
|---------------------------|---|---|----------|------|----------|
| 【3T7A420】臨床実習(事前・事後指導を含む) | | 音楽総合学科 | | 2年後期 | |
| | | 3単位 | 選択 | 実習 | 135時間 |
| 教員 | 菅田 文子・日比 あけみ | | | | |
| 資格・制限等 | 既修得科目による制限有り | | | | |
| 実務家教員 | 菅田：音楽療法関連施設職員・5年、音楽療法実践30年 日比：医療、福祉施設における音楽療法実践・20年 | | | | |
| 授業方法 | 講義形式、実習グループに分かれた計画の立案、練習、他グループの前での発表練習などを含みます。 | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 対象者のアセスメントを行い目標を設定することができる。 | | | |
| | 思考・判断・表現 | 自分の行った活動について目的や内容を説明することができる。 | | | |
| | 技能 | 目標に沿って計画したグループセッションと個人セッションを実施して記録を取ることができます。 | | | |
| | 関心・意欲・態度 | 施設実習において関連職種やスタッフと充分に連携を取り実践活動が行える。 | | | |
| | 備考 | ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。 | | | |
| 授業内容 | 音楽療法士資格取得のための臨床実習に向けた事前準備および実習後の資格申請手続きまでをこの時間内に行います。 実習前はセッション記録の取り方の復習、実践計画と準備を行います。実習終了後は実習期間中の振り返りや実習中に起きた問題をクラス内で共有するなど。1年生の授業において実習成果を発表するので、その準備もこの時間で行います。 | | | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 評価方法 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 |
| | 課題提出 | 30 | 10 | - | - |
| | 受講態度 | - | - | - | 50 |
| | 発表(グループ発表含む) | - | - | 10 | - |
| | 合 計(点) | 30 | 10 | 10 | 50 |
| | | | | | 100 |
| 評価の特記事項 | 3分の1以上欠席した学生は期末試験の受験資格がありません。 実習を終了して所定のレポートを提出することが単位の要件となります。 | | | | |
| I C T 活用 | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの活用 | 必要なビデオを授業前に課題として視聴します。 | | | | |
| 課題に対するフィードバック | 授業内の課題については次の授業でコメントを返します。 | | | | |
| テキスト | | | | | |
| 参考書・教材 | 授業内でプリントを配付します。 | | | | |
| 内容 | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | |
| 1 | オリエンテーション、各実習施設の説明、希望施設の調査 [課題(予習、復習)]学んだ内容の復習、実習計画の作成(2h) | | | | |
| 2 | 実習記録の配布、記入方法の説明、実習生個人目標の設定 [課題(予習、復習)]学んだ内容の復習、実習計画の作成(2h) | | | | |
| 3 | 音楽療法セッションの準備1 グループセッションのため予備も含めて10曲×3セッションを目標に準備を行う。 [課題(復習)]セッションの準備、曲の練習(3h) | | | | |
| 4 | 音楽療法セッションの準備2 セッション計画を記入、担当教員と内容、治療目標との検討を個別に行う。 [課題(復習)]セッションの準備、曲の練習(3h) | | | | |
| 5 | 音楽療法セッションの準備3 譜面、楽器、歌詞幕なども準備を行う。 [課題(復習)]セッションの準備、曲の練習(3h) | | | | |
| 6 | 音楽療法セッションの準備4 先週に引き続きグループセッション3つの準備を行う。 個人セッションのアセスメントについて復習し、確認を行う。 [課題(復習)]セッションの準備、曲の練習(3h) | | | | |
| 7 | 実習前の心構え：倫理、服装、態度について 実習直前の準備を行う。 [課題(復習)]セッションの準備、曲の練習(3h) | | | | |
| 8 | 音楽療法コース臨床実習1週目 各施設に分かれて実習を行う。2週間でグループセッションと個人セッションをそれぞれ行う。 [課題(復習)]実習記録の記入(20h) | | | | |
| 9 | 音楽療法コース臨床実習2週目 各施設に分かれて実習を行う。2週間でグループセッションと個人セッションをそれぞれ行う。 [課題(復習)]実習記録の記入(20h) | | | | |
| 10 | 実習を終えて：振り返りと施設に向けてお礼状を作成する 実習記録ノートの整理 [課題(復習)]学んだ内容の復習(2h) | | | | |
| 11 | 個人セッション報告書の作成 担当した個人セッションの報告書を作成し、提出する。 [課題(復習)]学んだ内容の復習(2h) | | | | |
| 12 | 音楽療法士資格申請準備 これまでに取得した単位を計算して所定の用紙に下書きし、提出する。清書は担当教員が行う。 [課題(復習)]学んだ内容の復習(2h) | | | | |
| 13 | 1年生に向けた発表準備と計画 実習施設と音楽活動について1年生の授業にて発表するための準備を行う。 [課題(復習)]学んだ内容の復習(2h) | | | | |
| 14 | 実習のまとめ、振り返り [課題(復習)]学んだ内容の復習(2h) | | | | |

| 内容 | |
|-------------|--|
| 実施回 | 授業内容・目標 |
| 15 | レポート課題の作成、提出 [課題（復習）]学んだ内容の復習（1h） |
| 時間外での学修 | 実習に向けて時間外も含めて準備を進めてください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】 |
| 受講学生へのメッセージ | 各自課題を設定し、苦手なところを克服できるようにならんばりましょう。 オフィスアワーは研究室（B403：B号館4階）で毎週火曜日の13：00～14：30です。 |

| 【3T7A211】臨床における即興技法 | | 音楽総合学科 | | 2年前期 | | |
|---------------------|---|---|----------|------|----------|-------|
| 教員 | 菅田 文子 | 1単位 | 選択 | 演習 | 30時間 | |
| 資格・制限等 | 特になし | | | | | |
| 実務家教員 | 音楽療法関連施設職員・5年、音楽療法実践30年 | | | | | |
| 授業方法 | 1人1台の電子キーボードを用い、毎週呈示される課題をその場で練習、発表します。シラバスに明示した課題の他、ほぼ毎回さぐり弾き（譜面を見ずに演奏）か、コード付けの課題が出されます。質問は個別指導の際やメールにて受付、返答します。 | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 知っている曲は譜面がなくても簡単なメロディーとコードをつけて演奏することができる。 | | | | |
| | 思考・判断・表現 | 演歌風、民謡風、軍歌風など、曲調にあったアレンジで伴奏をつけることができる。 | | | | |
| | 技能 | 知らない曲のメロディーに簡単なコードをつけて伴奏することができる。 | | | | |
| | 関心・意欲・態度 | 対象者に合わせたテンポ、リズムパターン、音量に合わせた即興演奏ができる。 | | | | |
| | 備考 | ・・・の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。 | | | | |
| 授業内容 | 音楽療法の実践場面で対象者の心身の状態や行動、音楽の好みなどに合わせ臨機応変に音楽を提供することができるよう、鍵盤楽器演奏の技術向上および基本的な即興技法を身につけることを目的とします。 | | | | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 評価方法 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 実技試験 | 10 | 10 | 20 | - | 40 |
| | 発表（グループ発表含む） | 20 | 20 | 10 | - | 50 |
| | 受講態度 | - | - | - | 10 | 10 |
| | | | | | | |
| | 合 計(点) | 30 | 30 | 30 | 10 | 100 |
| 評価の特記事項 | 3分の1以上欠席した学生、課題の発表がない学生は期末試験の受験資格がありません。 | | | | | |
| I C T 活用 | 課題の提出（動画）、お手本の視聴にポータルなどを活用します。 | | | | | |
| アケティブ・ラーニングの活用 | | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | 授業内で個別にコメントします。 | | | | | |
| テキスト | | | | | | |
| 参考書・教材 | 授業内で配布します。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | 対象者に合わせるための練習1 テンポの変わるメトロノームに合わせて演奏する練習、さぐり弾き課題 [課題（復習）]学んだ内容の復習（歌いながら合図を出す）、さぐり弾き課題（p11）のコード付け（1h） | | | | | |
| 2 | さぐり弾きと移調 短調のさぐり弾き課題 p21～22の3和音課題を7つの調で演奏する [課題（復習）]学んだ内容の復習、さぐり弾き課題（p13）のコード付け（1h） | | | | | |
| 3 | さぐり弾きと移調 p24の3和音課題を7つの調で演奏する [課題（復習）]学んだ内容の復習（1h） | | | | | |
| 4 | ペントナトニック：自由に即興演奏をするための練習、F#ペントナトニックを使った作曲 [課題（復習）]学んだ内容の復習（ペントナトニックで即興演奏する）、さぐり弾き課題（p16）のコード付け（1h） | | | | | |
| 5 | 黒鍵を用いた [課題（復習）]学んだ内容の復習（ペントナトニックの伴奏）、さぐり弾き課題のコード付け（1h） | | | | | |
| 6 | さまざまなペントナトニック：ペントナトニックの曲に和音をつける [課題（復習）]学んだ内容の復習（音階に含まれる音のみで伴奏する）、さぐり弾き課題（p20）のコード付け（1h） | | | | | |
| 7 | 基本拍を促す演奏1：既成曲の基本拍 [課題（復習）]既成曲に基本拍をつけ伴奏する練習、さぐり弾き課題（p34）のコード付け（1h） | | | | | |
| 8 | 基本拍を促す演奏2：太鼓とピアノの即興、基礎 [課題（復習）]太鼓にピアノで即興の伴奏をつける練習、コード付け課題（p37）（1h） | | | | | |
| 9 | 基本拍を促す演奏3：太鼓とピアノの即興、応用 [課題（復習）]伴奏に変化をつける即興の伴奏の練習、コード付け課題（p43）（1h） | | | | | |
| 10 | 基本拍を促す演奏4：太鼓とピアノのテンポ変化 [課題（復習）]テンポに変化をつける即興の伴奏の練習、コード付け課題（p46）（1h） | | | | | |
| 11 | 基本拍を促す演奏5：太鼓、シンバルとピアノの即興課題 [課題（復習）]学んだ内容の復習、さぐり弾き課題のコード付け（1h） | | | | | |
| 12 | さまざまな伴奏パターンを学ぶ 民謡 [課題（復習）]民謡に特有のパターンで伴奏をつける練習、さぐり弾き課題（p49）のコード付け（1h） | | | | | |
| 13 | さまざまな伴奏パターンを学ぶ 軍歌 [課題（復習）]軍歌に特有のパターンで伴奏をつける練習、さぐり弾き課題（p52）のコード付け（1h） | | | | | |
| 14 | さまざまな伴奏パターンを学ぶ 演歌 [課題（復習）]軍歌に特有のパターンで伴奏をつける練習、さぐり弾き課題のコード付け（1h） | | | | | |
| 15 | 前期の振り返り 期末テスト | | | | | |
| 時間外での学修 | 授業で呈示された課題が身につくまで、各自が練習してください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】 | | | | | |

受講学生への
メッセージ

即興演奏はその場で演奏するのですが、蓄積が必要です。授業内で行った課題で不得手なものがあれば克服にむけて自主練習してください。
オフィスアリーは研究室（B403：B号館4階）で毎週火曜日の13：00～14：30です。

| 【3T7A212】臨床における即興技法 | | 音楽総合学科 | | 2年後期 | | |
|---------------------|---|--|----------|------|----------|-------|
| 教員 | 菅田 文子 | 1単位 | 選択 | 演習 | 30時間 | |
| 資格・制限等 | 特になし | | | | | |
| 実務家教員 | 音楽療法関連施設職員・5年、音楽療法実践30年 | | | | | |
| 授業方法 | 1人1台の電子キーボードを用い、毎週呈示される課題をその場で練習、発表します。シラバスに明示した課題の他、ほぼ毎回さぐり弾きかコード付けの課題があります。 | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 既成曲を音楽療法の目的に合わせて編曲することができる。 | | | | |
| | 思考・判断・表現 | 音楽療法セッションで用いる体操や動きに即興で伴奏をつけることができる。 | | | | |
| | 技能 | セッションの目的に沿った簡単な曲を即興で作ることができる。相手に合わせた即興演奏の伴奏ができる。 | | | | |
| | 関心・意欲・態度 | 障がいを持つ人がつくる詞に曲をつけることができる。対象者に合わせた演奏ができる。 | | | | |
| | 備考 | ・・・の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。 | | | | |
| 授業内容 | 音楽療法の実践場面で対象者の心身の状態や行動、音楽の好みなどに合わせ臨機応変に音楽を提供することができるよう、鍵盤楽器演奏の技術向上および基本的な即興技法を身につけることを目的とします。幅広いジャンルの曲に親しみ、旋律や和声の構造を分析します。音楽療法の目的に沿った作曲も学びます。 | | | | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 評価方法 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 実技試験 | 20 | 10 | 10 | - | 40 |
| | 課題提出 | 20 | 10 | - | 10 | 40 |
| | 受講態度 | - | - | - | 10 | 10 |
| | 発表(グループ発表含む) | - | - | 10 | - | 10 |
| | | | | | | |
| | 合 計(点) | 40 | 20 | 20 | 20 | 100 |
| 評価の特記事項 | 3分の1以上欠席した学生、課題の発表を行わなかった学生は期末試験の受験資格がありません。 | | | | | |
| I C T 活用 | 課題の動画提出、お手本の視聴に学生ポータルなどを活用する。 | | | | | |
| アグティブ・ラーニングの活用 | | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | 授業内で個別にコメントします。 | | | | | |
| テキスト | | | | | | |
| 参考書・教材 | 授業内で配付します。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | 目的に合わせて作曲する1：リラックス体操の伴奏 [課題(復習)]コード進行とリズムがあまり動かない伴奏を練習する、さぐり弾き課題(p58)のコード付け(1h) | | | | | |
| 2 | 目的に合わせて作曲する2：タオル体操の伴奏 [課題(復習)]音階と動きがマッチする伴奏を練習する、コード付け課題(p60)(1h) | | | | | |
| 3 | 目的に合わせて作曲する3：嚥下体操の伴奏 [課題(復習)]動きに合わせて伴奏をつける、さぐり弾き課題(p66)のコード付け(1h) | | | | | |
| 4 | 目的に合わせて作曲する4：「待つ」ための曲を作る、ミュージックベルのアレンジ 曲の決定、移調 [課題(復習)]ベル譜面(移調したメロディー)の清書、コード付け課題(p69)(1h) | | | | | |
| 5 | 目的に合わせて作曲する5：動きを促す音楽の作曲、ミュージックベルのアレンジ 和音づけ [課題(復習)]ベル譜面(和音つけ)の清書、学んだ内容の復習、さぐり弾き課題(p71)のコード付け(1h) | | | | | |
| 6 | 目的に合わせて作曲する6：気持ちを表す音楽の作曲、ミュージックベルのアレンジ パート分け [課題(復習)]パート分けしたベル譜面にマーカーで色分けしてくる、さぐり弾き課題(p75)のコード付け(1h) | | | | | |
| 7 | 目的に合わせて作曲する7：言葉や詩に曲をつける、ミュージックベルのアレンジ、発表 [課題(復習)]作ったメロディー譜の清書、残りのメロディーを考える(1h) | | | | | |
| 8 | 目的に合わせて作曲する8：作った曲をCメロ譜にする [課題(復習)]作曲した曲の清書、さぐり弾き課題のコード付け(1h) | | | | | |
| 9 | 1音のためのアレンジ、1音のための作曲 [課題(復習)]作った曲の清書、さぐり弾き課題のコード付け(1h) | | | | | |
| 10 | モード(旋法)と慣用的な表現1：ドリアンのスケール [課題(復習)]繰り返し練習しモードに慣れる、さぐり弾き課題(p88)のコード付け(1h) | | | | | |
| 11 | モード(旋法)と慣用的な表現2：リディアン、中近東のスケール [課題(復習)]繰り返し練習しモードに慣れる、さぐり弾き課題(p92)のコード付け(1h) | | | | | |
| 12 | モード(旋法)と慣用的な表現3：スペイン風音階 [課題(復習)]繰り返し練習しモードに慣れる、さぐり弾き課題(p94)のコード付け(1h) | | | | | |
| 13 | モード(旋法)と慣用的な表現4：民謡音階の即興 [課題(復習)]学んだ内容の復習、さぐり弾き課題(p97)のコード付け(1h) | | | | | |
| 14 | 臨床における応用、試験準備 [課題(復習)]学んだ内容の復習、試験の準備(1h) | | | | | |
| 15 | 授業の振り返り 期末テスト | | | | | |
| 時間外での学修 | 作曲や編曲の課題が宿題として出ますので、積極的に取り組んでください。 課題が時間内に終了しなかった学生には補講を行います。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 臨床実習や、音楽療法士として働くにあたって一番役に立ったといわれている授業です。面倒な課題も多いですが将来の自分のために取り組んでください。 オフィスアワーは研究室(B403：B号館4階)で毎週火曜日の13:00～14:30です。 | | | | | |

| 【3T7S114】音楽療法・臨床 | | 音楽総合学科 | 2年前期 | | | |
|------------------|---|---|----------|------|----------|-------|
| 2単位 | 選択 | | 講義 | 30時間 | | |
| 教員 | 菅田 文子 | | | | | |
| 資格・制限等 | 特になし | | | | | |
| 実務家教員 | 音楽療法関連施設職員・5年、音楽療法実践30年 | | | | | |
| 授業方法 | 講義形式ですが演習も含みます。小グループでの討論、検討結果の発表も行います。 | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 音楽療法の臨床分野（児童・成人・高齢）それぞれについて、主要な目的と活動について理解、説明ができる。 | | | | |
| | 思考・判断・表現 | 音楽の治療的用い方について説明ができる。 音楽療法に関連のある心理療法の概略について理解、説明ができる。 | | | | |
| | 技能 | 目標に沿った音楽活動を発表できる。 | | | | |
| | 関心・意欲・態度 | 対象者に即した課題を相手にわかりやすく工夫した形で発表することができる。 | | | | |
| | 備考 | ・・・の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。 | | | | |
| 授業内容 | この授業では臨床実習に向けて、基礎となる力をつけることを目的とします。授業内容は大きくわけて2つに分かれます。ひとつめは音楽療法全般に関する理論と音楽療法を受ける対象となる人の病気、障害、心理特性などについての知識を学ぶことです。ふたつめはそれぞれの対象に向けた実践の内容について学びます。 | | | | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 評価方法 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 筆記試験 | 30 | 30 | - | - | 60 |
| | レポート | 10 | 10 | - | - | 20 |
| | 発表（グループ発表含む） | - | - | 10 | - | 10 |
| | 受講態度 | - | - | - | 10 | 10 |
| | 合 計(点) | 40 | 40 | 10 | 10 | 100 |
| 評価の特記事項 | 授業回数の1/3以上欠席した学生は定期試験の受験資格がありません。 課題発表、提出物のない学生は定期試験の受験資格がありません。 | | | | | |
| I C T 活用 | 課題や感想をGoogle Formで提出してもらいます。 | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの活用 | | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | よいレポートは授業内で取り上げます。 | | | | | |
| テキスト | プリントを授業内で配布します。 | | | | | |
| 参考書・教材 | | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | オリエンテーション 心理学の理論、心理学の歴史概論 [課題（復習）]Googleフォームにて復習テストを受ける。学んだ内容を復習し、心理学理論の歴史について理解する（4h） | | | | | |
| 2 | 理論1：精神分析 無意識、防衛機能について 精神分析理論を用いた音楽療法について 教材視聴 [課題（復習）]Googleフォームにて復習テストを受ける。学んだ内容を復習し、精神分析と音楽療法の関連について理解する（4h） | | | | | |
| 3 | 自己防衛メカニズムについて [課題（復習）]指定する書式に沿ってレポート課題を提出する（4h） | | | | | |
| 4 | 理論2-1：行動療法 学習と強化について [課題（復習）]学んだ内容を復習し、行動療法の理論的背景とアプローチについて理解する（4h） | | | | | |
| 5 | 理論2-2：行動療法を用いた音楽療法 目標設定と般化について [課題（復習）]学んだ内容を復習し、行動療法の音楽療法の目標設定について理解する（4h） | | | | | |
| 6 | 理論3-1：人間主義 クライエント中心療法、カウンセリングについて 受容と共感 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、人間主義的関わりとこれまでの理論の違いを理解する（4h） | | | | | |
| 7 | 理論3-2：人間主義的音楽療法 創造的音楽療法について 教材視聴 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、即興を用いる音楽療法の目的を理解する（4h） | | | | | |
| 8 | 聴覚障害と音楽療法1 聴こえの仕組み、耳の構造、難聴の定義 教材視聴 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、聴こえの仕組みについて理解する（4h） | | | | | |
| 9 | 聴覚障害と音楽療法2 人工内耳と聴覚リハビリテーション、手話とろう文化 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、聴覚障害の治療についての問題を理解する（4h） | | | | | |
| 10 | 重度重複障害者に対する音楽療法1 ゲストスピーカーを招いて学ぶ。対象者理解と適切な目標設定、音楽活動について [課題（復習）]学んだ内容を復習し、対象者の特性と目標、活動について理解する（4h） | | | | | |
| 11 | 不登校とカウンセリング 不登校の歴史、カウンセリングで重視すること 不登校児童と音楽療法 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、対象者の特性と目標、活動について理解する（4h） | | | | | |
| 12 | 意識障害と音楽療法 昏睡患者に対する音楽療法、NICUにおける音楽療法 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、対象者の特性と目標、活動について理解する（4h） | | | | | |
| 13 | 医療現場における音楽療法の役割 疼痛緩和、ストレスの軽減、チーム医療としての音楽療法士の役割について [課題（復習）]学んだ内容を復習し、対象者の特性と目標、活動について理解する（4h） | | | | | |
| 14 | レポート課題について説明、文献の調べ方、書き方について [課題（復習）]学んだ内容の復習、レポート作成（4h） | | | | | |

| 内容 | |
|-------------|---|
| 実施回 | 授業内容・目標 |
| 15 | 他職種との連携と音楽療法活動 [課題(復習)]学んだ内容の復習、レポート作成(4h) |
| 時間外での学修 | 毎回宿題が出ますので準備をしてください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:60時間】 |
| 受講学生へのメッセージ | 課題のレポート、練習問題の成績比率が成績評価に関係してきます。 オフィスアワーは研究室(B403:B号館4階)で毎週火曜日の13:00~14:30です。 |

| 【3T7A115】音楽療法・技法 | | 音楽総合学科 | | 2年後期 | | |
|------------------|---|--|----------|------|----------|-------|
| 教員 | 菅田 文子 | 2単位 | 選択 | 講義 | 30時間 | |
| 資格・制限等 | 特になし | | | | | |
| 実務家教員 | 音楽療法関連施設職員・5年、音楽療法実践30年 | | | | | |
| 授業方法 | 講義形式ですが演習も含みます。小グループでの討論、検討結果の発表も行います。 | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 音楽療法の技法について基本的な知識を得ておりそれぞれの理解ができている。 | | | | |
| | 思考・判断・表現 | 音楽療法に関連する分野についての基本的な知識を持ち、どの分野にどの技法が適しているか判断できる。 | | | | |
| | 技能 | 対象者の理解をふまえた音楽療法の計画ができる。 | | | | |
| | 関心・意欲・態度 | 人前で意欲的に発表できる。 | | | | |
| | 備考 | ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。 | | | | |
| 授業内容 | 音楽療法士として必要な音楽技法や心理的援助方法、集団をまとめる方法についての知識を学びます。臨床の現場で発生する問題や課題について解決方法をクラス内で討議し、問題解決能力の向上をはかります。 | | | | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 評価方法 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 筆記試験 | 30 | 20 | - | - | 50 |
| | レポート | 20 | 10 | 10 | - | 40 |
| | 受講態度 | - | - | - | 10 | 10 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計(点) | 50 | 30 | 10 | 10 | 100 |
| 評価の特記事項 | 3分の1以上欠席した学生は期末試験の受験資格がありません。 課題の発表を行わない学生は期末試験の受験資格がありません。 | | | | | |
| ICT活用 | 学生ポータルやGoogle Formで課題を提出してもらいます。 | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの活用 | | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | 良いレポートは授業内でとりあげます。 | | | | | |
| テキスト | 授業中にプリントを配付します。 | | | | | |
| 参考書・教材 | | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | 認知機能を測る標準化されたテストについて：かなひろいテスト、MMSE、長谷川式について [課題(復習)]学んだ内容を復習し、自分でテストを実施する練習をする(4h) | | | | | |
| 2 | 新版長谷川式テストを一人ずつ行い点数計算ができるようになる。それぞれの待ち時間には移調課題を行う。 [課題(復習)]学んだ内容を復習し、回想法課題の準備を行う(4h) | | | | | |
| 3 | 回想法について：手順と方法について学ぶ。各自持参した回想法に使う道具を発表する。 学習療法について：手順と方法について学ぶ。簡単なクイズの作成、発表を行う。 [課題(復習)]学んだ内容を復習し、回想法と学習療法について理解する(4h) | | | | | |
| 4 | Anglia Ruskin University作成のDVD "Music Therapy for Children on the Autistic Spectrum" "Timothy: Music Therapy with a Little Boy who has Asperger Syndrome"を視聴、海外の音楽療法のアプローチと日本のアプローチの違いについて学ぶ。 [課題(復習)]学んだ内容を復習し、自閉症スペクトラム児童の特徴と音楽療法について理解する(4h) | | | | | |
| 5 | 倫理について：音楽療法士の職業倫理について事例から学ぶ。グループ討論 [課題(復習)]学んだ内容を復習し、音楽療法士の倫理について理解する(4h) | | | | | |
| 6 | 回想法と音楽療法の組み合わせ：対象者にとって重要な出来事や時期に合致する選曲を行い、どのように声かけを行うか発表する。 [課題(復習)]学んだ内容を復習し、高齢者が懐かしく感じる曲についてまとめる(4h) | | | | | |
| 7 | 学習療法と音楽療法の組み合わせ：歌唱や楽器演奏を取り入れることで言葉を記憶しやすくしたり、複数の活動を一度に行う方法について発表する。曲名を連想するクイズを作成する。 [課題(復習)]学んだ内容を復習し、使用する曲を練習する(4h) | | | | | |
| 8 | 矯正施設における音楽療法：音楽を用いたカウンセリングの目的や方法について学ぶ。 [課題(復習)]学んだ内容を復習し、矯正施設の特性と音楽活動の目的の関連についてまとめる(4h) | | | | | |
| 9 | NICUにおける音楽療法：実際のセッションの様子をビデオを見て学ぶ。 [課題(復習)]学んだ内容の復習(4h) | | | | | |
| 10 | 介護予防と音楽療法：障害や病気をもつ人だけでなく、高齢者社会が急速に進む日本において介護予防は喫緊の課題である。音楽療法士が勤務することの多い高齢者施設でも地域の人を対象とした介護予防に関する音楽活動に携わる機会がある。実際にゲストスピーカーを招き、介護予防と音楽療法の実際について学ぶ。 [課題(復習)]話を聴いて学んだことをレポートにまとめる(4h) | | | | | |
| 11 | 緩和ケアにおける音楽療法：ホスピス、緩和ケアにおいて音楽療法士が働いている現場はまだ少ないが、対象者本人だけではなく家族も含めた働きかけが重要となる。日本と海外のビデオを見て学ぶ。教材視聴 [課題(復習)]学んだ内容を復習し、自分の死生観について理解し、終末期ケアのニーズとの関連を考える(4h) | | | | | |
| 12 | 地域における音楽療法：従来の、対象者の問題に対する治療目的が明確な伝統的な音楽療法に加えて近年コミュニケーション音楽療法という概念が出てきている。地域を対象とした音楽活動について、実際に地域で活動している音楽療法士をゲストに招いて学ぶ。 [課題(復習)]話を聴いて学んだことをレポートにまとめる(4h) | | | | | |
| 13 | 日本で発達した音楽療法1：欧米だけでなく、日本の実情に合わせて発達してきた音楽療法の手法について基本的な概念を学ぶ。ミュージックケア、ミュージックボランティアなど [課題(復習)]学んだ内容を復習しまとめる(4h) | | | | | |

| 実施回 | 内容 |
|-----------------|--|
| | 授業内容・目標 |
| 14 | 日本で発達した音楽療法 2：音楽運動療法、現在の音楽療法の課題など 音楽療法を現場で実践するにあたっての業務、予算、計画申請などについて。これまでの授業の振り返り [課題（復習）]学んだ内容の復習（4h） |
| 15 | 授業全体の振り返り 期末テスト |
| 時間外での学修 | 毎週課題が出されます。宿題として評価の対象になります。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】 |
| 受講学生への メッセージ | 知識と、自分で考える能力の両方が現場では必要とされます。自分ならどうするのか、常に考えながら授業に臨んでください。オフィスアワーは研究室（B403：B号館4階）で毎週火曜日の13：00～14：30です。 |

| 【3T7S218】音楽療法実践 | | 音楽総合学科 | 2年前期 | | | |
|-----------------|--|--|----------|------|----------|-------|
| 1単位 | | 選択 | 演習 | 30時間 | | |
| 教員 | 日比 あけみ | | | | | |
| 資格・制限等 | 特になし | | | | | |
| 実務家教員 | 福祉および医療現場にて音楽療法実践20年 | | | | | |
| 授業方法 | 学内での演習および学外での実践。 | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 目標に沿って適切な活動の組み立てを考えることができる。 | | | | |
| | 思考・判断・表現 | 全体の活動の流れを見通しながら、自分の役割に責任を持つことができる。 | | | | |
| | 技能 | 「高齢者から学ぶ」という謙虚な態度で実践に臨むことができる。 | | | | |
| | 関心・意欲・態度 | 活動を振り返ることで、どのような働きかけが望ましいのか考えることができます。 | | | | |
| | 備考 | ・・・の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。 | | | | |
| 授業内容 | 高齢者施設での実践を通して対象者への理解をより深めるとともに、好ましい接し方や適切な働きかけ方を身につけます。 | | | | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 評価方法 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 実践発表 | 20 | 20 | 20 | - | 60 |
| | 受講態度 | - | - | - | 10 | 10 |
| | レポート | - | - | - | 20 | 20 |
| | 期末試験 | 10 | - | - | - | 10 |
| | 合 計(点) | 30 | 20 | 20 | 30 | 100 |
| 評価の特記事項 | | | | | | |
| ICT活用 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの活用 | 障がい者や高齢者の日常生活における情報収集 | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | 課題やレポートにコメントを返します。 | | | | | |
| テキスト | 『歌の宝石箱 手あそび歌付』ドレミ楽譜出版社(2,160円) ISBN:978-4285142761 | | | | | |
| 参考書・教材 | 資料を配布します。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | オリエンテーション(年間計画・課題の確認) [準備・課題]課題における目標設定(1~3h) | | | | | |
| 2 | アセスメントを目的とした施設訪問 [準備・課題]施設訪問における目標設定と振り返り(1~3h) | | | | | |
| 3 | 高齢者施設での音楽活動 「高齢者理解」準備 [準備・課題]実践に向けての事前調査・個人練習(1~3h) | | | | | |
| 4 | 高齢者施設での音楽活動 「高齢者理解」リハーサル [準備・課題]活動についての意見交換・見直し(1~3h) | | | | | |
| 5 | 高齢者施設での音楽活動 「高齢者理解」実践 [準備・課題]イメージトレーニング、活動の確認、反省(1~3h) | | | | | |
| 6 | 活動 の振り返り [準備・課題]実践記録のまとめ(1~3h) | | | | | |
| 7 | 高齢者施設での音楽活動 「目標設定」準備 [準備・課題]実践に向けての事前調査・個人練習(1~3h) | | | | | |
| 8 | 高齢者施設での音楽活動 「目標設定」リハーサル [準備・課題]活動についての意見交換・見直し(1~3h) | | | | | |
| 9 | 高齢者施設での音楽活動 「目標設定」実践 [準備・課題]イメージトレーニング、活動の確認、反省(1~3h) | | | | | |
| 10 | 活動 の振り返り [準備・課題]実践記録のまとめ(1~3h) | | | | | |
| 11 | 高齢者施設での音楽活動 「働きかけ」準備 [準備・課題]実践に向けての事前調査・個人練習(1~3h) | | | | | |
| 12 | 高齢者施設での音楽活動 「働きかけ」リハーサル [準備・課題]活動についての意見交換・見直し(1~3h) | | | | | |
| 13 | 高齢者施設での音楽活動 「働きかけ」実践 [準備・課題]イメージトレーニング、活動の確認、反省(1~3h) | | | | | |
| 14 | 活動 の振り返り [準備・課題]実践記録のまとめ(1~3h) | | | | | |
| 15 | 援助的人間関係について [準備・課題]対象者の心情を汲みとる(1~3h) | | | | | |
| 時間外での学修 | 自分の担当になった活動は責任をもって準備してください。 【この科目で求められる望ましい授業外での総学修時間：15~45時間】 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 人前に立つには、心身ともに良好であることが大事です。いつも健康管理に気を配って実践現場に臨んでください。 オフィスアワーは授業前後の休み時間に教室で実施。 | | | | | |

| 【3T7A219】音楽療法実践 | | 音楽総合学科 | | 2年後期 | |
|-----------------|---|---|----------|------|----------|
| 教員 | 日比 あけみ | 1単位 | 選択 | 演習 | 30時間 |
| 資格・制限等 | 特になし | | | | |
| 実務家教員 | 福祉および医療現場にて音楽療法実践20年 | | | | |
| 授業方法 | 学内での演習。実践形式で行います。 | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 対象者のニーズに合った目標と活動の組み立てを考えることができます。 | | | |
| | 思考・判断・表現 | 対象者の好みの歌を知り、弾き歌いができるようにする。 | | | |
| | 技能 | 対象者の心情を汲みとりながら、活動を進めることができます。 | | | |
| | 関心・意欲・態度 | 活動を振り返ることで、どのような働きかけ方が望ましいのか考えることができます。 | | | |
| | 備考 | ・・・の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。 | | | |
| 授業内容 | 対象者のポジティブな部分を大切にした音楽活動を計画します。また、分野別・形態別に学ぶことで多様性のある働きかけ方を身につけます。 | | | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 評価方法 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 |
| | 実践発表 | 20 | 20 | 20 | - |
| | 受講態度 | - | - | - | 10 |
| | レポート | - | - | - | 20 |
| | 期末試験 | 10 | - | - | - |
| | 合 計(点) | 30 | 20 | 20 | 30 |
| 評価の特記事項 | | | | | |
| ICT活用 | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの活用 | 障がい者や高齢者の日常生活における情報収集 | | | | |
| 課題に対するフィードバック | 課題やレポートにコメントを返します。 | | | | |
| テキスト | 『弾き語りキーボード・セッション(1) 音楽療法の必須100曲 高齢者編』あおぞら音楽社(2,484円) ISBN:978-4904437032 『弾き語りキーボード・セッション(2) 音楽療法の必須100曲 子ども編』あおぞら音楽社(2,484円) ISBN:978-4904437049 『弾き語りキーボード・セッション(3) 音楽療法の必須100曲 おとな編』あおぞら音楽社(2,646円) ISBN:978-4904437056 | | | | |
| 参考書・教材 | 資料を配布します。 | | | | |
| 内容 | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | |
| 1 | オリエンテーション(年間計画の確認) 個人セッション(高齢者)の活動準備 [準備・課題]事前調査、計画(1~3h) | | | | |
| 2 | 個人セッション(高齢者)の練習 [準備・課題]練習、見直し(1~3h) | | | | |
| 3 | 個人セッション(高齢者)の発表 [準備・課題]イメージトレーニング、活動の確認、反省(1~3h) | | | | |
| 4 | 活動の振り返り [準備・課題]意見交換、実践記録のまとめ(1~3h) | | | | |
| 5 | 個人セッション(成人)の活動準備 [準備・課題]事前調査、計画(1~3h) | | | | |
| 6 | 個人セッション(成人)の練習 [準備・課題]練習、見直し(1~3h) | | | | |
| 7 | 個人セッション(成人)の発表 [準備・課題]イメージトレーニング、活動の確認、反省(1~3h) | | | | |
| 8 | 活動の振り返り [準備・課題]意見交換、実践記録のまとめ(1~3h) | | | | |
| 9 | 個人セッション(児童)の活動準備 [準備・課題]事前調査、計画(1~3h) | | | | |
| 10 | 個人セッション(児童)の練習 [準備・課題]練習、見直し(1~3h) | | | | |
| 11 | 個人セッション(児童)の発表 [準備・課題]イメージトレーニング、活動の確認、反省(1~3h) | | | | |
| 12 | 活動の振り返り [準備・課題]意見交換、実践記録のまとめ(1~3h) | | | | |
| 13 | 少人数グループセッションの活動準備および練習 [準備・課題]事前調査、計画、練習、見直し(1~3h) | | | | |
| 14 | 少人数グループセッションの発表 [準備・課題]イメージトレーニング、活動の確認、反省(1~3h) | | | | |
| 15 | 活動の振り返り [準備・課題]意見交換、実践記録のまとめ(1~3h) | | | | |
| 時間外での学修 | 様々なボランティア活動に参加し、人と多く関わることで柔軟性を身につけてください。 【この科目で求められる望ましい授業外での総学修時間: 15~45時間】 | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | いろいろな立場になって活動を進めます。お互いに気付いたことを伝え合える関係づくりに努めてください。 オフィスアワーは授業前後の休み時間に教室で実施。 | | | | |

| 【3P1S217】卒業研究 (ピアノコース) | | 音楽総合学科 | | 2年前期 | | | |
|------------------------|---|---|-------|----------|------|----------|-------|
| 教員 | 横井 香織 | 2単位 | 必修 | 演習 | 30時間 | | |
| 資格・制限等 | 特になし | | | | | | |
| 実務家教員 | 横井 : 音楽教室講師・10年 三ツ橋 : 音楽教室講師・9年 | | | | | | |
| 授業方法 | 演習を中心とした個人レッスンを行います。音楽的知識や技術・表現力修得の確認のため、学修成果の発表も含めて授業を展開していきます。質問等は授業時やメール等で受け付けます。 | | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 作曲家や作品などについての知識を身に付け、音楽的知識を充分に活用し、楽曲理解に繋げることができる。 | | | | | |
| | 思考・判断・表現 | 作品に対するイメージや考えのもと、演奏表現をすることができる。 | | | | | |
| | 技能 | 卒業年次にふさわしい演奏技術を身に付けることができる。 | | | | | |
| | 関心・意欲・態度 | 自己の内面・感性を磨き、積極的な取り組みができる。 | | | | | |
| | 備考 | ・・・の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。 | | | | | |
| 授業内容 | 各々の希望する楽曲を1~2曲取り組み、演奏テクニックと表現力を高め、高度な演奏を目指します。 | | | | | | |
| 観点別評価 | 評価方法 | 評価の観点 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 実技試験 | | - | 35 | 35 | - | 70 |
| | レポート | | 15 | - | - | - | 15 |
| | 受講態度 | | - | - | - | 15 | 15 |
| | | | | | | | |
| | | 合 計(点) | 15 | 35 | 35 | 15 | 100 |
| 評価の特記事項 | 実技試験は任意の曲の演奏を最終試験(前期定期試験)で行います。レポートは取り組んでいる楽曲について研究したこと記述し提出してもらいます。フィードバックとしてレポートにコメントを返し、実技試験実施後に講評を行います。受講態度は学修への取組状況で評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験(実技試験)の受験資格はありません。 | | | | | | |
| ICT活用 | ICTを活用した自主学習支援(Gmailなど) | | | | | | |
| アクリティブ・ラーニングの活用 | グループ・ディスカッション | | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | 毎週の課題については次回の授業でコメントし、指導に活かします。 | | | | | | |
| テキスト | | | | | | | |
| 参考書・教材 | 個々に合わせて選択します。 | | | | | | |
| 内容 | | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | | |
| 1 | ガイダンス:授業の進め方 レッスン:譜読みの確認 [課題(準備・復習)] レッスンでのアドバイスを踏まえ、各課題に取り組み、準備・復習をする(2~3h) | | | | | | |
| 2~13 | レッスン ・正確な譜読み ・テクニックの向上 ・音楽用語の理解 ・曲想 ・バランスづくり ・音色研究 ・豊かな音楽表現 ・響きの追求など 課題の確認 [課題(準備・復習)] 毎回のレッスンでのアドバイスを踏まえ、各課題に取り組み、準備・復習をする(各2~3h) | | | | | | |
| 14 | 学修成果の発表:お互いの演奏について講評し合い、各々の演奏に活かす [課題(準備・復習)] 発表に向けて弾き込む 講評を参考にして各課題に取り組む(2~3h) | | | | | | |
| 15 | レッスン:試験曲の仕上げ ・テクニックの向上 ・曲想 ・バランスづくり ・音色研究 ・豊かな音楽表現 ・響きの追求など 課題の確認 [課題(準備・復習)] レッスンでのアドバイスを踏まえ、各課題に取り組み、総仕上げをする(各2~3h) | | | | | | |
| 時間外での学修 | 授業外での毎日の練習はもちろん、演奏会等に出掛けで様々な音楽を聴く、作曲家や作品について調べる、西洋の風景や歴史・文化に触れるなど、音楽的素養を更に身に付け、感性を磨き、自分の技術や音楽性を充分に表現できるよう幅広い学修を行いましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:30~45時間】 | | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 心と頭と身体を使い、一音一音に心を込めた演奏を心掛けましょう。 オフィスアワーは各レッスン室で授業前後の休み時間です。 | | | | | | |

| 【3W5S219】卒業研究 (ウインド・アンサンブルコース) | | 音楽総合学科 | 2年前期 | | | |
|--------------------------------|---|--|----------|------|----------|-------|
| 2単位 | | 必修 | 演習 | 30時間 | | |
| 教員 | 森岡 佐和 | | | | | |
| 資格・制限等 | 特になし | | | | | |
| 実務家教員 | オーケストラ25年 | | | | | |
| 授業方法 | 個人レッスン 伴奏有り(実技試験) | | | | | |
| 到達目標 | 技能 | 譜面を正確に演奏した後、楽譜を深く読み込み個性を生かした表現力豊かな演奏ができる | | | | |
| | 関心・意欲・態度 | 演奏技術向上に向け積極的に取り組むことができる | | | | |
| | 備考 | ・・の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。 | | | | |
| 授業内容 | 前期実技試験に向け正確な譜読み、演奏技術、個性を生かした表現力の向上を図る個人レッスンを行います 個々で決めた楽曲を深く理解した上で、如何に演奏で表現するかを研究します | | | | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 評価方法 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 実技試験 | - | - | 70 | - | 70 |
| | 受講態度等 | - | - | - | 30 | 30 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計(点) | - | - | 70 | 30 | 100 |
| 評価の特記事項 | | | | | | |
| ICT活用 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの活用 | 活用なし | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | レッスン時に指摘された箇所が修正されているかを次回のレッスンでチェックします | | | | | |
| テキスト | | | | | | |
| 参考書・教材 | | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | 前期の目標を定め楽曲を絞る 【課題】予習：前期楽曲候補曲の譜読み(1h) | | | | | |
| 2～15 | 前期に取り組む楽曲を、個々の進捗状況を見極めながらレッスンを進め、問題点を指摘 【課題】復習：レッスンで指摘を受けた箇所を復習(1h～2h) 予習：楽曲継続練習(1h～2h) | | | | | |
| 時間外での学修 | 前期に取り組む楽曲を、個々の進捗状況を見極めながらレッスンを進める 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：29～57時間】 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 悔いの残らない演奏を! オフィスアワーは、講義終了後、各教室で行います。 その他、B204研究室にも気軽に相談に来てください。 | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|----------------------------|---|--|-------|----------|----|--|--|--|--|
| 【3R6S229】卒業研究 (管打楽器リハーコース) | | 音楽総合学科 | | 2年前期 | | | | | |
| 2単位 | | 必修 | | 演習 | | | | | |
| 教員 | 松永 幸宏・鬼頭 加奈 | | | | | | | | |
| 資格・制限等 | 特になし | | | | | | | | |
| 実務家教員 | 松永: 楽器店修理販売職・19年、鬼頭: 楽器店修理販売職・10年 | | | | | | | | |
| 授業方法 | 演習形式。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 仕組み、構造理解を基本として、今日に至る変遷等について知識と持ち理解が出来る。 | | | | | | | |
| | 思考・判断・表現 | 管楽器等の構造や仕組みを理解して、自らが考えるテーマに沿っての考え方や表現が出来る。 | | | | | | | |
| | 技能 | プレゼンテーションを十分に理解し、資料も纏め方や、伝達方法がしっかりと出来ている。 | | | | | | | |
| | 関心・意欲・態度 | 楽器全般に関する関心や興味を日頃から持ち続け、自らが率先してリペア技能や知識向上を図ることが出来る。 | | | | | | | |
| | 備考 | ・○・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。 | | | | | | | |
| 授業内容 | 自分で決めたテーマについて調べ、一年かけて製作・資料作りを行います。面談(個人、グループ)でテーマの進み具合を担当教員と話し合います。 | | | | | | | | |
| 観点別評価 | 評価方法 | 評価の観点 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | | | | |
| | レポート | 30 | 40 | 20 | - | | | | |
| | 受講態度 | - | - | - | 10 | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | 合 計(点) | 30 | 40 | 20 | | | | |
| 評価の特記事項 | 受講態度は学修取り組み、技術向上への意欲等の状況で評価します。 | | | | | | | | |
| ICT活用 | 学生ポータル等で、ICTを活用した自主学習支援を行います。 | | | | | | | | |
| アグティブ・ラーニングの活用 | なし | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | フィードバックとして、授業内に挙手をさせ、一人ひとりの状態を確認しフィードバックする。 | | | | | | | | |
| テキスト | | | | | | | | | |
| 参考書・教材 | 1年次に購入した「管打楽器の新しい楽器学と演奏法」(上・下) 管楽器に関する文献、各社カタログ等 | | | | | | | | |
| 内容 | | | | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | | | | |
| 1 | テーマ提出 興味を持っている分野について考えテーマを考え、複数候補を提出 【課題(復習・他)】課題提出(2H) | | | | | | | | |
| 2 | テーマの決定、計画案作成 テーマが決定した学生は発資料作成の計画を立て、情報収集や製作等に必要な材料等を調べる。 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(2H) | | | | | | | | |
| 3 | テーマの決定、計画案作成 テーマが決定した学生は発資料作成の計画を立て、情報収集や製作等に必要な材料等を調べる。 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(2H) | | | | | | | | |
| 4 | 発表資料作成の計画案の提出 計画案に沿った作業内容を考える。 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(2H) | | | | | | | | |
| 5~15 | 情報収集や製作に取り掛かる。 進捗状況を確認しながら作業に取り掛かる。 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(各2H) | | | | | | | | |
| 時間外での学修 | 必要工具、作業工程を確認しながら学んだ技術を定着させる 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間: 30時間】 | | | | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 事前準備をしっかりと行い、計画に沿って作業が進むよう確認してください。 オフィスアワーは、授業後に行います。 | | | | | | | | |

| 【3T7S221】卒業研究（音楽療法コース） | | 音楽総合学科 | | 2年前期 | | |
|------------------------|---|--|----------|------|----------|-------|
| 教員 | 菅田 文子 | 2単位 | 必修 | 演習 | 30時間 | |
| 資格・制限等 | 特になし | | | | | |
| 実務家教員 | 音楽療法関連施設職員・5年、音楽療法実践30年 | | | | | |
| 授業方法 | 演習形式、口頭発表を含みます。質問等は授業時やメール等で受け付けます。 | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 論文にふさわしいテーマを決定する。 | | | | |
| | 思考・判断・表現 | 過去の文献を探し、正しく記載する。 | | | | |
| | 技能 | 論文に適した正しい文体でまとめることができる。 | | | | |
| | 関心・意欲・態度 | 継続的にテーマに対する関心を持ち、担当教員と話し合いながら論文作成を進めることができる。 | | | | |
| | 備考 | ・・の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。 | | | | |
| 授業内容 | 自分で決めたテーマについて調べ、一年かけて論文形式に仕上げます。前半2回は講義形式、それ以降は面談（個人、グループ）でテーマの進み具合を担当教員と話し合います。 | | | | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 評価方法 | | | | | |
| | 課題提出 | 20 | 20 | 20 | - | 60 |
| | 受講態度 | - | - | - | 20 | 20 |
| | 発表 | - | - | - | 20 | 20 |
| | | | | | | |
| | 合 計(点) | 20 | 20 | 20 | 40 | 100 |
| 評価の特記事項 | 3分の1以上欠席した学生は期末試験の受験資格がありません。 中間発表を行い、途中経過の論文を提出することが単位の要件となります。 フィードバックは卒業研究（音楽療法コース）の第1回目の授業で行います。 | | | | | |
| ICT活用 | | | | | | |
| アカイブ・ラーニングの活用 | 論文検索、資料を探すときにインターネットを活用します。 | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | 毎時間、個別に進み具合に応じたコメントをします。 | | | | | |
| テキスト | | | | | | |
| 参考書・教材 | 各自毎時間、自分のUSBメモリを持参すること。 授業内でプリントを配付します。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | 論文とはどのようなものか。構成、文体、引用の基礎知識 興味のあるテーマを複数探し提出する。 [課題（復習）]学んだ内容の復習、テーマ候補を複数考える（2h） | | | | | |
| 2 | 興味のあるテーマについて担当教員と個別で面談を行う。 資料の検索について [課題（準備）]論文テーマを絞り、類似するテーマの論文を読む（2h） | | | | | |
| 3 | テーマに関連する文献の検索（J-Stageなど） Web上の文章の引用について注意点 [課題（準備）]学んだ内容の復習、自分のUSBに文献用ファイルを作成する（2h） | | | | | |
| 4 | 担当教員と話し合いながら文献検索を行う。 [課題（準備）]調べた文献の内容をまとめてファイルに整理する（2h） | | | | | |
| 5 | 担当教員と話し合いながら文献検索を行う、あるいは実験計画を立てる。予備実験が必要な学生は前期のうちに行う。なぜ自分がこのテーマを選んだか書き始める。 [課題（準備）]作成した「なぜ自分がこのテーマを選んだか」を完成させる（2h） | | | | | |
| 6 | 担当教員と話し合いながら文献検索を行う、あるいは実験計画を立てる。予備実験が必要な学生は前期のうちに行う。 [課題（準備）]論文の形式にのっとった文書設定を行う、文献を読み込みまとめる（2h） | | | | | |
| 7 | 担当教員と話し合いながら文献検索を行う、あるいは実験計画を立てる。予備実験が必要な学生は前期のうちに行う。 [課題（復習）]ページ番号をファイルに入れる。文献を読み込みまとめる（2h） | | | | | |
| 8 | 担当教員と話し合いながら文献検索を行う、あるいは実験計画を立てる。予備実験が必要な学生は前期のうちに行う。 [課題（復習）]見出しの形式を整える。文献を読み込みまとめる（2h） | | | | | |
| 9 | 担当教員と話し合いながら文献検索を行う、あるいは実験計画を立てる。予備実験が必要な学生は前期のうちに行う。 [課題（準備）]図書館に行き関連する本を借り、資料としてまとめる（2h） | | | | | |
| 10 | 担当教員と話し合いながら文献検索を行う、あるいは実験計画を立てる。予備実験が必要な学生は前期のうちに行う。 [課題（準備）]Webから得た資料を文献として形式を整えて使用する（2h） | | | | | |
| 11 | 担当教員と話し合いながら文献検索を行う、あるいは実験計画を立てる。予備実験が必要な学生は前期のうちに行う。 [課題（準備）]文献のまとめを論文に正しい形で引用する（2h） | | | | | |
| 12 | 担当教員と話し合いながら文献検索を行う、あるいは実験計画を立てる。予備実験が必要な学生は前期のうちに行う。 [課題（復習）]図、表の正しい使い方、タイトルを入れる（2h） | | | | | |
| 13 | 担当教員と話し合いながら文献検索を行う、あるいは実験計画を立てる。予備実験が必要な学生は前期のうちに行う。 [課題（復習）]論文の全体を考えるために見出しと流れを書き出す（2h） | | | | | |

| 内容 | |
|-------------|---|
| 実施回 | 授業内容・目標 |
| 14 | 中間報告の準備を行う。報告は一人10分以内で、研究のテーマ 現在どこまで進めたか 後期はどのように進めるか、を口頭で報告する。ここまで進んだ論文をプリントアウトして提出する。 [課題（準備）]中間報告の準備、読む練習（2h） |
| 15 | 中間報告を行う。先週提出した論文を返却するのでコメントを確認、後期の予定を確認する。 [課題（復習）]返却されたコメントに基づき論文を訂正する（2h） |
| 時間外での学修 | 各自が授業時間外で文献を探す、まとめるなどの作業が必要です。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】 |
| 受講学生へのメッセージ | 音楽に関わるものでしたらどんなテーマでも論文となります。 自分の興味があるものをとことん追求しましょう。 オフィスアワーは研究室（B403：B号館4階）で毎週火曜日の13：00～14：30です。 |

| 【3P1A218】卒業研究 (ピアノコース) | | 音楽総合学科 | | 2年後期 | | | | | |
|------------------------|--|---|----------|------|----------|--|--|--|--|
| 教員 | 横井 香織 | 2単位 | 必修 | 演習 | 30時間 | | | | |
| 資格・制限等 | 特になし | | | | | | | | |
| 実務家教員 | 音楽教室講師・10年 | | | | | | | | |
| 授業方法 | 演習を中心とした個人レッスンを行います。音楽的知識や技術・表現力修得の確認のため、学修成果の発表も含めて授業を展開していきます。質問等は授業時やメール等で受け付けます。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 作曲家や作品などについての知識を身に付け、音楽的知識を充分に活用し、楽曲理解に繋げることができる。 | | | | | | | |
| | 思考・判断・表現 | 作品に対するイメージや考え方のと、演奏表現をすることができる。 | | | | | | | |
| | 技能 | 卒業演奏にふさわしい演奏技術を身に付けることができる。 | | | | | | | |
| | 関心・意欲・態度 | 自己の内面・感性を磨き、積極的な取り組みができる。 | | | | | | | |
| | 備考 | ・・の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。 | | | | | | | |
| 授業内容 | 各々の希望する楽曲を1~2曲取り組み、演奏テクニックと表現力を高め、高度な演奏を目指します。 | | | | | | | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | | | | |
| | 評価方法 | | | | 合計(点) | | | | |
| | 実技試験 | - | 35 | 35 | - 70 | | | | |
| | レポート | 15 | - | - | - 15 | | | | |
| | 受講態度 | - | - | - | 15 15 | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| 評価の特記事項 | 合 計(点) | 15 | 35 | 35 | 15 100 | | | | |
| | 実技試験は卒業演奏発表会として公共のホールで行います。レポートは取り組んでいる楽曲について研究したことと記述し提出してもらいます。フィードバックとしてレポートにコメントを返し、実技試験実施後に講評を行います。受講態度は学修への取組状況で評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、実技試験の受験資格はありません。 | | | | | | | | |
| ICT活用 | ICTを活用した自主学習支援 (Gmailなど) | | | | | | | | |
| アグティブ・ラーニングの活用 | グループ・ディスカッション | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | 毎週の課題については次回の授業でコメントし、指導に活かします。 | | | | | | | | |
| テキスト | | | | | | | | | |
| 参考書・教材 | 個々に合わせて選択します。 | | | | | | | | |
| 内容 | | | | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | | | | |
| 1~13 | レッスン ・正確な譜読み ・テクニックの向上 ・音楽用語の理解 ・曲想 ・バランスづくり ・音色研究 ・豊かな音楽表現 ・響きの追求 など [課題(準備・復習)] 毎回のレッスンでのアドバイスを踏まえ、各課題に取り組み、準備・復習をする (各2~3h) | | | | | | | | |
| 14 | 学修成果の発表：お互いの演奏について講評し合い、各々の演奏に活かす [課題(準備・復習)] 発表に向けて弾き込む 講評を参考にして各課題に取り組む (2~3h) | | | | | | | | |
| 15 | レッスン：仕上げ ・テクニックの向上 ・曲想 ・バランスづくり ・音楽研究 ・豊かな音楽表現 ・響きの追求 など [課題(準備・復習)] レッスンでのアドバイスを踏まえ、各課題に取り組み、総仕上げをする (2~3h) | | | | | | | | |
| 時間外での学修 | 授業外での毎日の練習はもちろん、演奏会等に出掛けて様々な音楽を聴く、作曲家や作品について調べる、西洋の風景や歴史・文化に触れるなど、音楽的素養を更に身に付け、感性を磨き、自分の技術や音楽性を充分に表現できるよう幅広い学修を行いましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30~45時間】 | | | | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 2年間の集大成となります。自分の学んだものが存分に発揮できるよう取り組みましょう。 オフィスアワーは各レッスン室で授業前後の休み時間です。 | | | | | | | | |

| | | | | | | |
|-------------------------------|---|---|----------|------|----------|-------|
| 【3W5A220】卒業研究 (ウインドアンサンブルコース) | | 音楽総合学科 | 2年後期 | | | |
| 2単位 | | 必修 | 演習 | 30時間 | | |
| 教員 | 森岡 佐和 | | | | | |
| 資格・制限等 | 特になし | | | | | |
| 実務家教員 | オーケストラ25年 | | | | | |
| 授業方法 | 個人レッスン 伴奏有り(実技試験時) | | | | | |
| 到達目標 | 技能 | 譜面を正確に演奏した後、楽譜を深く読み込み、個性を生かした表現力豊かな演奏ができる | | | | |
| | 関心・意欲・態度 | 演奏技術向上に向け積極的に取り組むことができる | | | | |
| 授業内容 | 前期試験に向け正確な譜読み、演奏技術、個性を生かした表現力の向上を図るレッスンを行います 個々で決めた楽曲を深く理解した上で、如何に演奏で表現するかを研究します | | | | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 評価方法 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 実技試験 | - | - | 70 | - | 70 |
| | 受講態度等 | - | - | - | 30 | 30 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計(点) | - | - | 70 | 30 | 100 |
| 評価の特記事項 | | | | | | |
| ICT活用 | | | | | | |
| アケティブ・ラーニングの活用 | 活用なし | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | レッスン時に指摘された箇所が修正されているかを次回のレッスンでチェックします | | | | | |
| テキスト | | | | | | |
| 参考書・教材 | | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | 前期の目標を定め楽曲を決める 【課題】復習：前期楽曲の譜読み(1h～2h) 予習：前期楽曲候補を絞る(1h～2h) | | | | | |
| 2～14 | 個々の進捗状況を見極めながらレッスンを進め問題点を指摘 【課題】復習：レッスンで指摘を受けた箇所を練習(1h～2h) 予習：楽曲継続練習(1h～2h) | | | | | |
| 15 | 前期発表 履修者全員の前で発表し問題点を指摘 【課題】復習：発表で指摘された箇所を練習(1h～2h) 予習：楽曲の仕上げ(1h～2h) | | | | | |
| 時間外での学修 | 前期に取り組む楽曲を、個々の進捗状況を見極めながらレッスンを進める 【この科目で求める授業外での総学修時間：29h～57h】 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 悔いの残らない演奏を！オフィスアワーは、講義終了後、各教室で行います。その他、B204研究室にも気軽に相談に来てください。 | | | | | |

| 【3R6A230】卒業研究 (管打楽器リハーコース) | | 音楽総合学科 | | 2年後期 | | | |
|----------------------------|---|--|-------|----------|------|----------|-------|
| 教員 | 松永 幸宏・鬼頭 加奈 | 2単位 | 必修 | 演習 | 30時間 | | |
| 資格・制限等 | 特になし | | | | | | |
| 実務家教員 | 松永: 楽器店修理販売職・19年、鬼頭: 楽器店修理販売職・10年 | | | | | | |
| 授業方法 | 演習形式。 | | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 仕組み、構造理解を基本として、今日に至る変遷等について知識と持ち理解が出来る。 | | | | | |
| | 思考・判断・表現 | 管打楽器等の構造や仕組みを理解して、自らが考えるテーマに沿っての考え方や表現が出来る。 | | | | | |
| | 技能 | プレゼンテーションを十分に理解し、資料も纏め方や、伝達方法がしっかりと出来ている。 | | | | | |
| | 関心・意欲・態度 | 楽器全般に関する関心や興味を日頃から持ち続け、自らが率先してリペア技能や知識向上を図ることが出来る。 | | | | | |
| | 備考 | ・○・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。 | | | | | |
| 授業内容 | 自分で決めたテーマについて調べ、一年かけて製作・資料作りを行います。面談(個人、グループ)でテーマの進み具合を担当教員と話し合います。 | | | | | | |
| 観点別評価 | 評価方法 | 評価の観点 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 自己評価 | - | 15 | 15 | - | 30 | |
| | 発表(グループ発表含む) | 15 | 25 | 20 | - | 60 | |
| | 受講態度 | - | - | - | 10 | 10 | |
| | | | | | | | |
| | | 合 計(点) | 15 | 40 | 35 | 10 | 100 |
| 評価の特記事項 | 受講態度は学修取り組み、技術向上への意欲等の状況で評価します。 | | | | | | |
| ICT活用 | 学生ポータル等で、ICTを活用した自主学習支援を行います。 | | | | | | |
| アグティブ・ラーニングの活用 | なし | | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | フィードバックとして、授業内に挙手をさせ、一人ひとりの状態を確認しフィードバックする。 | | | | | | |
| テキスト | | | | | | | |
| 参考書・教材 | 1年次に購入した「管打楽器の新しい楽器学と演奏法」(上・下) 管楽器に関する文献、各社カタログ等 | | | | | | |
| 内容 | | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | | |
| 1~4 | 情報収集や製作に取り掛かる～ 進捗状況を確認しながら作業に取り掛かる。 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(2H) | | | | | | |
| 5~10 | 卒業研究発表資料作成～ 製作等仕上げた作品や調べた内容に基づきパワーポイントを使い発表資料を作成する。 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(各2H) | | | | | | |
| 11 | 卒業研究発表リハーサル、発表資料修正 発表本番を想定してのリハーサル、及び資料修正 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(2H) | | | | | | |
| 12 | 卒業研究発表リハーサル、発表資料修正 発表本番を想定してのリハーサル、及び資料修正 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(2H) | | | | | | |
| 13 | 卒業研究発表資料最終確認 卒業研究発表資料の最終確認を行い提出 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(2H) | | | | | | |
| 14 | 卒業研究発表 与えられた時間内で、研究の成果を発表 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(2H) | | | | | | |
| 15 | 自己評価提出 卒業研究発表を終え、各自の自己評価をまとめる 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(2H) | | | | | | |
| 時間外での学修 | 必要工具、作業工程を確認しながら学んだ技術を定着させる 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間: 30時間】 | | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 事前準備をしっかりとを行い、計画に沿って作業が進むよう確認してください。 オフィスアワーは、授業後に行います。 | | | | | | |

| 【3T7A222】卒業研究 (音楽療法コース) | | 音楽総合学科 | | 2年後期 | | |
|-------------------------|--|--|----------|------|----------|-------|
| 教員 | 菅田 文子 | 2単位 | 必修 | 演習 | 30時間 | |
| 資格・制限等 | 特になし | | | | | |
| 実務家教員 | 音楽療法関連施設職員・5年、音楽療法実践30年 | | | | | |
| 授業方法 | 演習形式、最終的に口頭発表を行う。質問等は授業時やメール等で受け付けます。 | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 正しく先行研究論文の引用ができる。 | | | | |
| | 思考・判断・表現 | 考察に自分の考えを正しい方法でまとめることができる。 | | | | |
| | 技能 | 心理学論文の形式で卒業論文を提出する。(30字×40行、10枚以上) 発表用の抄録をまとめることができる。 | | | | |
| | 関心・意欲・態度 | 関心を持ったテーマに継続的に取り組み、指導教員と話し合いながら作成する ことができる。初めて聞く人を対象としてわかりやすいプレゼンテーションができる。 | | | | |
| | 備考 | ・・・の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。 | | | | |
| 授業内容 | 前期に行った中間報告を踏まえて、さらに実験や考察を重ねて1本の論文を完成させる。 | | | | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 評価方法 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 課題提出 | 20 | 20 | 20 | - | 60 |
| | 受講態度 | - | - | - | 20 | 20 |
| | 発表 | - | - | - | 20 | 20 |
| | | | | | | |
| | 合 計(点) | 20 | 20 | 20 | 40 | 100 |
| 評価の特記事項 | 3分の1以上欠席した学生は期末試験の受験資格がありません。 発表および論文の期日内での提出が単位の要件となります。 | | | | | |
| ICT活用 | アカイブ・ラーニングの活用 | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | 論文や資料の検索にインターネットを活用します。 | | | | | |
| テキスト | 各自毎時間、自分のUSBメモリを持参すること | | | | | |
| 参考書・教材 | 授業内でプリントを配付します。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | 教員の指示に従い自分の研究をすすめる。 [課題(復習)]コメントに応じて訂正した論文を教員と共有し今後の方針を決定する(2H) | | | | | |
| 2 | 教員の指示に従い自分の研究をすすめる。 [課題(復習)]論文の全体像がわかるように目次の作成を始める(2H) | | | | | |
| 3 | 教員の指示に従い自分の研究をすすめる。 [課題(復習)]これまで調べた内容を基に考察を書き始める(2H) | | | | | |
| 4 | 教員の指示に従い自分の研究をすすめる。 [課題(復習)]考察の方向性について教員の指導を受ける(2H) | | | | | |
| 5 | 教員の指示に従い自分の研究をすすめる。 [課題(復習)]全体の論旨の流れが不自然でないか確認する(2H) | | | | | |
| 6 | 教員の指示に従い自分の研究をすすめる。 [課題(復習)]結語部分を作成する(2H) | | | | | |
| 7 | 教員の指示に従い自分の研究をすすめる。 [課題(復習)]テーマと考察が関連しているか、「はじめに」で述べた部分がすべて検討されているかを確認する(2H) | | | | | |
| 8 | 教員の指示に従い自分の研究をすすめる。 [課題(復習)]教員あるいは他の学生に読んでもらいわかりにくい箇所がないか確認する(2H) | | | | | |
| 9 | 教員の指示に従い自分の研究をすすめる。 [課題(復習)]英数字を半角にする、通しで文献番号をつける(2H) | | | | | |
| 10 | 教員の指示に従い自分の研究をすすめる。 [課題(復習)]論文タイトル、各章タイトルの形式を整える(2H) | | | | | |
| 11 | 教員の指示に従い自分の研究をすすめる。 [課題(復習)]図と表の形式をチェックし、通し番号をつける(2H) | | | | | |
| 12 | 本文提出第一次締切日(30字×40行、10枚以上。表紙と目次は本文に含まない。文献リストを含む)[課題(復習)]文献リストを完成させる(2H) | | | | | |
| 13 | 抄録締切日 (A4サイズで1~4枚以内、電子データも提出する)[課題(復習)]抄録をまとめる。誤字脱字をチェックし、文献リストをつける(2H) | | | | | |
| 14 | 卒業論文発表会リハーサル。各自抄録を読み(筆者・私、である。ですますに口語体に変えて読む)、より効果的なプレゼンテーションの工夫を行う。[課題(復習)]抄録を読む練習を行う(2H) | | | | | |
| 15 | 卒業論文発表会。各自が行った研究について1人10分の発表を行う。卒業論文最終締切。 [課題(復習)]他の学生の発表にコメントする。表紙、目次も含む完成した論文を提出する(2H) | | | | | |
| 時間外での学修 | 各自が授業時間外で文献を探す、まとめるなどの作業が必要です。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:60時間】 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 短大で卒業論文を課すところは多くありませんが、卒業後に、文書で音楽療法の成果をまとめる機会は意外と多いものです。将来の自分のために頑張りましょう。 オフィスアワーは研究室(B403: B号館4階)で毎週火曜日の13:00~14:30です。 | | | | | |